

令和8年度

市営住宅建設事業

市営恵下山住宅外壁等改修工事

仕様書

施 工 場 所 東広島市西条町助実

# 特 約 事 項

受注者は、工事施工業者の社会的責任において信義、誠実に施工するとともに次の事項について十分遵守すること。

1. 供用中の市営住宅改修である。工程調整、断水、停電、仮設、重機の設置等については居住者に最大限の配慮を行い、施設管理者と十分協議の上、生活への支障が最小になるように努めること。また、入退去者がいる場合は、引越し作業等を優先すること。
2. 本工事の施工にあたり、適用を受ける関係法令等を遵守し、工事の円滑な進行を図ること。また、関係法令等に基づく関係官公署等への必要な届出手続きを遅滞なく行うこと。
3. 現場作業時間は、原則月曜日から金曜日の8時から17時までとし、土曜日・日曜日は休工とすること。ただし、現場条件及び工程の進捗状況等により、あらかじめ施設管理者と打合せの上、監督職員の下承が得られた場合はこの限りではない。なお、居ながら工事であるため作業時間は事前に入居者へ通知すると共に、必要に応じて入居者へ説明を行うこと。
4. 本工事受注者および関係者は、工事期間中の進入路、仮設物に留意し、かつ、通行車両、通行人などへの安全確保は受注者にて万全を期すこと。
5. 仮囲い等仮設物の設置に関しては、図面（A-38）～（A-39）を参考として、施設管理者、監督職員と十分協議の上、安全対策に万全を期して行うこと。  
なお、図面（A-38）～（A-39）に記載の工事ヤード以外に、別敷地の市営寺山住宅の敷地内に工事用車両の駐車場として5台程度、提供予定である。利用する場合は、事前に施設管理者及び監督職員と協議を行うこと。
6. 資材置場の提供場所に関しては、1号棟及び2号棟倉庫の解体跡地とするため、工事に先立ち倉庫解体工事を行うこと。また、当該場所以外を資材置場とする場合はこの限りではない。  
※2号棟倉庫解体後は北側隣接地との高低差があるため、転落防止対策を行うこと。なお、跡地利用する場合は事前に監督職員と協議を行うこと。

7. 工事期間中は適宜交通誘導警備員を配置し、通行人等に対する安全対策に万全を期すること。資材等を頻繁に搬出入するなどの交通に支障を来すおそれがある場合は、必要に応じて交通誘導警備員を増員すること。  
交通誘導警備員の配置人数は、工事着手後、規制を要する日から合計 175 人を見込んでいる。ただし、現場条件の変更等により、交通誘導警備員の人数変更が必要となった場合には、事前に監督職員と協議を行ったうえで変更対象とする。
8. 現場着手に先立ち、施工計画（工程計画・仮設計画・安全管理計画等）作成のための現地調査等を十分に行うこと。なお、調査に際しては、施設管理者と協議し、居住者の生活等に支障のないように行うこと。また、本工事に支障ある埋設物及び障害物などの処理は、監督職員の指示に従い施工すること。
9. 現場作業に当ってはゴミ収集、ガスボンベ交換、電気・水道の検針、郵便等の配達、入居者の車両の駐車などに支障のないよう配慮すること。
10. 近隣から苦情等が発生した場合は、誠実に対応すると共に、監督職員と十分協議の上、受注者の責任において処理すること。
11. 万一、工事が原因で、近隣及び公共施設等に損害を与えた場合は、受注者の責任において補償すること。
12. 工事が原因で関係者及び近隣住民等への日常生活に影響を及ぼす恐れのある次の事項などに十分留意し、看板の設置等による工事内容の事前周知、関係者に説明、協議を行い、工事の進捗を図ること。
  - ・騒音、振動、防塵、電波障害等
  - ・工事関係車両の進入路及びやむを得ない通行止め
  - ・工事関係車両の駐車禁止及び待機場所の確保
  - ・公共施設などに影響を及ぼした場合の復旧
13. 労働安全衛生法施行令第13条第3項第28号における墜落制止用器具の着用は、「墜落制止用器具の規格」（平成31年1月25日厚生労働省告示第11号）による墜落制止用器具（フルハーネス型墜落制止用器具、胴ベルト型墜落制止用器具及びランヤード等）とする。

14. 工事目的物及び工事材料を建設工事保険等に附すること。保険契約締結後は、速やかに証券等の写しを提出すること。
  - ①期間は、現場作業着手日から工期末日までとする。

ただし、受注工事毎に附する保険の場合ではなく、受注者が一定の期間内に受注する工事全体に対する保険の場合で、工期途中で保険契約満了日を迎える場合は、新契約の証券等の写しを提出すること。
  - ②保険は、請負額相当額に対し附すること。
15. 本工事は、東広島市建設工事執行規則（平成10年東広島市規則第4号）第41条第7項の規定により中間検査を行う。中間検査の時期は、出来高60%程度でかつ、外壁下地補修工事中又は完了時とし、予定時期を施工計画書に明示し、実施日時については監督職員と協議して決定する。
16. （部分使用について）

共用部（階段、プロパン庫）及びバルコニーについては現場作業完了後、部分使用できる状態とし、部分使用の期限については、別途監督職員と協議すること。
17. （部分引渡しについて）

1号棟については、令和8年10月30日（金）までに部分引渡しを行うこと。
18. 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
  - ①受注者は、建設工事請負契約約款第47条に基づき、法定外の労災保険の契約締結をしたときは、その証券又はこれに代わるものを速やかに監督職員に提示しなければならない。
  - ②法定外の労災保険は、政府の労働者災害補償保険とは別に上乘せ給付等を行うことを目的とするものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、契約を締結しているものとする。
19. 当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとする。また、搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用（単価）は変更しない。

当該工事で見込んでいる再資源化施設、運搬距離  
（名称）大地リサイクルセンター  
（所在地）東広島市西条町大沢字檜ノ村松坂山 10175-89  
（運搬距離）約 10.2 km

20. 本工事は、週休2日適用工事（発注者指定型）であり、「東広島市週休2日適用工事等実施要領（営繕工事）（最新版）」に従うこと。

# 特記仕様書

## 主任技術者又は監理技術者の配置等

### 1 主任技術者又は監理技術者の専任期間等

専任が義務付けられた工事に配置される主任技術者又は監理技術者の専任期間について、次に掲げる場合で、打合せ簿等により、その旨を明確にしたときは専任を要しないものとする。

- (1) 工期の始期から現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入または仮設工事等が開始されるまでの間）
- (2) 工事用地等の確保が未完了、自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により、工事を全面的に一時中止している期間
- (3) 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間

なお、工場製作の過程を含む工事の工場製作過程においても、建設工事を適正に施工するため、主任技術者又は監理技術者がこれを管理する必要があるが、当該工場製作過程において、同一工場内で他の同種工事に係る製作と一元的な管理体制のもとで製作を行うことが可能である場合は、同一の主任技術者又は監理技術者がこれらの製作を一括して管理することができる。

- (4) 工事完成後、検査が終了し、引渡しを受けるまでの期間

### 2 主任技術者又は監理技術者の変更の特例

次に掲げる場合で、打合せ簿等により、その旨を明確にしたときは、主任技術者又は監理技術者の変更ができるものとする。

- (1) 受注者の責によらない理由により工期が延長された場合であって、延長前の工期を経過したとき。
- (2) 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター、発電機・配電盤等の電機品等の工場製作を含む工事であって、工場から現地へ工事の現場が移行する時点

なお、いずれの場合も発注者と受注者との協議により、交代の時期は工程上一定の区切りと認められる時点とするほか、交代前後における主任（監理）技術者の技術力が同等以上に確保されるとともに、工事の規模、難易度等に応じ一定期間重複して工事現場に設置するなど、工事の継続性、品質確保等に支障がないと認められることが必要である。

## 指定資材

指定資材とは、可とう形改修塗材 RE、DP 塗料、NAD 塗料、照明器具とする。

## 特記仕様書

### <現場代理人の常駐義務の緩和>

監督職員等と携帯電話等で常に連絡がとれることに加え、次に掲げるいずれかの事由に該当する場合には、建設工事請負契約約款第10条第3項に規定する「現場代理人の工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がなく、かつ、発注者との連絡体制が確保されると認めた場合」として取扱う。

- (1) 請負金額が4,500万円（建築一式工事にあつては、9,000万円）未満
- (2) 契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間
- (3) 建設工事請負契約約款第20条第1項又は第2項の規定により、工事の全部の施工を一時中止している期間
- (4) 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であつて、工場製作のみが行われている期間
- (5) 上記(2)、(3)、(4)に掲げる期間のほか、工事現場において作業等が行われていない期間
- (6) その他、特に発注者が認めた期間

### <現場代理人の兼務>

- 1 現場代理人の兼務については、「技術者等の適正配置について」によるものとする。
- 2 発注者は、受注者からの申請に基づき、兼務する各工事の内容、工程等を勘案し、現場代理人の兼務について承認の適否を決定し、承認する場合は現場代理人兼務承認書により、承認しない場合は現場代理人兼務非承認書に承認しない理由を記載の上、速やかに受注者に通知する。
- 3 発注者は現場代理人の兼務について、次に掲げる事由に該当すると認めたときは、現場代理人兼務承認取消書により、その承認を取消すものとする。
  - (1) 兼務を予定する工事の発注者が兼務を承認しないことが明らかになったとき
  - (2) 兼務を承認した日から起算して14日（東広島市の休日を定める条例（平成元年東広島市条例第6号）第1条第1項に規定する市の休日を除く。）を経過した後においても、兼務先の発注者が兼務を承認したことを証する書面の写しが提出されないとき
  - (3) 兼務申請において、重要な事項について虚偽の申告をし、又は重要な事実の申告を行わなかったことが判明したとき
  - (4) 兼務の承認後、重要な事項や重大な状況の変化について報告を行わない等、必要な報告を怠ったことが判明したとき
  - (5) 著しい状況の変化により、兼務を承認することが適当でなくなったとき
  - (6) その他、発注者が兼務を承認することが適当でなくなったとき
- 4 重要な事項について虚偽の申告を行う等、不適切な申請を行った者、又は、兼務の承認後に重要な事項や重大な状況の変化について報告を行わない等、必要な報告を怠った者に対しては、請負契約に基づく是正措置の請求や指名除外等の必要な措置を行うことがある。

※ 同一町内における町とは西条町、八本松町、志和町又は高屋町にあつては昭和49年4月20日前の町の区域とし、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町又は安芸津町にあつては平成17年2月7日前の町の区域とする。

## アスベスト成形板処理作業仕様書

### 1. この工事については石綿等(アスベスト成形板)が使用されている建築物の解体工事であり、以下の法律を遵守し労働者の健康保護及び一般環境への汚染防止に努めること

- ① 労働安全衛生法・石綿障害予防規則
- ② 大気汚染防止法
- ③ 建設工事に係る資材の再生資源化等に関する法律(リサイクル法)
- ④ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)

### 2. アスベスト成形板の撤去方法

- (1)アスベスト成形板の撤去は、内装及び外部建具等の撤去にさきがけて行う。
- (2)建物内部で撤去作業を行う場合は、外部建具を閉鎖するとともに、ガラスの破損箇所又は換気扇枠等で粉塵が外部に飛散するおそれがある箇所をビニールシート等で塞ぐものとする。
- (3)アスベスト成形板の撤去は、可能な限り撤去又は破断を伴わない方法で行うものとし、原則として「手ばらし」とする。なお、建物外部のアスベスト成形板を撤去する場合は、できる限り、原型のまま撤去する。
- (4)撤去作業中は、散水その他の方法により、アスベスト成形板を常に湿潤な状態として作業を行う。
- (5)撤去作業には、防塵マスク、防護メガネ及び作業衣を着用させる。
- (6)撤去作業後、アスベスト成形板の破片、破断粉及び作業衣等に付着した粉塵が残存しないよう、真空掃除機等により、清掃及び後片付けを十分に行う。
- (7)解体現場周辺に粉塵等の飛散を防止するために解体する建物の高さ以上に飛散防止幕を設置し撤去物を十分湿潤化できる散水装置を設置する。

### 3. アスベスト成形板の集積、運搬等

- (1)撤去したアスベスト成形板の集積及び積み込みに当たっては、高所より投下しないことその他、粉塵の飛散防止に努める。
- (2)細かく破碎されたアスベスト成形板は、湿潤化の上、丈夫なビニール袋に入れる等、飛散防止の措置を講じる。
- (3)撤去したアスベスト成形板を運搬するまでの間、現場内に保管する場合は、一定の保管場所を定め、一般の内装材と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止の措置を講じる。また、保管場所には、アスベスト成形板の保管場所であることの表示を行う。
- (4)アスベスト成形板の運搬に当たっては、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。
- (5)アスベスト成形板の撤去、集積、積み込み及び保管等の処理が完了した場合は、速やかに監督員に報告し、確実に処理されたかの確認を受ける。

### 4. アスベスト成形板の処分等

- (1)アスベスト成形板は、一般産業廃棄物として安定型処分場で処分する。なお、マニフェストには、アスベスト成形板であることを明示する。
- (2)撤去されたアスベスト成形板の処分が完了した場合には、マニフェストを監督職員に提出し、処分が確実に行われたかの確認を受ける。

### 5. 必要な作業主任者

石綿作業主任者もしくは、特定化学物質等作業主任者の資格を取得したものを選任すること。

## 建設副産物の取り扱いに関する特記仕様書

### 1 再生資源利用計画及び再生資源促進計画

受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。また、受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令に基づき、再生資源利用促進計画（5の確認結果票を含む）を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。なお、その内容に変更が生じたときは、速やかに利用計画及び促進計画を変更し、監督職員に報告しなければならない。

### 2 計画の掲示及び公表

受注者は、1の再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

現場掲示様式については、次のURLを参考に作成すること。

[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page\\_03060101credas1top.htm](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm)

### 3 実施書の提出

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を監督職員に提出しなければならない。なお、受注者は、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書の作成後、工事完成から5年間保存しなければならない。

### 4 工事現場の管理体制

受注者は、再生利用の促進を行うため、工事現場における建設副産物責任者を置くことにより、管理体制を整備するとともに、当該責任者に対し、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画の内容について現場担当者の教育を十分行うこと及び、関係する他の施工者及び資材納入業者もこれを周知徹底することを指導するものとする。

### 5 建設発生土搬出に関する関係法令の手続きの確認及び確認結果票の作成

受注者は、再生資源利用促進計画の作成にあたり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、あらかじめ次に掲げる事項を確認し、また各事項の確認の結果を記載した書面（確認結果票）を作成しなければならない。

※確認結果票は「広島県の調達情報」に掲載している。

なお、対象となる工事は請負代金額が100万円以上、または建設発生土の搬出が500m<sup>3</sup>

以上の工事を対象とする。

- (1) 工事現場内の土地の掘削その他の土地の形質の変更が土壤汚染対策法（平成14年法律第53号）第3条第7項又は第4条第1項の規定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされている。
- (2) 再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先における建設発生土の搬入に係る行為に関する次に掲げる事項
  - ①当該行為が宅地造成及び特定盛土等規制法（昭和36年法律第191号。以下「盛土規制法」という）第12条第1項、第16条第1項、第30条第1項又は第35条第1項の規定による許可を要する場合にあっては、当該許可を受けている。
  - ②当該行為が盛土規制法第21条第1項、第27条第1項、第28条第1項又は第40条第1項の規定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされている。
- (3) 上記①、②に掲げる事項のほか、再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先が適正であることを確認するために必要な事項その他の建設発生土の搬出に関する事項

#### 6 運搬業者への通知

受注者は、建設発生土の運搬を行う者に対し、再生資源利用促進計画及び確認結果票の内容を通知するものとする。またその内容に変更が生じたときには、速やかに運搬を行う者に通知するものとする。

#### 7 確認結果票の掲示及び公表

受注者は、確認結果票を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

#### 8 確認結果票の保管

受注者は、確認結果票を建設工事の完成後5年間保存するものとする。

#### 9 建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求

受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画に記載した搬出先へ搬出したときは、速やかに当該搬出先の管理者（搬出先が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、次に掲げる事項を記載した受領書の交付を求めるものとする。

- (1) 建設発生土の搬出先の名称（搬出先が工事現場である場合は、建設工事の名称。）及び所在地
- (2) 建設発生土を搬出先の受注者の商号、名称又は氏名
- (3) 建設発生土の搬出元の名称及び所在地
- (4) 建設発生土の搬出量

(5) 建設発生土の搬出が完了した日

10 建設発生土の搬入元への受領書の交付

受注者は、建設発生土を利用計画に記載した搬入元から搬入したときは、速やかに当該搬入元の管理者（搬入元が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、前号に掲げる事項を記載した受領書を交付するものとする。

11 受領書の内容確認

受注者は、搬出先から受領書の交付を受けたときは、再生資源利用促進計画に記載した内容と一致することを確認する。

12 受領書の保管

受注者は、受領書又はその写しを建設工事の完成後5年間保存するものとする。

13 建設発生土の最終搬出先までの確認

受注者は、建設発生土が再生資源利用促進計画に記載した搬出先（次の(1)から(4)のいずれかに該当する搬出先を除く。）から他の搬出先へ搬出されたときは、速やかに、当該他の搬出先への搬出に関する9(1)～(5)に関する事項を記載した書面を作成するとともに、当該書面を当該再生資源利用促進計画に係る建設工事の完成後5年間保存するものとする。建設発生土が更に他の搬出先へ搬出されたときも、同様とする。

- (1) 国又は地方公共団体が管理する場所であって、受入れ完了後に当該国又は地方公共団体が受領書を交付する場合
- (2) 受注者の管理下にある他の工事現場で利用するために一時堆積する場合
- (3) スtockヤード運営事業者登録規定により国に登録されたStockヤード
- (4) 9の受領書の土砂の利用種別が「盛土利用等」である建設発生土受入地（再搬出し  
ないもの）

工事中情報共有システムに関する特記仕様書

1 工事中情報共有システム（発注者指定型）

- (1) 本工事は、工事中情報共有システムの対象（発注者指定型）である。
- (2) 工事中情報共有システムの利用するにあたり、発注者に連絡の上、利用申込すること。
- (3) 本工事で使用する情報共有システムは次のとおり。  
広島県工事中情報共有システム（一般社団法人 広島県土木協会）  
<http://www.hdobokuk.or.jp/koujijyouhoushisutemu2.html>
- (4) 工事中情報共有システム利用に必要な費用は設計金額に含まれている。
- (5) 利用にあたっては「東広島市発注工事における広島県工事中情報共有システム利用実施要領（建築工事）」に基づくこと。
- (6) 運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づくこと。

この場合においては、次のとおりとする。

- 1) 「1.3. 適用する基準」のうち、「土木工事監督規定（広島県）」および「土木工事監督実施要領（広島県）」は「東広島市建設工事監督事務取扱要綱」と、「土木工事検査規定（広島県）」とあるのは「東広島市建設工事検査規定」と、「土木工事検査技術基準（広島県）」とあるのは「土木工事検査技術基準（東広島市）」と読み替えるものとする。
- 2) 「CAD 製図基準（国土交通省）」および「CAD 製図基準に関する運用ガイドライン（国土交通省）」は適用しない。
- 3) 「4. 検査」は適用しない。
- 4) 検査は、発注者と協議のうえ、紙媒体による検査と電子検査の併用とすることができるものとする。
- 5) 受注者は、工事中情報共有システムにより処理した工事完成図について、電子成果品として納品するほか、紙の成果品も納品すること。
- 6) 書類提出をシステム登録とするものについても、以下の場合には紙媒体での提出を一部ずつ求めるものとする。
  - ①施工体制台帳及び施工計画書。
  - ②図面等が A3 サイズで視認困難なもの。（目視により確認できるサイズにより、紙媒体での提出を求める。）

# 令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事

図面番号	棟名	図面名称	縮尺
A-1	共通	表紙・目次	—
A-2	共通	建築改修工事特記仕様書(1)	—
A-3	共通	建築改修工事特記仕様書(2)	—
A-4	共通	建築改修工事特記仕様書(3)	—
A-5	共通	建築改修工事特記仕様書(4)	—
A-6	共通	建築改修工事特記仕様書(5)	—
A-7	共通	建築改修工事特記仕様書(6)	—
A-8	共通	外壁改修工事特記仕様書(1)	—
A-9	共通	外壁改修工事特記仕様書(2)	—
A-10	共通	敷地案内図・現況配置図・工事概要	1:250 1:15,000
A-11	共通	外部仕上表	—
A-12	1号棟	1・2階平面図・建具配置図	1:100
A-13	1号棟	3・4階平面図・建具配置図	1:100
A-14	1号棟	4階上部平面図・屋根伏図	1:100
A-15	1号棟	立面図(1)	1:100
A-16	1号棟	立面図(2)	1:100
A-17	1号棟	1階床下・1階 天井伏図	1:100
A-18	1号棟	2・3階 天井伏図	1:100
A-19	1号棟	4階・4階上部 天井伏図	1:100
A-20	2号棟	1・2階平面図・建具配置図	1:100
A-21	2号棟	3・4階平面図・建具配置図	1:100
A-22	2号棟	4階上部平面図・屋根伏図	1:100
A-23	2号棟	立面図(1)	1:100
A-24	2号棟	立面図(2)	1:100
A-25	2号棟	1階床下・1階 天井伏図	1:100
A-26	2号棟	2・3階 天井伏図	1:100
A-27	2号棟	4階・4階上部 天井伏図	1:100
A-28	共通	矩形図	1:30 1:10
A-29	共通	階段詳細図	1:30 1:10
A-30	共通	建具表	1:50
A-31	共通	部分詳細図(1)	1:10・1:20
A-32	共通	部分詳細図(2)	1:50・30・20・15・5
A-33	共通	外構平面図	1:250
A-34	共通	外構詳細図(1)	1:50 1:20
A-35	共通	外構詳細図(2)	1:100・50・30・20
A-36	共通	外構詳細図(3)	1:30
A-37	共通	外構詳細図(4)	1:50 1:30
A-38	共通	仮設計画図1(Ⅰ工区)参考図	1:250
A-39	共通	仮設計画図2(Ⅱ工区)参考図	1:250

図面番号	棟名	図面名称	縮尺
T-1	共通	調査図 凡例	—
T-2	1号棟	調査図 1・2階平面図	1:100
T-3	1号棟	調査図 3・4階平面図	1:100
T-4	1号棟	調査図 4階上部平面図・屋根伏図	1:100
T-5	1号棟	調査図 南側立面図・展開図	1:100
T-6	1号棟	調査図 北側立面図・展開図	1:100
T-7	1号棟	調査図 東西側立面図・階段室展開図	1:100
T-8	1号棟	調査図 1階床下・1階 天井伏図	1:100
T-9	1号棟	調査図 2・3階 天井伏図	1:100
T-10	1号棟	調査図 4階・4階上部 天井伏図	1:100
T-11	2号棟	調査図 1・2階平面図	1:100
T-12	2号棟	調査図 3・4階平面図	1:100
T-13	2号棟	調査図 4階上部平面図・屋根伏図	1:100
T-14	2号棟	調査図 南側立面図・展開図	1:100
T-15	2号棟	調査図 北側立面図・展開図	1:100
T-16	2号棟	調査図 東西側立面図・階段室展開図	1:100
T-17	2号棟	調査図 1階床下・1階 天井伏図	1:100
T-18	2号棟	調査図 2・3階 天井伏図	1:100
T-19	2号棟	調査図 4階・4階上部 天井伏図	1:100
E-1	共通	電気設備工事特記仕様書	—
E-2	共通	現況配置図・工事概要	1:250
E-3	共通	凡例・照明器具姿図	1:100
E-4	共通	改修前 階段室 電灯設備	1:30
E-5	共通	改修後 階段室 電灯設備	1:30
M-1	共通	特記仕様書(一般共通仕様)	—
M-2	共通	特記仕様書(工事別事項)	—
M-3	共通	現況配置図・工事概要・換気扇機器表	1:250
M-4	1号棟	屋上 給排水設備平面図	1:100



3	1	降雨等に対する養生方法	※ 改修標準仕様書3.1.3(5) (7)～(9)による。	[3.1.3]																																	
	2	既存防水の処理	既存保護層の除去 ・ 行う (範囲 ※ 図示 ・ ) [3.1.4] [3.2.3、4、6] ・ 行わない 既存防水層の除去 ○ 行う (範囲 ※ 図示 ・ ) ・ 行わない 既存露出防水層表面の仕上げ塗料の除去 ( ・ M4AS ・ M4ASI ・ M4C ・ M4D1 ・ L4X)																																		
	3	既存下地の処置	既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示 POS工法及びP0S1工法 (機械的固定工法) の既存保護層を除去し防水層を非除去とした立上り部等の処置 ※ 改修標準仕様書3.2.6(4) (9) (g)①～③による 設備機器架台、配管受部、バラベツト、貫通パイプ回り、手すり・丸理の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ※ 図示。ただし、図示が無いものは監督職員と協議する	[3.2.6]																																	
	4	アスファルト防水	屋根保護防水 [3.3.2～5] 防水層の種類 <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>断熱材</th> <th>絶縁用シート</th> <th>立上り部の保護</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">P2A</td> <td>A-1</td> <td rowspan="3">断熱材</td> <td rowspan="3">断熱材</td> <td rowspan="3">※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/m<sup>2</sup>程度</td> <td rowspan="3">・乾式保護材 ・コンクリート押え ・れんが押え ※JIS R 1250</td> </tr> <tr> <td>A-2</td> </tr> <tr> <td>A-3</td> </tr> <tr> <td>P1B</td> <td>B-1</td> <td>B-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">P2A1</td> <td>A1-1</td> <td rowspan="3">(材質) JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種 b A (スキップ付き) (厚さ) (mm) ※25・50</td> <td rowspan="3">断熱材</td> <td rowspan="3">※フラットヤーンクロス70g/m<sup>2</sup>程度</td> <td rowspan="3">断熱材</td> </tr> <tr> <td>A1-2</td> </tr> <tr> <td>A1-3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">P1B1</td> <td>B1-1</td> <td>B1-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護	P2A	A-1	断熱材	断熱材	※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/m <sup>2</sup> 程度	・乾式保護材 ・コンクリート押え ・れんが押え ※JIS R 1250	A-2	A-3	P1B	B-1	B-2				P2A1	A1-1	(材質) JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種 b A (スキップ付き) (厚さ) (mm) ※25・50	断熱材	※フラットヤーンクロス70g/m <sup>2</sup> 程度	断熱材	A1-2	A1-3	P1B1	B1-1	B1-2			
工法	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護																																
P2A	A-1	断熱材	断熱材	※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/m <sup>2</sup> 程度	・乾式保護材 ・コンクリート押え ・れんが押え ※JIS R 1250																																
	A-2																																				
A-3																																					
P1B	B-1	B-2																																			
P2A1	A1-1	(材質) JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種 b A (スキップ付き) (厚さ) (mm) ※25・50	断熱材	※フラットヤーンクロス70g/m <sup>2</sup> 程度	断熱材																																
	A1-2																																				
A1-3																																					
P1B1	B1-1	B1-2																																			

5	改質アスファルトシート防水	<p>(5) 吸水による長さ変化率試験は、試験体 (幅40mm×長さ160mm×素材厚さ) を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム (試薬)」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調整したデシケーターに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さ (L1) を測定し、それを基準 (L1) とする。次に試験片の長さ方向を水平にこぼして、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ (L2) を測る。</p> <p>吸水による長さ変化率 (ΔL) は、次式によって求める。  <math display="block">\Delta L = \frac{L2 - L1}{L1} \times 100</math> ΔL : 吸水による長さ変化率 (%)  L1 : 乾燥時の標線間隔の長さ (mm) L2 : 吸水時の標線間隔の長さ (mm)</p> <p>(6) 耐凍融融解性能試験は、JIS A 5422「工業系サイディング」の空中凍結水中融解法によって行う。100、200、300サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。(工業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。) 凍融融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5～35℃の清水中に24時間浸せさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、-20±3℃の空气中で約2時間の凍結20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。</p> <p>(7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持法による。試験体の大きさは、4号 (長さ400mm、幅300mm) とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号 (W1～1000)、質量1,000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、表面に達する穴の「有・無」を確認する。金属検査板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。</p>																																			
	屋根露出防水 防水層の種類	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>断熱材</th> <th>仕上塗料</th> <th>高日射反 射率の防 水</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">M4C</td> <td>C-1</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">仕上塗料</td> <td rowspan="4">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="4">備考</td> </tr> <tr> <td>C-2</td> </tr> <tr> <td>C-3</td> </tr> <tr> <td>C-4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">M3D</td> <td>D-1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>D-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">P0D1</td> <td>D1-1</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">仕上塗料</td> <td rowspan="4">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="4">備考</td> </tr> <tr> <td>M3D1</td> </tr> <tr> <td>M4D1</td> </tr> <tr> <td>M4D1</td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	M4C	C-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	C-2	C-3	C-4	M3D	D-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	D-2	P0D1	D1-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	M3D1	M4D1	M4D1
	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																														
	M4C	C-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																														
C-2																																					
C-3																																					
C-4																																					
M3D	D-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																															
	D-2																																				
P0D1	D1-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																															
	M3D1																																				
	M4D1																																				
	M4D1																																				
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ	<p>※ 改修標準仕様書3.3.3から表3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 厚さ ( mm以上)</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.3.3から表3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 厚さ ( mm以上)</p> <p>平場の保護コンクリートの厚さとして仕上げ て仕上げ ※ 水下 80mm以上 床タイル張り ※ 水下 60mm以上</p> <p>乾式保護材 工業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレープ養生したもの。 金属検査板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。</p> <p>(品質・性能)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類・規格</th> <th>工業系パネル Ⅰ類</th> <th>金属検査板</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寸法 (mm)</td> <td>厚さ (mm)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>幅 (mm)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>寸法の許容差</td> <td>厚さ：+10%、-5%、幅：±1%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出荷時の含水率</td> <td>出荷時において10%以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>曲げ強さ・曲げモーメント (N・cm)</td> <td>標準時 550以上 凍結融解完了時 (試験サイクル数)</td> <td>300以上 250以上 (300)</td> </tr> <tr> <td>吸水率 (%)</td> <td>20以下</td> <td>1以下</td> </tr> <tr> <td>吸水による長さ変化率 (%)</td> <td>0.07以下</td> <td>0.01以下</td> </tr> <tr> <td>難燃性</td> <td>不燃</td> <td>表面材は不燃</td> </tr> <tr> <td>耐凍融融解性能</td> <td>300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないことと認められるものは耐凍融融解試験を省略できる。)</td> <td>300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないことと認められるものは耐凍融融解試験を省略できる。)</td> </tr> <tr> <td>耐衝撃性能</td> <td>質量500g (工業系パネルⅠ類は1,000g) のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。</td> <td>質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。</td> </tr> <tr> <td>剛性 (E×I)</td> <td>(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)</td> <td>80,000 N・cm<sup>2</sup>以上</td> </tr> </tbody> </table>	分類・規格	工業系パネル Ⅰ類	金属検査板	寸法 (mm)	厚さ (mm)			幅 (mm)		寸法の許容差	厚さ：+10%、-5%、幅：±1%		出荷時の含水率	出荷時において10%以下		曲げ強さ・曲げモーメント (N・cm)	標準時 550以上 凍結融解完了時 (試験サイクル数)	300以上 250以上 (300)	吸水率 (%)	20以下	1以下	吸水による長さ変化率 (%)	0.07以下	0.01以下	難燃性	不燃	表面材は不燃	耐凍融融解性能	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないことと認められるものは耐凍融融解試験を省略できる。)	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないことと認められるものは耐凍融融解試験を省略できる。)	耐衝撃性能	質量500g (工業系パネルⅠ類は1,000g) のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。	剛性 (E×I)	(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)	80,000 N・cm <sup>2</sup> 以上
分類・規格	工業系パネル Ⅰ類	金属検査板																																			
寸法 (mm)	厚さ (mm)																																				
	幅 (mm)																																				
寸法の許容差	厚さ：+10%、-5%、幅：±1%																																				
出荷時の含水率	出荷時において10%以下																																				
曲げ強さ・曲げモーメント (N・cm)	標準時 550以上 凍結融解完了時 (試験サイクル数)	300以上 250以上 (300)																																			
吸水率 (%)	20以下	1以下																																			
吸水による長さ変化率 (%)	0.07以下	0.01以下																																			
難燃性	不燃	表面材は不燃																																			
耐凍融融解性能	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないことと認められるものは耐凍融融解試験を省略できる。)	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないことと認められるものは耐凍融融解試験を省略できる。)																																			
耐衝撃性能	質量500g (工業系パネルⅠ類は1,000g) のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落とすとき、表面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。																																			
剛性 (E×I)	(スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性)	80,000 N・cm <sup>2</sup> 以上																																			

6	合成高分子系ルーフィングシート防水	<p>改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 厚さ ( mm以上)</p> <p>粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 厚さ ( mm以上)</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 厚さ ( mm以上)</p> <p>断熱材の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 断熱材の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 (個)</p> <p>立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度</p> <p>絶縁断熱工法の防水シート ・ 設置する ・ 設置しない</p>																																																						
	防水層の種類	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>断熱材</th> <th>仕上塗料</th> <th>高日射反 射率の防 水</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">POS</td> <td rowspan="4">S-F1</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">仕上塗料</td> <td rowspan="4">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="4">備考</td> </tr> <tr> <td>S-F2</td> </tr> <tr> <td>S-M1</td> </tr> <tr> <td>S-M2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">S3S</td> <td rowspan="2">S-F1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>S-F2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">M4S</td> <td rowspan="2">S-M1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>S-M2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">POS1</td> <td rowspan="4">SSI-F1</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">仕上塗料</td> <td rowspan="4">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="4">備考</td> </tr> <tr> <td>SSI-F2</td> </tr> <tr> <td>S4SI</td> </tr> <tr> <td>M4SI</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">SSI-F2</td> <td rowspan="2">SSI-M1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>SSI-M2</td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	POS	S-F1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	S-F2	S-M1	S-M2	S3S	S-F1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	S-F2	M4S	S-M1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	S-M2	POS1	SSI-F1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	SSI-F2	S4SI	M4SI	SSI-F2	SSI-M1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	SSI-M2			
	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																	
	POS	S-F1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																	
S-F2																																																								
S-M1																																																								
S-M2																																																								
S3S	S-F1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
							S-F2																																																	
M4S	S-M1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
							S-M2																																																	
POS1	SSI-F1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
							SSI-F2																																																	
							S4SI																																																	
							M4SI																																																	
SSI-F2	SSI-M1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
							SSI-M2																																																	
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ	<p>※ 改修標準仕様書3.3.3から表3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 厚さ ( mm以上)</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 改修標準仕様書3.3.3から表3.3.9による ・ JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ※ R種 厚さ ( mm以上)</p> <p>断熱材の種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 断熱材の設置数量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 (個)</p> <p>屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフレッドン回り及び立上り部周辺の断熱材の張り じまい位置 ※ 図示 屋内防水</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P1E</td> <td>E-1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> </tr> <tr> <td>P2E</td> <td>E-2</td> </tr> </tbody> </table> <p>E-1の場合で工程3を行う部位 ( 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位 ) 保護層 ・ 設ける ( ※ 図示 ・ ) ・ 設けない 立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 屋上排水溝 ・ 図示</p>	工法	種別	施工箇所	P1E	E-1	断熱材	P2E	E-2																																															
工法	種別	施工箇所																																																						
P1E	E-1	断熱材																																																						
P2E	E-2																																																							
屋根露出防水 防水層の種類	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>断熱材</th> <th>仕上塗料</th> <th>高日射反 射率の防 水</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">M4AS</td> <td>AS-T1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>AS-T2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">M3AS</td> <td>AS-T3</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>AS-T4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">POAS</td> <td>AS-J1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>AS-J3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">M3ASI</td> <td>ASI-T1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>ASI-J1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">M4ASI</td> <td>ASI-T1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>ASI-J1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">POASI</td> <td>ASI-T1</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">断熱材</td> <td rowspan="2">仕上塗料</td> <td rowspan="2">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="2">備考</td> </tr> <tr> <td>ASI-J1</td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	M4AS	AS-T1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	AS-T2	M3AS	AS-T3	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	AS-T4	POAS	AS-J1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	AS-J3	M3ASI	ASI-T1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	ASI-J1	M4ASI	ASI-T1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	ASI-J1	POASI	ASI-T1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	ASI-J1
工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
M4AS	AS-T1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
	AS-T2																																																							
M3AS	AS-T3	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
	AS-T4																																																							
POAS	AS-J1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
	AS-J3																																																							
M3ASI	ASI-T1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
	ASI-J1																																																							
M4ASI	ASI-T1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
	ASI-J1																																																							
POASI	ASI-T1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																																		
	ASI-J1																																																							

7	塗膜防水	<p>防水層の種類 [3.6.2、3]  <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上塗料</th> <th>使用量</th> <th>高日射反 射率の防 水</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">POX</td> <td rowspan="4">X-1</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">仕上塗料</td> <td rowspan="4">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="4">備考</td> </tr> <tr> <td>X-2</td> </tr> <tr> <td>X-1H</td> </tr> <tr> <td>X-2H</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">L4X</td> <td rowspan="4">X-1</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">断熱材</td> <td rowspan="4">仕上塗料</td> <td rowspan="4">高日射反 射率の防 水</td> <td rowspan="4">備考</td> </tr> <tr> <td>X-2</td> </tr> <tr> <td>X-1H</td> </tr> <tr> <td>X-2H</td> </tr> <tr> <td>P1Y</td> <td>Y-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>P2Y</td> <td>Y-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </p> <p>X-1 (絶縁工法) の断熱材の種類 ※ 主材料の製造所の仕様 X-1 (絶縁工法) の断熱材の設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様 (個)</p>	工法	種別	施工箇所	仕上塗料	使用量	高日射反 射率の防 水	備考	POX	X-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	X-2	X-1H	X-2H	L4X	X-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考	X-2	X-1H	X-2H	P1Y	Y-2						P2Y	Y-2					
	工法	種別	施工箇所	仕上塗料	使用量	高日射反 射率の防 水	備考																																				
	POX	X-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																				
								X-2																																			
X-1H																																											
X-2H																																											
L4X	X-1	断熱材	断熱材	仕上塗料	高日射反 射率の防 水	備考																																					
							X-2																																				
							X-1H																																				
							X-2H																																				
P1Y	Y-2																																										
P2Y	Y-2																																										
シーリング	<p>シーリング改修工法の種類 [3.7.2、3、3.7.7]  ・ シーリング充填工法  ○ シーリング再充填工法  ・ 拡幅シーリング再充填工法  ・ ブリッジ工法  ボンドブレイカー張り ・ 適用する ・ 適用しない  エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>シーリング材の種類、施工箇所 下表以外は、改修標準仕様書3.7.1による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>シーリング材の種類 (記号)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外壁目地</td> <td>変成シリコン系 (MS-2)</td> </tr> <tr> <td>外部建具・板金取合い</td> <td>変成シリコン系 (MS-2)</td> </tr> </tbody> </table> <p>仕上げを行わない施工箇所 ・ 図示による ○ 打継目地 シーリング材の目地寸法 ※ 改修標準仕様書3.7.3(1)による ○ 図示 接着性試験 ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験</p> <p>といた材種 ・ 配管用鋼管 [3.8.2、3]  ○ 硬質ポリ塩化ビニル管  ・ ルーフドレン  ・ 表面処理鋼板 (表面及び裏面の塗膜の種類)</p> <p>ルーフレッドン  <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>呼び</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ろく屋根用た形Ⅰ型</td> <td>※ねじ込み式</td> </tr> <tr> <td>・ ろく屋根用構形Ⅰ型</td> <td>・ 80 ・ 100 ・ 125 ・ 150</td> </tr> <tr> <td>・ バルコニー中継用</td> <td>・ ねじ込み式 ・ 50 ・ 80 ・ 100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 差し込み式 ・ 50 ・ 75 ・ 100</td> </tr> <tr> <td>・ バルコニー用</td> <td>・ ねじ込み式 ・ 50 ・ 80 ・ 100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 差し込み式 ・ 50 ・ 75 ・ 100</td> </tr> </tbody> </table> </p> <p>といた受け金物及び足金物の材質、形状及び取付け間隔  ※ 改修標準仕様書3.8.2により、溶融亜鉛めっきを行ったもの  ・ 多雪地域 ・ 適用する  防露材のホルムアルデヒド放散量  ※ F☆☆☆☆  既存のといたその他の除去及び降雨等に対する養生方法 ※ 図示  鋼管といたの防露巻き ※ 改修標準仕様書3.8.4による  たてどい受け金物の取付け ※ 図示</p>	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)	外壁目地	変成シリコン系 (MS-2)	外部建具・板金取合い	変成シリコン系 (MS-2)	種別	呼び	・ ろく屋根用た形Ⅰ型	※ねじ込み式	・ ろく屋根用構形Ⅰ型	・ 80 ・ 100 ・ 125 ・ 150	・ バルコニー中継用	・ ねじ込み式 ・ 50 ・ 80 ・ 100		・ 差し込み式 ・ 50 ・ 75 ・ 100	・ バルコニー用	・ ねじ込み式 ・ 50 ・ 80 ・ 100		・ 差し込み式 ・ 50 ・ 75 ・ 100																						
施工箇所	シーリング材の種類 (記号)																																										
外壁目地	変成シリコン系 (MS-2)																																										
外部建具・板金取合い	変成シリコン系 (MS-2)																																										
種別	呼び																																										
・ ろく屋根用た形Ⅰ型	※ねじ込み式																																										
・ ろく屋根用構形Ⅰ型	・ 80 ・ 100 ・ 125 ・ 150																																										
・ バルコニー中継用	・ ねじ込み式 ・ 50 ・ 80 ・ 100																																										
	・ 差し込み式 ・ 50 ・ 75 ・ 100																																										
・ バルコニー用	・ ねじ込み式 ・ 50 ・ 80 ・ 100																																										
	・ 差し込み式 ・ 50 ・ 75 ・ 100																																										
アルミニウム製笠木	<p>種類 ・ オープン形式 ( ・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形 )  ・ 板材折曲げ形 ( ・ オープン形式 ・ シール形式 )  本体幅 ( ) mm 板厚 ( ※ 2.0mm ) mm  表面処理 種別 ( ) 種  色合等 ・ 標準色 ( ) ・ 特注色 ( )  既存笠木等の除去 ・ 行う (範囲 ※ 図示 ・ )  ・ 行わない</p> <p>下地補修の工法 ※ 図示  板材折曲げ形の笠木の取付け方法 ※ 図示  笠木の固定金具の工法等  1章 適用区分による風圧力の ( ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法</p>																																										
防水改修フロー及び数量	<p>○ 既存保護層の補修及び処置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">防水面調査 ( 施工数量調査 )</th> </tr> <tr> <th>ひび割れ部補修</th> <th>欠損部改修</th> <th>浮き部補修</th> <th>ぜい弱部補修</th> <th>既存目地欠損部補修</th> <th>既存目地欠損部補修 ( 既取に利用する場合 )</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスファルト防水工事用シート (幅2mm未満)</td> <td>ひび割れ部補修 (幅2mm以上)</td> <td>ポリマーセメントモルタル補修</td> <td>ポリマーセメントモルタル補修</td> <td>除去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修</td> <td>アスファルト防水工事用シート</td> </tr> <tr> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> </tr> </tbody> </table> <p>シーリング改修  シーリング再充填工法  1号棟 ( 仕上げあり ) 2号棟 ( 仕上げあり )  1号棟 ( 仕上げなし ) 2号棟 ( 仕上げあり )  2号棟 ( 仕上げあり ) 2号棟 ( 仕上げなし )  2号棟 ( 仕上げなし ) 2号棟 ( 仕上げなし )</p>	防水面調査 ( 施工数量調査 )						ひび割れ部補修	欠損部改修	浮き部補修	ぜい弱部補修	既存目地欠損部補修	既存目地欠損部補修 ( 既取に利用する場合 )	アスファルト防水工事用シート (幅2mm未満)	ひび割れ部補修 (幅2mm以上)	ポリマーセメントモルタル補修	ポリマーセメントモルタル補修	除去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修	アスファルト防水工事用シート	0m	0m	0m	0m	0m	0m																		
防水面調査 ( 施工数量調査 )																																											
ひび割れ部補修	欠損部改修	浮き部補修	ぜい弱部補修	既存目地欠損部補修	既存目地欠損部補修 ( 既取に利用する場合 )																																						
アスファルト防水工事用シート (幅2mm未満)	ひび割れ部補修 (幅2mm以上)	ポリマーセメントモルタル補修	ポリマーセメントモルタル補修	除去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修	アスファルト防水工事用シート																																						
0m	0m	0m	0m	0m	0m																																						

東広島市都市交通部管轄課	設計者・設計事務所名 M A S A A	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	工事名 令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺 A2 : 100% A3 : 71%縮小	設計 令和7年	種別 A 図面番号 3
--------------	-------------------------	---	---	------------------------------------	------------	----------------------

<p>4-1 外壁改修工事(共通事項)</p> <p>2 ポリマーセメントスラリー</p> <p>3 吸水調整材</p> <p>4 既調合モルタル</p>	<p>1 ポリマーセメントモルタル</p> <p>(品質・性能) [4.2.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th colspan="2">品質・性能</th> </tr> <tr> <td>だれ</td> <td>下がり量 (mm)</td> <td>5以内</td> </tr> <tr> <td></td> <td>表面の状態</td> <td>ひび割れの発生が無いこと。</td> </tr> <tr> <td>曲げ強さ (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td></td> <td>6.0以上</td> </tr> <tr> <td>圧縮強さ (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td></td> <td>20.0以上</td> </tr> <tr> <td>接着強さ (N/mm<sup>2</sup>)</td> <td>標準条件</td> <td>1.0以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>特殊条件</td> <td>0.8以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>湿潤時</td> <td>0.5以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>低温時</td> <td>0.5以上</td> </tr> </table> <p>透水性 その他</p> <p>1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 高分子エマルションは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。</p>	項目	品質・性能		だれ	下がり量 (mm)	5以内		表面の状態	ひび割れの発生が無いこと。	曲げ強さ (N/mm <sup>2</sup> )		6.0以上	圧縮強さ (N/mm <sup>2</sup> )		20.0以上	接着強さ (N/mm <sup>2</sup> )	標準条件	1.0以上		特殊条件	0.8以上		湿潤時	0.5以上		低温時	0.5以上	<p>4-2 外壁改修工事(コンクリート打放し仕上げ外壁)</p> <p>1 ひび割れ部改修工法</p> <p>※ 樹脂注入工法 [4.1.4] [4.2.4、5、6、7]</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>200~300</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td></td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td></td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>※上記注入量については、あくまでも参考数量である。上記注入量に関わらず適切な注入工法によりそれ以上注入が出来るまで注入を行うこと。</p> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない ※ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シール工法 ※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>2 欠損部改修工法</p> <p>※ 充填工法 [4.1.4] [4.2.4、8]</p> <p>・ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40		0.3以上0.5未満		※70		0.5以上1.0未満		※130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40		0.3以上0.5未満	100~200	※70		0.5以上1.0未満	150~250	※130	<p>4-3 外壁改修工事(モルタル塗仕上げ外壁)</p> <p>1 ひび割れ部改修工法</p> <p>※ モルタルを撤去しないで改修 [4.1.4] [4.3.5、6、7、8]</p> <p>※ 樹脂注入工法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>200~300</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td></td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td></td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない ※ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シール工法 ※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>2 欠損部改修工法</p> <p>※ 充填工法(欠損部の面積が0.25m<sup>2</sup>/箇所程度以下の場合) 充填材の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル ・ モルタル塗替え工法 モルタルの材料 ※ 現場調査材料 ・ 既調合材料 既製目地材 ・ 使用する(形状) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示</p> <p>3 浮き部改修工法</p> <p>※ モルタルを撤去しないで改修 [4.1.4] [4.3.11~16]</p> <p>・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの</p> <p>注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm</p> <p>・ モルタルを撤去して改修 モルタルの材料 ※ 現場調査材料 ・ 既調合材料 ・ 充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル ・ モルタル塗替え工法 既製目地材 ・ 使用する(形状) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示</p> <p>4 外壁複合改修工法</p> <p>平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40		0.3以上0.5未満		※70		0.5以上1.0未満		※130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40		0.3以上0.5未満	100~200	※70		0.5以上1.0未満	150~250	※130	<p>4-4 外壁改修工事(タイル張り仕上げ外壁)</p> <p>1 タイルの形状、寸法等</p> <p>タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法用接着剤の種類 ・ JIS A 5571による一液反応硬化型の変成シリコン樹脂系</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>形状・寸法</th> <th>再生材料</th> <th>吸水率による区分</th> <th>うわぐすり</th> <th>吸物</th> <th>色</th> <th>耐凍害性</th> <th>耐凍害性</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>(mm)</td> <td>適用</td> <td>I期 II期 III期</td> <td>厚さ</td> <td>厚さ</td> <td>標準</td> <td>特注</td> <td>有</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>耐凍り性: JIS A 1509-12 (セラミックタイル試験方法—第12部: 耐凍り性試験方法) で規定する C.S.R値は0.4~1.0とする。</p> <p>役物の使用箇所</p> <table border="1"> <tr> <th>内装</th> <th>出隅</th> <th>天端</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>外装</th> <th>出隅</th> <th>窓台、マグサ(標準一体成型品以外は接着成型品とする)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>見本焼き ・ 行う(施工箇所: ) ※行わない ・ 試験張り ・ 行う(施工箇所: ) ※行わない</p> <p>2 ひび割れ部改修工法</p> <p>※ タイル部分張替え工法の場合のモルタル部分の改修は、4-3 欠損部改修工法(モルタル塗仕上げ外壁) 欠損部改修工法による ※ タイルを撤去しないで改修</p> <p>※ タイル撤去後のタイル欠損部の補修は、3 欠損部改修工法による ・ タイルを撤去しないで改修</p>	工法の種類	形状・寸法	再生材料	吸水率による区分	うわぐすり	吸物	色	耐凍害性	耐凍害性	備考		(mm)	適用	I期 II期 III期	厚さ	厚さ	標準	特注	有	無											内装	出隅	天端				外装	出隅	窓台、マグサ(標準一体成型品以外は接着成型品とする)				<p>4-5 外壁改修工事(仕上塗材仕上げ外壁)</p> <p>1 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整</p> <table border="1"> <tr> <th>工法</th> <th>処理範囲</th> <th>下地の補修</th> </tr> <tr> <td>○ サンダー工法(塗膜等浮き部・劣化等)</td> <td>※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</td> <td>4-2 外壁改修工事(コンクリート打放し仕上げ外壁) 4-3 外壁改修工事(モルタル塗仕上げ外壁) による</td> </tr> <tr> <td>・ 高圧水洗工法 吐出圧力 ・ 30MPa ~ 50MPa ・ 50MPa ~ 100MPa ・ 100MPa 以上</td> <td>※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 塗膜はく離剤工法</td> <td>※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 水洗い工法</td> <td>※ サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上げ面全体 ・ 図示</td> <td></td> </tr> </table> <p>石綿含有仕上塗材の除去は、9 環境配慮改修工事による</p> <p>※ 下地調整塗材 ○ ポリマーセメントモルタル [4.5.2]</p>	工法	処理範囲	下地の補修	○ サンダー工法(塗膜等浮き部・劣化等)	※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示	4-2 外壁改修工事(コンクリート打放し仕上げ外壁) 4-3 外壁改修工事(モルタル塗仕上げ外壁) による	・ 高圧水洗工法 吐出圧力 ・ 30MPa ~ 50MPa ・ 50MPa ~ 100MPa ・ 100MPa 以上	※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示		・ 塗膜はく離剤工法	※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示		○ 水洗い工法	※ サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上げ面全体 ・ 図示		<p>4-6 外壁改修工事(タイル張り仕上げ外壁)</p> <p>※ 樹脂注入工法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>200~300</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td></td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td></td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>※上記注入量については、あくまでも参考数量である。上記注入量に関わらず適切な注入工法によりそれ以上注入が出来るまで注入を行うこと。</p> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない ※ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>2 欠損部改修工法</p> <p>※ 充填工法 [4.1.4] [4.4.5、7、8]</p> <p>・ タイル部分張替え工法 接着剤の種類 ・ ポリマーセメントモルタル ・ 外装タイル接着剤張りの接着剤 貼付けモルタルの材料 ※ 現場調査材料 ・ 既調合材料 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※ 改修標準仕様書表4.4.2による 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材張りの接着剤試験 ・ 行う ・ 行わない ・ セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り タイル張りの工法 ・ 外装タイル( ・ 密着張り ・ 改良圧着張り ) ・ ユニットタイル( ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り ) ・ 有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張り 目地塗め ※ 行う ・ 行わない 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ※ 目置し工法 ・ シーリング材の種類 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変成シリコン系 タイル目地 ※ ポリサルファイド系</p> <p>3 目地改修工法</p> <p>※ 目地ひび割れ部改修工法 [4.1.4] [4.4.5、16]</p> <p>・ 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ※ 図示</p> <p>4 外壁複合改修工法</p> <p>平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40		0.3以上0.5未満		※70		0.5以上1.0未満		※130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40		0.3以上0.5未満	100~200	※70		0.5以上1.0未満	150~250	※130	<p>4-7 外壁改修工事(タイル張り仕上げ外壁)</p> <p>※ 樹脂注入工法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>200~300</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td></td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td></td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>※上記注入量については、あくまでも参考数量である。上記注入量に関わらず適切な注入工法によりそれ以上注入が出来るまで注入を行うこと。</p> <p>注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う ・ コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・ コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない ※ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>3 仕上塗材仕上げ</p> <p>建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放数量 ※ F☆☆☆☆ 仕上塗材の種類 ○ 薄付け仕上塗材</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td>※ 外装薄塗材E</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 軒天用仕上塗材</td> <td>砂壁状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> </table> <p>水性アクリルシリコン樹脂系軒天用仕上塗材 エスケー化研(株) ノキフレッシュ 菊水化学工業(株) ノキテンファイナS スズカフイン(株) ビーズコートS1 同等品</p> <p>・ 厚付け仕上塗材</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>上塗り材</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・ 適用する</td> <td>・ 適用する</td> </tr> </table> <p>○ 複層仕上塗材</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>上塗り材の種類</th> <th>耐水性</th> <th>耐火性</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td>※ 複層塗材E</td> <td></td> <td></td> <td>溶媒 ※ 水系 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり</td> <td>※ 耐水性3種</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 可とう形改修塗材RE</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>耐火性</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td></td> <td>平たん状</td> <td>ローラー</td> <td>シリコン</td> <td></td> </tr> </table> <p>軽量骨材仕上塗材</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>4 マスチック塗材塗り</p> <p>種類 ・ A種 ・ B種 [4.1.5] [4.6.2] [表4.6.1]</p> <p>5 外壁用塗膜防水材塗り</p> <p>[4.1.5] [4.7.2、3] [表4.7.1]</p> <p>工法及び仕上げの形状 ・ 吹付け ( ・ 凹凸状 ・ 凸部処理 ) ・ ローラー塗り ( ・ 砂状 ・ さざ波状 ) 仕上げ塗料の耐水性 ・ 耐水性1種 ・ 耐水性2種 ・ 耐水性3種 下地準拠樹脂材の適用 ・ 適用する ・ 適用しない コンクリート面のひび割れ部及び欠損部の処理は、改修特記仕様書4-2章外壁改修工事(コンクリート打放し仕上げ外壁改修)による。 モルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処理は、改修特記仕様書4-3章外壁改修工事(モルタル塗り仕上げ外壁改修)による。 吹付け工法の仕様材の種類 ( ・ 所要量 (kg/m<sup>2</sup>) ) 外壁用仕上塗料の種類 ( ・ 所要量 (kg/m<sup>2</sup>) )</p> <p>外壁改修ロープ及び数量 ○ コンクリート打放し仕上げ外壁の場合</p> <p>既存仕上げ材の処理範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</p> <p>外壁調査(施工数量調査)</p> <p>ひび割れ部改修 欠損部改修</p> <p>樹脂注入工法(注1) A) 0.2以上0.3未満 0m A) 0.3以上0.5未満 0m A) 0.5以上1.0未満 0m B) 0.2以上0.3未満 0m C) 0.3以上0.5未満 0m C) 0.5以上1.0未満 0m</p> <p>Uカットシール材充填工法 0m</p> <p>シール工法 1号棟10.4m 2号棟10.8m</p> <p>充填工法 100×300×30mm程度 1号棟: 1.7m<sup>2</sup> 2号棟: 2.0m<sup>2</sup> 0ヶ所</p> <p>鋼鉄部補修工法(改修標準仕様書4.3.3(b)) 幅100mm程度 1号棟: 5.6m 2号棟: 2.5m 0m</p> <p>下地調整材の施工範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ○ 図示</p> <p>仕上塗材仕上げ施工範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</p> <p>○ モルタル塗り仕上げ外壁の場合</p> <p>既存仕上げ材の処理範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</p> <p>外壁調査(施工数量調査)</p> <p>ひび割れ部改修 欠損部改修 浮き部改修</p> <p>モルタル撤去 ・ しない ・ する</p> <p>アンカーピンニング注入工法</p> <p>樹脂注入工法(注1) A) 0.2以上0.3未満 0m A) 0.3以上0.5未満 0m A) 0.5以上1.0未満 0m B) 0.2以上0.3未満 0m C) 0.3以上0.5未満 0m C) 0.5以上1.0未満 0m</p> <p>Uカットシール材充填工法 0m</p> <p>シール工法 1号棟0.1m<sup>2</sup> 0m<sup>2</sup></p> <p>充填工法 1号棟10.4m 2号棟10.8m</p> <p>モルタル塗替え工法(工法名) 1号棟0.4m<sup>2</sup> 2号棟0.2m<sup>2</sup></p> <p>鋼鉄部補修工法(改修標準仕様書4.3.3(b)) 幅100mm程度 1号棟: 5.6m 2号棟: 2.5m 0m</p> <p>下地調整材の施工範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</p> <p>仕上塗材仕上げ施工範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示</p> <p>・ タイル張り仕上げ外壁の場合</p> <p>外壁調査(施工数量調査)</p> <p>ひび割れ部改修 欠損部改修 浮き部改修 目地改修</p> <p>タイル撤去 ・ する ・ しない</p> <p>アンカーピンニング注入工法</p> <p>樹脂注入工法(注1) A) 0.2以上0.3未満 0m A) 0.3以上0.5未満 0m A) 0.5以上1.0未満 0m B) 0.2以上0.3未満 0m C) 0.3以上0.5未満 0m C) 0.5以上1.0未満 0m</p> <p>Uカットシール材充填工法 0m</p> <p>タイル部分張替え工法 0m<sup>2</sup></p> <p>タイル張替え工法 0m<sup>2</sup></p> <p>(工法名) 注入口付アンカーピンニング部分樹脂注入工法 幅100mm程度 1号棟: 5.6m 2号棟: 2.5m 0m</p> <p>目地ひび割れ改修 mm × mm</p> <p>伸縮目地改修 mm × mm</p> <p>0m</p> <p>(注1) 4-2、1-4-3、1及び4-4-2のひび割れ部改修工法における樹脂注入工法の種類を示す A) 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、B) 手動式エポキシ樹脂注入工法、C) 機械式エポキシ樹脂注入工法</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40		0.3以上0.5未満		※70		0.5以上1.0未満		※130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40		0.3以上0.5未満	100~200	※70		0.5以上1.0未満	150~250	※130	呼び名	仕上げの形状	工法	防火材料	※ 外装薄塗材E				○ 軒天用仕上塗材	砂壁状	ローラー		呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材	防火材料				・ 適用する	・ 適用する	呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	耐水性	耐火性	防火材料	※ 複層塗材E			溶媒 ※ 水系 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり	※ 耐水性3種			呼び名	仕上げの形状	工法	耐火性	防火材料		平たん状	ローラー	シリコン		呼び名	防火材料			<p>設計者・設計事務所名</p> <p>〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室</p> <p>MASAA</p> <p>1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美</p> <p>工事名</p> <p>令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事</p> <p>図面内容・縮尺</p> <p>A2: 100% A3: 71%縮小</p> <p>設計</p> <p>令和7年</p> <p>図面番号</p> <p>A</p> <p>4</p>
	項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																																												
	だれ	下がり量 (mm)	5以内																																																																																																																																																																																																																																																											
		表面の状態	ひび割れの発生が無いこと。																																																																																																																																																																																																																																																											
曲げ強さ (N/mm <sup>2</sup> )		6.0以上																																																																																																																																																																																																																																																												
圧縮強さ (N/mm <sup>2</sup> )		20.0以上																																																																																																																																																																																																																																																												
接着強さ (N/mm <sup>2</sup> )	標準条件	1.0以上																																																																																																																																																																																																																																																												
	特殊条件	0.8以上																																																																																																																																																																																																																																																												
	湿潤時	0.5以上																																																																																																																																																																																																																																																												
	低温時	0.5以上																																																																																																																																																																																																																																																												
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																																																																											
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.3以上0.5未満		※70																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満		※130																																																																																																																																																																																																																																																											
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.3以上0.5未満	100~200	※70																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満	150~250	※130																																																																																																																																																																																																																																																											
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																																																																											
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.3以上0.5未満		※70																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満		※130																																																																																																																																																																																																																																																											
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.3以上0.5未満	100~200	※70																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満	150~250	※130																																																																																																																																																																																																																																																											
工法の種類	形状・寸法	再生材料	吸水率による区分	うわぐすり	吸物	色	耐凍害性	耐凍害性	備考																																																																																																																																																																																																																																																					
	(mm)	適用	I期 II期 III期	厚さ	厚さ	標準	特注	有	無																																																																																																																																																																																																																																																					
内装	出隅	天端																																																																																																																																																																																																																																																												
外装	出隅	窓台、マグサ(標準一体成型品以外は接着成型品とする)																																																																																																																																																																																																																																																												
工法	処理範囲	下地の補修																																																																																																																																																																																																																																																												
○ サンダー工法(塗膜等浮き部・劣化等)	※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示	4-2 外壁改修工事(コンクリート打放し仕上げ外壁) 4-3 外壁改修工事(モルタル塗仕上げ外壁) による																																																																																																																																																																																																																																																												
・ 高圧水洗工法 吐出圧力 ・ 30MPa ~ 50MPa ・ 50MPa ~ 100MPa ・ 100MPa 以上	※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示																																																																																																																																																																																																																																																													
・ 塗膜はく離剤工法	※ 既存仕上げ面全体 ・ 図示																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 水洗い工法	※ サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上げ面全体 ・ 図示																																																																																																																																																																																																																																																													
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																																																																											
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.3以上0.5未満		※70																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満		※130																																																																																																																																																																																																																																																											
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.3以上0.5未満	100~200	※70																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満	150~250	※130																																																																																																																																																																																																																																																											
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																																																																											
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200~300	※40																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.3以上0.5未満		※70																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満		※130																																																																																																																																																																																																																																																											
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.3以上0.5未満	100~200	※70																																																																																																																																																																																																																																																											
	0.5以上1.0未満	150~250	※130																																																																																																																																																																																																																																																											
呼び名	仕上げの形状	工法	防火材料																																																																																																																																																																																																																																																											
※ 外装薄塗材E																																																																																																																																																																																																																																																														
○ 軒天用仕上塗材	砂壁状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																												
呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材	防火材料																																																																																																																																																																																																																																																										
			・ 適用する	・ 適用する																																																																																																																																																																																																																																																										
呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	耐水性	耐火性	防火材料																																																																																																																																																																																																																																																								
※ 複層塗材E			溶媒 ※ 水系 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり	※ 耐水性3種																																																																																																																																																																																																																																																										
呼び名	仕上げの形状	工法	耐火性	防火材料																																																																																																																																																																																																																																																										
	平たん状	ローラー	シリコン																																																																																																																																																																																																																																																											
呼び名	防火材料																																																																																																																																																																																																																																																													

22	合成樹脂塗床	[ 6. 1. 0. 2. 3 ]				<p>・化粧バーティクルボード</p> <p>・単板オーバーレイ DV</p> <p>・プラスチックオーバーレイ DO</p> <p>・塗装 DC</p> <p>・10 (難燃) ・12 (難燃)</p> <p>・ハードボード (素地) HB</p> <p>・無研磨板 ( ・スタンダード ・テンバード RN)</p> <p>・研磨板 ( ・スタンダード ・テンバード RS)</p> <p>・ハードボード (化粧)</p> <p>・内装用DI ・外装用DE</p> <p>・2.5 ・3.5 ・5 ・7</p> <p>・インシュレーションボード IB</p> <p>A線 ( ・天井仕上り ・内装仕上り )</p> <p>・9 ・12 ・15 ・18</p> <p>天井のボード類 (ロックワール吸音板を除く) の重ね張りを行う場合</p> <p>※ 図示による</p> <p>合板の張付け ・ A種 ・ B種</p> <p>せっこうボードの目地工法 ※ 仕上表による</p>																																																																																																																														
		種類	施工箇所	工法	仕上げの種類																																																																																																																															
23	防じん用塗床	[ 6. 1. 0. 2. 3 ]				<p>・ 厚膜型塗床材</p> <p>・ 弾性ウレタン樹脂系塗床</p> <p>・ 厚膜型塗床材</p> <p>・ エポキシ樹脂系塗床</p> <p>・ 薄膜型塗床材</p> <p>塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆</p> <p>材料 水性アクリル系樹脂塗料とし、製造所の指定する製品とする</p> <p>工法 製造所の指定する工法とする</p> <p>なお、上塗りとは2回塗りとし、総塗布量は0.25kg/m<sup>2</sup>以上とする</p> <p>仕上げの種類 ( ※ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ ) ( ※ 標準色 )</p> <p>JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆</p>																																																																																																																														
		種類	施工箇所	工法	仕上げの種類																																																																																																																															
24	フローリング張り	[ 6. 1. 1. 2 ~ 6 ]				<p>・ 化粧強化 (標準時) の試験方法</p> <p>イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合</p> <p>(試験体の作製) JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちに(1)で調整した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による施すの「50角ユニットタイル(外のり寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で温湿養生を行い、これを試験体とする。</p> <p>(試験方法) JIS A 6909「建築用仕上げ塗料」の10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接続し、引張試験機を用いて接着強さを試験する。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中央からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0.6N/mm<sup>2</sup>以上を確保していること)</p> <p>また、試験後の部材破断位置の表示を下記の図の中から選び明記する。</p> <p>T : タイルの母材破断 MG : 既調合モルタルと下地板の界面破断</p> <p>TM : 既調合モルタルとタイルの界面破断 G : 下地板の母材破断</p> <p>M : 既調合モルタルの母材破断</p> <p>ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合</p> <p>(試験体の作製) JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちに(1)で調整した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押し出し又はプレス成形による施すの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を2枚別、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で温湿養生を行い、これを試験体とする。</p> <p>(試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。</p> <p>(5) 接着強さ (温冷縮後) の試験方法</p> <p>(試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々(4)の接着強さ (標準時) の試験方法の「試験体」と同様とする。</p> <p>(温冷縮後試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々JIS A 6909「建築用仕上げ塗料」に規定する7.11温冷縮後試験に準じて行う。</p> <p>試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せしめた後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。</p> <p>(温冷縮後試験後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々温冷縮後試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm<sup>2</sup>以上を確保していること)</p> <p>(6) 長さ変化率の試験方法</p> <p>JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスページョン及び再乳化粉砕樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。</p> <p>(7) 曲げ強さの試験方法</p> <p>JIS A 6916「建築用下地調整塗料」の7.11曲げ強さ試験に準ずる。</p> <p>試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。</p> <p>既調合目地材 (品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>防水剤の種類</td> <td>建築用のモルタルに用いるセメント防水剤</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>混合割合</td> <td>セメント重量の5%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>凝結及び安定性</td> <td>(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>曲げ及び圧縮強度比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>吸水比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>透水比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ただし、透水試験における水圧は、3.0×10<sup>5</sup>Paとし1時間行う</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> </table> <p>既調合目地材 (品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>防水剤の種類</td> <td>建築用のモルタルに用いるセメント防水剤</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>混合割合</td> <td>セメント重量の5%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>凝結及び安定性</td> <td>(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>曲げ及び圧縮強度比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>吸水比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>透水比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ただし、透水試験における水圧は、3.0×10<sup>5</sup>Paとし1時間行う</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> </table> <p>既調合目地材 (品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>保水率</td> <td>70.0%以上</td> <td>長さ変化率</td> <td>0.20%以下</td> </tr> <tr> <td>単位容積質量</td> <td>1.80kg/L以上</td> <td>曲げ強さ</td> <td>4.0N/mm<sup>2</sup>以上</td> </tr> <tr> <td>接着強さ</td> <td>標準時 0.60N/mm<sup>2</sup>以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>温冷縮後 0.40N/mm<sup>2</sup>以上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 試料の調整</p> <p>製造業者の定める、正味質量と標準練り上り量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。</p> <p>練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。</p> <p>(2) 保水率の試験方法</p> <p>JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦150mm、横150mm、厚さ5mm) の上にJIS P 3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径110mm) をのせ、その中央部に真鍮リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(1)で調整した試料を平滑に詰め込む。</p> <p>その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをもぎを用いて、1mmの単位まで測定する。</p> <p>試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。</p> <p>保水率=50/平均値×100 (注) 50: リング型わくの直径 mm</p> <p>(3) 単位容積質量の試験方法</p> <p>JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。</p>	項目	品質・性能	項目	品質・性能	防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	項目	品質・性能	混合割合	セメント重量の5%以下	項目	品質・性能	凝結及び安定性	(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内	項目	品質・性能		(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。	項目	品質・性能	曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	項目	品質・性能	吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下	項目	品質・性能	透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下	項目	品質・性能		ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 <sup>5</sup> Paとし1時間行う	項目	品質・性能	項目	品質・性能	項目	品質・性能	防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	項目	品質・性能	混合割合	セメント重量の5%以下	項目	品質・性能	凝結及び安定性	(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内	項目	品質・性能		(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。	項目	品質・性能	曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	項目	品質・性能	吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下	項目	品質・性能	透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下	項目	品質・性能		ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 <sup>5</sup> Paとし1時間行う	項目	品質・性能	項目	品質・性能	項目	品質・性能	保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下	単位容積質量	1.80kg/L以上	曲げ強さ	4.0N/mm <sup>2</sup> 以上	接着強さ	標準時 0.60N/mm <sup>2</sup> 以上				温冷縮後 0.40N/mm <sup>2</sup> 以上																																				
		項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																															
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	項目	品質・性能																																																																																																																																	
混合割合	セメント重量の5%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
凝結及び安定性	(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内	項目	品質・性能																																																																																																																																	
	(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。	項目	品質・性能																																																																																																																																	
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	項目	品質・性能																																																																																																																																	
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
	ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 <sup>5</sup> Paとし1時間行う	項目	品質・性能																																																																																																																																	
項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																																	
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	項目	品質・性能																																																																																																																																	
混合割合	セメント重量の5%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
凝結及び安定性	(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内	項目	品質・性能																																																																																																																																	
	(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。	項目	品質・性能																																																																																																																																	
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	項目	品質・性能																																																																																																																																	
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
	ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 <sup>5</sup> Paとし1時間行う	項目	品質・性能																																																																																																																																	
項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																																	
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下																																																																																																																																	
単位容積質量	1.80kg/L以上	曲げ強さ	4.0N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																																																																	
接着強さ	標準時 0.60N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																																																																			
	温冷縮後 0.40N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																																																																			
25	畳敷き	[ 6. 1. 2. 2 ]				<p>・ 天然木化粧合板</p> <p>・ フローリング</p> <p>・ フローリング</p> <p>・ ブロック1等</p> <p>フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標準仕様書6.11.2(2)による</p> <p>各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆</p> <p>接着工法の場合の裏面緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート</p> <p>現場塗装仕上げ ・ 行う</p> <p>※ ウレタン樹脂ワニス塗り</p> <p>・ オイルステインの上、ワックス塗り</p> <p>・ 生地のままワックス塗り</p> <p>・ 行わない</p> <p>種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ※ D種 (畳床: ・ KT-I ・ KT-II ※ KT-III ・ KT-K ・ KT-N)</p> <p>下地の種類 ・ 標準仕様書表12.6.1による床組</p> <p>・ ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロン)</p> <p>畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする</p> <p>衝撃緩和型畳 (畳表: ・ O1 ・ O2)</p> <p>MD F、バーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 [ 6. 1. 3. 2. 3 ]</p> <p>※ F☆☆☆☆</p> <p>合板のホルムアルデヒド放散量</p> <p>※ 標準仕様書19.7.2(2)(f)のa)~d)のいずれか</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>JISの記号</th> <th>厚さ (mm) 、規格等</th> </tr> <tr> <td>・ 硬質木毛セメント板</td> <td>HM</td> <td>・ 15 ・ 20 ・ 25</td> </tr> <tr> <td>・ 中質木毛セメント板</td> <td>MM</td> <td>・ 15 ・ 20 ・ 25</td> </tr> <tr> <td>・ 普通木毛セメント板</td> <td>NM</td> <td>・ 15 ・ 20 ・ 25</td> </tr> <tr> <td>・ 硬質木片セメント板</td> <td>HF</td> <td>・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21</td> </tr> <tr> <td>・ 普通木片セメント板</td> <td>NF</td> <td>・ 30</td> </tr> <tr> <td>・ けい酸カルシウム板</td> <td>0.8FK 1.0FK</td> <td>タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8</td> </tr> <tr> <td>・ 化粧けい酸カルシウム板</td> <td>0.8FK 1.0FK</td> <td>タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>表面への化粧張り等の加工 ・ アクリル樹脂系焼付け</td> </tr> <tr> <td>・ ロックワール化粧吸音板</td> <td>DR</td> <td>・ フラットタイプ ( ・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・ 凹凸タイプ ( ・ 12 (不燃) ・ 15 (不燃) )</td> </tr> <tr> <td>・ ロックワール吸音ボード1号</td> <td>RH-B</td> <td>・ 25</td> </tr> <tr> <td>・ グラスワール吸音ボード32K</td> <td>GH-B</td> <td>・ 25 (ガラスクロス包)</td> </tr> <tr> <td>・ せっこうボード</td> <td>GB-R</td> <td>※ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)</td> </tr> <tr> <td>・ 不燃不燃せっこうボード</td> <td>GB-NC</td> <td>9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>化粧有 (トラバーチン模様)</td> </tr> <tr> <td>・ シーリングせっこうボード</td> <td>GB-S</td> <td>12.5 (※不燃) ・ 準不燃</td> </tr> <tr> <td>・ 強化せっこうボード</td> <td>GB-F</td> <td>・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)</td> </tr> <tr> <td>・ せっこうラスボード</td> <td>GB-L</td> <td>9.5</td> </tr> <tr> <td>・ 化粧せっこうボード (トラバーチン模様)</td> <td>GB-D</td> <td>9.5 (準不燃)</td> </tr> <tr> <td>・ 普通合板</td> <td></td> <td>表板の樹種名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>生地、透明塗料塗り ( ※ ラウン程度 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>不透明塗料塗り ( ※ しな程度 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>板面の品質 ( )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>厚さ (mm) ( )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>接着の程度 ( ・ 1類 ・ 2類 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>防虫処理 ( ・ 行う ・ 行わない )</td> </tr> <tr> <td>・ 天然化粧合板</td> <td></td> <td>樹種名 ( )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>接着の程度 ( ・ 1類 ・ 2類 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>厚さ (mm) ( )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>防虫処理 ( ・ 行う ・ 行わない )</td> </tr> <tr> <td>・ 特殊加工化粧合板</td> <td></td> <td>化粧加工の方法 ( ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>表面性能 ( ) タイプ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>接着の程度 ( ・ 1類 ・ 2類 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>厚さ (mm) ( )</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>防虫処理 ( ・ 行う ・ 行わない )</td> </tr> <tr> <td>・ メラミン樹脂化粧板</td> <td>JIS K 6903</td> <td>になる厚さ ( ※ 1.2 )</td> </tr> <tr> <td>・ ポリエステル樹脂化粧板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ミディアムデンシティファイバーボード</td> <td>MDF</td> <td>・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12</td> </tr> <tr> <td>・ 単板張り</td> <td></td> <td>・ 無研磨板 VN ・ 研磨板 VS</td> </tr> <tr> <td>・ バーティクルボード</td> <td></td> <td>・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18</td> </tr> <tr> <td>○ フレキシブル板</td> <td>JIS K 5430</td> <td>厚さ5</td> </tr> </table>	種類	JISの記号	厚さ (mm) 、規格等	・ 硬質木毛セメント板	HM	・ 15 ・ 20 ・ 25	・ 中質木毛セメント板	MM	・ 15 ・ 20 ・ 25	・ 普通木毛セメント板	NM	・ 15 ・ 20 ・ 25	・ 硬質木片セメント板	HF	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21	・ 普通木片セメント板	NF	・ 30	・ けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8	・ 化粧けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8			表面への化粧張り等の加工 ・ アクリル樹脂系焼付け	・ ロックワール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ ( ・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) )			・ 凹凸タイプ ( ・ 12 (不燃) ・ 15 (不燃) )	・ ロックワール吸音ボード1号	RH-B	・ 25	・ グラスワール吸音ボード32K	GH-B	・ 25 (ガラスクロス包)	・ せっこうボード	GB-R	※ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)	・ 不燃不燃せっこうボード	GB-NC	9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用)			化粧有 (トラバーチン模様)	・ シーリングせっこうボード	GB-S	12.5 (※不燃) ・ 準不燃	・ 強化せっこうボード	GB-F	・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)	・ せっこうラスボード	GB-L	9.5	・ 化粧せっこうボード (トラバーチン模様)	GB-D	9.5 (準不燃)	・ 普通合板		表板の樹種名			生地、透明塗料塗り ( ※ ラウン程度 )			不透明塗料塗り ( ※ しな程度 )			板面の品質 ( )			厚さ (mm) ( )			接着の程度 ( ・ 1類 ・ 2類 )			防虫処理 ( ・ 行う ・ 行わない )	・ 天然化粧合板		樹種名 ( )			接着の程度 ( ・ 1類 ・ 2類 )			厚さ (mm) ( )			防虫処理 ( ・ 行う ・ 行わない )	・ 特殊加工化粧合板		化粧加工の方法 ( ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装)			表面性能 ( ) タイプ			接着の程度 ( ・ 1類 ・ 2類 )			厚さ (mm) ( )			防虫処理 ( ・ 行う ・ 行わない )	・ メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903	になる厚さ ( ※ 1.2 )	・ ポリエステル樹脂化粧板			・ ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12	・ 単板張り		・ 無研磨板 VN ・ 研磨板 VS	・ バーティクルボード		・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18	○ フレキシブル板	JIS K 5430	厚さ5
		種類	JISの記号	厚さ (mm) 、規格等																																																																																																																																
・ 硬質木毛セメント板	HM	・ 15 ・ 20 ・ 25																																																																																																																																		
・ 中質木毛セメント板	MM	・ 15 ・ 20 ・ 25																																																																																																																																		
・ 普通木毛セメント板	NM	・ 15 ・ 20 ・ 25																																																																																																																																		
・ 硬質木片セメント板	HF	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21																																																																																																																																		
・ 普通木片セメント板	NF	・ 30																																																																																																																																		
・ けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8																																																																																																																																		
・ 化粧けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8																																																																																																																																		
		表面への化粧張り等の加工 ・ アクリル樹脂系焼付け																																																																																																																																		
・ ロックワール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ ( ・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) )																																																																																																																																		
		・ 凹凸タイプ ( ・ 12 (不燃) ・ 15 (不燃) )																																																																																																																																		
・ ロックワール吸音ボード1号	RH-B	・ 25																																																																																																																																		
・ グラスワール吸音ボード32K	GH-B	・ 25 (ガラスクロス包)																																																																																																																																		
・ せっこうボード	GB-R	※ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)																																																																																																																																		
・ 不燃不燃せっこうボード	GB-NC	9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用)																																																																																																																																		
		化粧有 (トラバーチン模様)																																																																																																																																		
・ シーリングせっこうボード	GB-S	12.5 (※不燃) ・ 準不燃																																																																																																																																		
・ 強化せっこうボード	GB-F	・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)																																																																																																																																		
・ せっこうラスボード	GB-L	9.5																																																																																																																																		
・ 化粧せっこうボード (トラバーチン模様)	GB-D	9.5 (準不燃)																																																																																																																																		
・ 普通合板		表板の樹種名																																																																																																																																		
		生地、透明塗料塗り ( ※ ラウン程度 )																																																																																																																																		
		不透明塗料塗り ( ※ しな程度 )																																																																																																																																		
		板面の品質 ( )																																																																																																																																		
		厚さ (mm) ( )																																																																																																																																		
		接着の程度 ( ・ 1類 ・ 2類 )																																																																																																																																		
		防虫処理 ( ・ 行う ・ 行わない )																																																																																																																																		
・ 天然化粧合板		樹種名 ( )																																																																																																																																		
		接着の程度 ( ・ 1類 ・ 2類 )																																																																																																																																		
		厚さ (mm) ( )																																																																																																																																		
		防虫処理 ( ・ 行う ・ 行わない )																																																																																																																																		
・ 特殊加工化粧合板		化粧加工の方法 ( ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装)																																																																																																																																		
		表面性能 ( ) タイプ																																																																																																																																		
		接着の程度 ( ・ 1類 ・ 2類 )																																																																																																																																		
		厚さ (mm) ( )																																																																																																																																		
		防虫処理 ( ・ 行う ・ 行わない )																																																																																																																																		
・ メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903	になる厚さ ( ※ 1.2 )																																																																																																																																		
・ ポリエステル樹脂化粧板																																																																																																																																				
・ ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12																																																																																																																																		
・ 単板張り		・ 無研磨板 VN ・ 研磨板 VS																																																																																																																																		
・ バーティクルボード		・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18																																																																																																																																		
○ フレキシブル板	JIS K 5430	厚さ5																																																																																																																																		
26	せっこうボードその他ボード及び合板張り	[ 6. 1. 3. 2. 3 ]				<p>伸縮調整目地の位置 床タイル ※ 縦、横とも4m以内ごと ・ 図示</p> <p>床タイル以外 ( ※ 図示 )</p> <p>・ セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形状/寸法</th> <th>再生材料</th> <th>吸水率による区分</th> <th>うわぐすり</th> <th>役物</th> <th>色</th> <th>耐凍害性</th> <th>耐滑り性</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>(mm)</td> <td>の適用</td> <td>I類 II類 III類</td> <td>凹み凹み</td> <td>有 無</td> <td>無 特注 有</td> <td>無 有</td> <td>有 無</td> <td></td> </tr> </table> <p>耐滑り性: JIS A 1509/12 (セラミックタイル試験方法-第12部: 耐滑り性試験方法) で規定する C.S.R値は4~1.0とする。</p> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする</p> <p>試験張り ・ 行う ※ 行わない</p> <p>見本焼き ・ 行う ※ 行わない</p> <p>壁タイル張りの工法</p> <p>内装タイル ・ 密着張り ・ 改良圧着張り</p> <p>内装タイル以外のユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り</p> <p>既調合モルタル</p> <p>モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。</p> <p>(品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>保水率</td> <td>70.0%以上</td> <td>長さ変化率</td> <td>0.20%以下</td> </tr> <tr> <td>単位容積質量</td> <td>1.80kg/L以上</td> <td>曲げ強さ</td> <td>4.0N/mm<sup>2</sup>以上</td> </tr> <tr> <td>接着強さ</td> <td>標準時 0.60N/mm<sup>2</sup>以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>温冷縮後 0.40N/mm<sup>2</sup>以上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 試料の調整</p> <p>製造業者の定める、正味質量と標準練り上り量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。</p> <p>練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。</p> <p>(2) 保水率の試験方法</p> <p>JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦150mm、横150mm、厚さ5mm) の上にJIS P 3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径110mm) をのせ、その中央部に真鍮リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(1)で調整した試料を平滑に詰め込む。</p> <p>その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをもぎを用いて、1mmの単位まで測定する。</p> <p>試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。</p> <p>保水率=50/平均値×100 (注) 50: リング型わくの直径 mm</p> <p>(3) 単位容積質量の試験方法</p> <p>JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。</p>	施工箇所	形状/寸法	再生材料	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考		(mm)	の適用	I類 II類 III類	凹み凹み	有 無	無 特注 有	無 有	有 無		項目	品質・性能	項目	品質・性能	保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下	単位容積質量	1.80kg/L以上	曲げ強さ	4.0N/mm <sup>2</sup> 以上	接着強さ	標準時 0.60N/mm <sup>2</sup> 以上				温冷縮後 0.40N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																								
		施工箇所	形状/寸法	再生材料	吸水率による区分		うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考																																																																																																																								
	(mm)	の適用	I類 II類 III類	凹み凹み	有 無	無 特注 有	無 有	有 無																																																																																																																												
項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																																	
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下																																																																																																																																	
単位容積質量	1.80kg/L以上	曲げ強さ	4.0N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																																																																	
接着強さ	標準時 0.60N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																																																																			
	温冷縮後 0.40N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																																																																			
種類	施工箇所	工法	仕上げの種類																																																																																																																																	
27	壁紙張り	[ 6. 1. 4. 2. 3 ]				<p>ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>壁紙の種類</th> <th>防火性能</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>紙 繊維 塩化ビニル チック</td> <td>無機質 その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>モルタル・せっこうラスター面の素地ごしらえの種類 ※ B種</p> <p>コンクリート面の素地ごしらえの種類 ※ B種</p> <p>せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえの種類 ※ B種</p> <p>モルタル ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料 (材料)</p> <p>既製目地材 ・ 設ける 施工箇所 ( ) 形状 ( ※ 図示 )</p> <p>設けない</p> <p>床の目地 ・ 設ける (目地割り ※ 2m程度 (最大目地間隔3m程度 ) (種類 ※ 押し目地 )</p> <p>設けない</p> <p>外装タイル張り下地等の下地モルタル張り及び下地調整材張りの接着力試験</p> <p>適用する ・ 適用しない</p> <p>壁面の仕上げ厚又は全層厚が25mmを超える場合の下地処理</p> <p>・ 図示による</p> <p>建具回り等の充填モルタルに使用する防水剤 (品質・性能)</p> <p>(試験方法) JIS A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による</p> <p>項目 品質・性能</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>防水剤の種類</td> <td>建築用のモルタルに用いるセメント防水剤</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>混合割合</td> <td>セメント重量の5%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>凝結及び安定性</td> <td>(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>曲げ及び圧縮強度比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>吸水比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>透水比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ただし、透水試験における水圧は、3.0×10<sup>5</sup>Paとし1時間行う</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> </table> <p>既調合目地材 (品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>保水率</td> <td>30.0%以上</td> <td>吸水率</td> <td>50g以下</td> </tr> <tr> <td>長さ変化率</td> <td>0.2%以下 (収縮)</td> <td>単位容積質量</td> <td>1.80kg/L以上</td> </tr> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 試験の条件</p> <p>試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。</p> <p>(2) 試料の調整</p> <p>正味質量と標準練り上り量より、1.0~1.2Lの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。</p> <p>(3) 保水性 (ろ紙法)</p> <p>JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦200mm、横200mm、厚さ5mm) の上にJIS P 3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径110mm) をのせ、その中央部に真鍮リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(2)で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをもぎを用いて1mmまで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。</p> <p>保水率 (%) = 50/平均値×100 (注) 50: リング型わくの直径 (mm)</p> <p>(4) 単位容積質量</p> <p>(2)で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。</p> <p>(5) 長さ変化率</p> <p>(2)で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。</p> <p>(6) 吸水率</p> <p>(2)で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水率を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。</p> <p>有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り</p> <p>タイルの形状、寸法等</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形状/寸法</th> <th>再生材料</th> <th>吸水率による区分</th> <th>うわぐすり</th> <th>役物</th> <th>色</th> <th>耐凍害性</th> <th>耐滑り性</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>(mm)</td> <td>の適用</td> <td>I類 II類 III類</td> <td>凹み凹み</td> <td>有 無</td> <td>無 特注 有</td> <td>無 有</td> <td>有 無</td> <td></td> </tr> </table> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする</p> <p>有機系接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆</p>	施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考		紙 繊維 塩化ビニル チック	無機質 その他			・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃				・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃			項目	品質・性能	項目	品質・性能	防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	項目	品質・性能	混合割合	セメント重量の5%以下	項目	品質・性能	凝結及び安定性	(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内	項目	品質・性能		(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。	項目	品質・性能	曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	項目	品質・性能	吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下	項目	品質・性能	透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下	項目	品質・性能		ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 <sup>5</sup> Paとし1時間行う	項目	品質・性能	項目	品質・性能	項目	品質・性能	保水率	30.0%以上	吸水率	50g以下	長さ変化率	0.2%以下 (収縮)	単位容積質量	1.80kg/L以上	施工箇所	形状/寸法	再生材料	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考		(mm)	の適用	I類 II類 III類	凹み凹み	有 無	無 特注 有	無 有	有 無																																											
		施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考																																																																																																																															
	紙 繊維 塩化ビニル チック	無機質 その他																																																																																																																																		
	・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃																																																																																																																																			
	・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃																																																																																																																																			
項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																																	
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	項目	品質・性能																																																																																																																																	
混合割合	セメント重量の5%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
凝結及び安定性	(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内	項目	品質・性能																																																																																																																																	
	(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。	項目	品質・性能																																																																																																																																	
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	項目	品質・性能																																																																																																																																	
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
	ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 <sup>5</sup> Paとし1時間行う	項目	品質・性能																																																																																																																																	
項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																																	
保水率	30.0%以上	吸水率	50g以下																																																																																																																																	
長さ変化率	0.2%以下 (収縮)	単位容積質量	1.80kg/L以上																																																																																																																																	
施工箇所	形状/寸法	再生材料	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考																																																																																																																											
	(mm)	の適用	I類 II類 III類	凹み凹み	有 無	無 特注 有	無 有	有 無																																																																																																																												
種類	施工箇所	工法	仕上げの種類																																																																																																																																	
28	モルタル塗り	[ 6. 1. 5. 3. 5. 6 ]				<p>モルタル ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料 (材料)</p> <p>既製目地材 ・ 設ける 施工箇所 ( ) 形状 ( ※ 図示 )</p> <p>設けない</p> <p>床の目地 ・ 設ける (目地割り ※ 2m程度 (最大目地間隔3m程度 ) (種類 ※ 押し目地 )</p> <p>設けない</p> <p>外装タイル張り下地等の下地モルタル張り及び下地調整材張りの接着力試験</p> <p>適用する ・ 適用しない</p> <p>壁面の仕上げ厚又は全層厚が25mmを超える場合の下地処理</p> <p>・ 図示による</p> <p>建具回り等の充填モルタルに使用する防水剤 (品質・性能)</p> <p>(試験方法) JIS A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による</p> <p>項目 品質・性能</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>防水剤の種類</td> <td>建築用のモルタルに用いるセメント防水剤</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>混合割合</td> <td>セメント重量の5%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>凝結及び安定性</td> <td>(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>曲げ及び圧縮強度比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>吸水比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td>透水比</td> <td>防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ただし、透水試験における水圧は、3.0×10<sup>5</sup>Paとし1時間行う</td> <td>項目</td> <td>品質・性能</td> </tr> </table> <p>既調合目地材 (品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>保水率</td> <td>30.0%以上</td> <td>吸水率</td> <td>50g以下</td> </tr> <tr> <td>長さ変化率</td> <td>0.2%以下 (収縮)</td> <td>単位容積質量</td> <td>1.80kg/L以上</td> </tr> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 試験の条件</p> <p>試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。</p> <p>(2) 試料の調整</p> <p>正味質量と標準練り上り量より、1.0~1.2Lの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。</p> <p>(3) 保水性 (ろ紙法)</p> <p>JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦200mm、横200mm、厚さ5mm) の上にJIS P 3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径110mm) をのせ、その中央部に真鍮リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(2)で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをもぎを用いて1mmまで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。</p> <p>保水率 (%) = 50/平均値×100 (注) 50: リング型わくの直径 (mm)</p> <p>(4) 単位容積質量</p> <p>(2)で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。</p> <p>(5) 長さ変化率</p> <p>(2)で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。</p> <p>(6) 吸水率</p> <p>(2)で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水率を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。</p> <p>有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り</p> <p>タイルの形状、寸法等</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形状/寸法</th> <th>再生材料</th> <th>吸水率による区分</th> <th>うわぐすり</th> <th>役物</th> <th>色</th> <th>耐凍害性</th> <th>耐滑り性</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>(mm)</td> <td>の適用</td> <td>I類 II類 III類</td> <td>凹み凹み</td> <td>有 無</td> <td>無 特注 有</td> <td>無 有</td> <td>有 無</td> <td></td> </tr> </table> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする</p> <p>有機系接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆</p>	項目	品質・性能	項目	品質・性能	防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	項目	品質・性能	混合割合	セメント重量の5%以下	項目	品質・性能	凝結及び安定性	(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内	項目	品質・性能		(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。	項目	品質・性能	曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	項目	品質・性能	吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下	項目	品質・性能	透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下	項目	品質・性能		ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 <sup>5</sup> Paとし1時間行う	項目	品質・性能	項目	品質・性能	項目	品質・性能	保水率	30.0%以上	吸水率	50g以下	長さ変化率	0.2%以下 (収縮)	単位容積質量	1.80kg/L以上	施工箇所	形状/寸法	再生材料	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考		(mm)	の適用	I類 II類 III類	凹み凹み	有 無	無 特注 有	無 有	有 無																																																											
		項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																															
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤	項目	品質・性能																																																																																																																																	
混合割合	セメント重量の5%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
凝結及び安定性	(凝結時間) 始発 : 時間以上 終結 : 10時間以内	項目	品質・性能																																																																																																																																	
	(安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びその有無について確認する。	項目	品質・性能																																																																																																																																	
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上	項目	品質・性能																																																																																																																																	
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 90%以下	項目	品質・性能																																																																																																																																	
	ただし、透水試験における水圧は、3.0×10 <sup>5</sup> Paとし1時間行う	項目	品質・性能																																																																																																																																	
項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																																	
保水率	30.0%以上	吸水率	50g以下																																																																																																																																	
長さ変化率	0.2%以下 (収縮)	単位容積質量	1.80kg/L以上																																																																																																																																	
施工箇所	形状/寸法	再生材料	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考																																																																																																																											
	(mm)	の適用	I類 II類 III類	凹み凹み	有 無	無 特注 有	無 有	有 無																																																																																																																												
種類	施工箇所	工法	仕上げの種類																																																																																																																																	
29	タイル張り	[ 6. 1. 6. 2 ~ 4 ]				<p>伸縮調整目地の位置 床タイル ※ 縦、横とも4m以内ごと ・ 図示</p> <p>床タイル以外 ( ※ 図示 )</p> <p>・ セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形状/寸法</th> <th>再生材料</th> <th>吸水率による区分</th> <th>うわぐすり</th> <th>役物</th> <th>色</th> <th>耐凍害性</th> <th>耐滑り性</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>(mm)</td> <td>の適用</td> <td>I類 II類 III類</td> <td>凹み凹み</td> <td>有 無</td> <td>無 特注 有</td> <td>無 有</td> <td>有 無</td> <td></td> </tr> </table> <p>耐滑り性: JIS A 1509/12 (セラミックタイル試験方法-第12部: 耐滑り性試験方法) で規定する C.S.R値は4~1.0とする。</p> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする</p> <p>試験張り ・ 行う ※ 行わない</p> <p>見本焼き ・ 行う ※ 行わない</p> <p>壁タイル張りの工法</p> <p>内装タイル ・ 密着張り ・ 改良圧着張り</p> <p>内装タイル以外のユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り</p> <p>既調合モルタル</p> <p>モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。</p> <p>(品質・性能)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>保水率</td> <td>70.0%以上</td> <td>長さ変化率</td> <td>0.20%以下</td> </tr> <tr> <td>単位容積質量</td> <td>1.80kg/L以上</td> <td>曲げ強さ</td> <td>4.0N/mm<sup>2</sup>以上</td> </tr> <tr> <td>接着強さ</td> <td>標準時 0.60N/mm<sup>2</sup>以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>温冷縮後 0.40N/mm<sup>2</sup>以上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 試料の調整</p> <p>製造業者の定める、正味質量と標準練り上り量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。</p> <p>練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。</p> <p>(2) 保水率の試験方法</p> <p>JIS R 3202「</p>	施工箇所	形状/寸法	再生材料	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考		(mm)	の適用	I類 II類 III類	凹み凹み	有 無	無 特注 有	無 有	有 無		項目	品質・性能	項目	品質・性能	保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下	単位容積質量	1.80kg/L以上	曲げ強さ	4.0N/mm <sup>2</sup> 以上	接着強さ	標準時 0.60N/mm <sup>2</sup> 以上				温冷縮後 0.40N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																								
		施工箇所	形状/寸法	再生材料	吸水率による区分		うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考																																																																																																																								
	(mm)	の適用	I類 II類 III類	凹み凹み	有 無	無 特注 有	無 有	有 無																																																																																																																												
項目	品質・性能	項目	品質・性能																																																																																																																																	
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下																																																																																																																																	
単位容積質量	1.80kg/L以上	曲げ強さ	4.0N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																																																																	
接着強さ	標準時 0.60N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																																																																			
	温冷縮後 0.40N/mm <sup>2</sup> 以上																																																																																																																																			

9	1	<p>石綿含有建材の除去工事 [9. 1. 1. 3～5]</p> <p>・ 石綿粉じん濃度測定 測定時期、場所及び測定点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用</th> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点 (各施工箇所ごと)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室内</td> <td>・ 計点</td> <td>・ 計点</td> </tr> <tr> <td>・ 測定2</td> <td>処理作業前</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>・ 計点</td> <td>・ 計点</td> </tr> <tr> <td>・ 測定3</td> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内</td> <td>・ 計点</td> <td>・ 計点</td> </tr> <tr> <td>※ 測定4</td> <td>処理作業中</td> <td>セキユリティゾーン入口</td> <td>・ 計点</td> <td>・ 計点</td> </tr> <tr> <td>※ 測定5</td> <td>処理作業中</td> <td>集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)</td> <td>出口吹出し風速1m/s以下 の位置</td> <td>・ 計点</td> </tr> <tr> <td>※ 測定6</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内</td> <td>・ 計点</td> <td>・ 計点</td> </tr> <tr> <td>※ 測定7</td> <td>処理作業後 (シート養生中)</td> <td>処理作業室内</td> <td>・ 計点</td> <td>・ 計点</td> </tr> <tr> <td>・ 測定8</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内</td> <td>・ 計点</td> <td>・ 計点</td> </tr> <tr> <td>・ 測定9</td> <td>処理作業後 (シート撤去後1週間以降)</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>・ 計点</td> <td>・ 計点</td> </tr> </tbody> </table> <p>測定方法 ・ 自動測定器による測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 測定4 ・ 測定5</td> <td>粉じん相対濃度計 (デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器 (リアルタイムファイバーモニター) 等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ JIS K 3850-1に基づいた測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>メンブレンフィルタ直径 (mm)</th> <th>試料の吸引流量 (l/min)</th> <th>試料の吸引時間 (min)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 測定4 ・ 測定5</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・ 測定 ( )</td> <td>47</td> <td>10</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>・ 測定 ( )</td> <td>47</td> <td>10</td> <td>240</td> </tr> </tbody> </table> <p>石綿含有建材の処理</p> <p>・ 石綿含有吹付け材の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去工法 ※ 改修標準仕様書9.1.3(2) (7) による</p> <p>除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 ・ 圓形化</p> <p>除去した石綿含有吹付け材等の処分 ・ 埋立処分 (管理型最終処分場) ・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設) なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督職員と協議すること。</p> <p>・ 石綿含有保温材等の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去工法 ※ 原形のまま、手ばらし ・ 破砕して除去 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 ・ 圓形化</p> <p>除去した石綿含有保温材等の処分 ・ 埋立処分 (管理型最終処分場) ・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)</p> <p>○ 石綿含有成形板等 (石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外) の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去した石綿含有成形板の処分 ・ 石綿含有石こうボード ※ 埋立処分 (管理型最終処分場) ○ 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板 ○ 埋立処分 (安定型最終処分場) ・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)</p> <p>・ 石綿含有成形板等 (石綿含有けい酸カルシウム板第1種) の除去 除去対象範囲 ※ 図示 養生方法</p> <p>除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分 ・ 埋立処分 (安定型最終処分場) ・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)</p> <p>・ 石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板 (下地調整材) の除去 下記以外は、改修標準仕様書9.1.1及び9.1.2による 除去工法 ※ 石綿障害予防規則 (平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号) 第6条による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法 ・ 集じん装置併用手工具ケレン工法 ・ 集じん装置付き高圧水洗工法 (15MPa以下、30～50MPa程度) ・ 集じん装置付き超高压水洗工法 (100MPa以上) ・ 超音波ケレン工法 (HEPAフィルター付き排塵機併用) ・ 剥離剤併用手工具ケレン工法 ・ 剥離剤併用高圧水洗工法 (30～50MPa程度) ・ 剥離剤併用超高压水洗工法 (100MPa以上) ・ 剥離剤併用超音波ケレン工法 ・ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法</p> <p>除去対象範囲 ※ 図示 作業場の隔離 ※ 行わない ・ 行う 試験施工 ※ 行わない ・ 行う 養生方法</p> <p>除去した石綿含有仕上塗材の処分 ・ 埋立処分 (安定型最終処分場) ・ 中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設) 除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分 ※ 改修標準仕様書9.1.3(3)による 確認及び後片付け ※ 改修標準仕様書9.1.3(4)の(7)、(9)、(b)及び(7)による</p>	適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	・ 測定1	処理作業前	処理作業室内	・ 計点	・ 計点	・ 測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	・ 計点	・ 計点	・ 測定3	処理作業中	処理作業室内	・ 計点	・ 計点	※ 測定4	処理作業中	セキユリティゾーン入口	・ 計点	・ 計点	※ 測定5	処理作業中	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/s以下 の位置	・ 計点	※ 測定6	処理作業後	処理作業室内	・ 計点	・ 計点	※ 測定7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	・ 計点	・ 計点	・ 測定8	処理作業後	処理作業室内	・ 計点	・ 計点	・ 測定9	処理作業後 (シート撤去後1週間以降)	調査対象室外部の付近	・ 計点	・ 計点	測定名称	測定方法	・ 測定4 ・ 測定5	粉じん相対濃度計 (デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器 (リアルタイムファイバーモニター) 等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定	測定名称	メンブレンフィルタ直径 (mm)	試料の吸引流量 (l/min)	試料の吸引時間 (min)	・ 測定4 ・ 測定5	25	5	30	・ 測定 ( )	47	10	120	・ 測定 ( )	47	10	240	<p>2</p>	<p>外断熱改修工事 [9. 2. 1～4]</p> <p>石綿含有建材除去後の仕上げ工事 ※ 図示</p> <p>断熱材 [9. 2. 1～4]</p> <p>断熱材の種類 ( )、断熱材の厚さ ( mm)</p> <p>施工箇所 ※ 図示</p> <p>ホルムアルデヒド放数量 ※ F☆☆☆☆</p> <p>外装材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>防火性能</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>既存外装材の処置</p> <p>既存外装材上の撤去 ・ あり ・ なし 下地の清掃 ・ 行う ・ 行わない 欠損部がある場合の改修工法 ※ 4章外装改修工事による</p> <p>工法</p> <p>1章 適用区分による風圧力 ( ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 不陸等の下地調整 ※ 図示 通気層の有無 ・ あり ( mm) ・ なし 断熱材、外装材の施工及び外装材の外壁への取付け ※ 断熱材及び外装材製造所の仕様による</p>	種類	防火性能	備考	・	・	・	<p>3</p>	<p>断熱・防露改修工事 [9. 3. 2～4]</p> <p>フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※ F☆☆☆☆ ・ 断熱材打込み工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材</td> <td>・ 25</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)</td> <td>※ 2種 b A ※ 25 ※ 外壁</td> <td>※ スラブ</td> </tr> <tr> <td>・ 硬質ウレタンフォーム断熱材</td> <td>・ 25</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ フェノールフォーム断熱材</td> <td>・ 25</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による</p> <p>・ 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※ A種1 ・ A種1H 吹付け厚さ (mm) ・ 25 ・ 30 施工箇所 ※ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフレイン回りの床下等、部分的に後張りとしなければならない箇所 ・ 図示</p> <p>現場発泡断熱材 (品質・性能)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>難燃性</td> <td>下記のいずれかによってのこと (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験 (コーンカロリ試験) に適合していること。</td> </tr> <tr> <td>発熱性</td> <td>準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が8MJ/m<sup>2</sup>以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及びひびきがないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m<sup>2</sup>を超えないこと。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 原液試験 (原液粘度試験) JIS K 7117-1「プラスチック-液状、乳濁状又は分散状の樹脂-ブロックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。</p> <p>(2) 発泡体試験</p> <p>1) 試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。</p> <p>2) 試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験体の作製はJIS A 9526の6.2.3による。</p> <p>3) 試験体は、JIS A 9526の6.2.4による。</p> <p>4) 圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5による。</p> <p>5) 熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。</p> <p>6) 接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7による。</p> <p>7) 透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。</p> <p>(3) 難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。</p> <p>1) 難燃性の試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。</p> <p>2) 発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。</p> <p>・ 断熱材後張り工法 断熱材の種類 ( ) 断熱材の厚さ ( mm) ・ 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル (材質 厚さ mm)</p> <p>・ 張り付け工法 断熱材の張り付け工法 断熱材へのボードの張り付け工法</p>	種類	厚さ (mm)	施工箇所	・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 25	・	※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)	※ 2種 b A ※ 25 ※ 外壁	※ スラブ	・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ 25	・	・ フェノールフォーム断熱材	・ 25	・	項目	品質・性能	難燃性	下記のいずれかによってのこと (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験 (コーンカロリ試験) に適合していること。	発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が8MJ/m <sup>2</sup> 以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及びひびきがないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m <sup>2</sup> を超えないこと。	<p>10</p>	<p>その他</p>
		適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)																																																																																																			
・ 測定1	処理作業前	処理作業室内	・ 計点	・ 計点																																																																																																					
・ 測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	・ 計点	・ 計点																																																																																																					
・ 測定3	処理作業中	処理作業室内	・ 計点	・ 計点																																																																																																					
※ 測定4	処理作業中	セキユリティゾーン入口	・ 計点	・ 計点																																																																																																					
※ 測定5	処理作業中	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/s以下 の位置	・ 計点																																																																																																					
※ 測定6	処理作業後	処理作業室内	・ 計点	・ 計点																																																																																																					
※ 測定7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	・ 計点	・ 計点																																																																																																					
・ 測定8	処理作業後	処理作業室内	・ 計点	・ 計点																																																																																																					
・ 測定9	処理作業後 (シート撤去後1週間以降)	調査対象室外部の付近	・ 計点	・ 計点																																																																																																					
測定名称	測定方法																																																																																																								
・ 測定4 ・ 測定5	粉じん相対濃度計 (デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器 (リアルタイムファイバーモニター) 等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定																																																																																																								
測定名称	メンブレンフィルタ直径 (mm)	試料の吸引流量 (l/min)	試料の吸引時間 (min)																																																																																																						
・ 測定4 ・ 測定5	25	5	30																																																																																																						
・ 測定 ( )	47	10	120																																																																																																						
・ 測定 ( )	47	10	240																																																																																																						
種類	防火性能	備考																																																																																																							
・	・	・																																																																																																							
種類	厚さ (mm)	施工箇所																																																																																																							
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 25	・																																																																																																							
※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)	※ 2種 b A ※ 25 ※ 外壁	※ スラブ																																																																																																							
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ 25	・																																																																																																							
・ フェノールフォーム断熱材	・ 25	・																																																																																																							
項目	品質・性能																																																																																																								
難燃性	下記のいずれかによってのこと (1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験 (コーンカロリ試験) に適合していること。																																																																																																								
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1) 総発熱量が8MJ/m <sup>2</sup> 以下であること。 (2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及びひびきがないこと。 (3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/m <sup>2</sup> を超えないこと。																																																																																																								
9	1	<p>フリーアクセスフロア (2.0.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>構造</th> <th>・ 置数式</th> <th>・ 支柱調整式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所定荷重</td> <td>※ 3,000N ・ 5,000N</td> <td>※ 3,000N ・ 5,000N</td> </tr> <tr> <td>耐震性能</td> <td>・ 1.0 ・ 0.6</td> <td>・ 1.0 ・ 0.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>パネル寸法 (mm)</p> <p>高さ (mm)</p> <p>表面仕上材 ※ タイルカーベット ※ タイルカーベット ※ 帯電防止床タイル ※ 帯電防止床タイル</p> <p>施工箇所 ※ 図示 ※ 図示</p> <p>寸法精度 ※ 標準仕様書20.2.2(2) (4) (a)～(c)による</p> <p>スロープ及びボーダー ※ 製造所の仕様による ・ 図示 配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 製造所の仕様による ・ 20～30パーセント 配線取り出し開口 ※ 製造所の仕様による ・ パネル枚につき、40mm×80mm程度の開口1箇所以上</p> <p>空調用吹き出し (吸い込み) パネル ・ なし ・ あり (形式、施工箇所: ※ 図示 ・ )</p> <p>(性能)</p> <p>(1) 耐荷重性能 変形5.0mm以下 残留変形3.0mm以下 (2) 耐衝撃性能 残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと (3) ローリングロード性能 所定荷重1,000N (5,000Nの積載荷重は1,000N以上で任意) による繰り返し試験後、残留変形3.0mm以下 (4) 耐震性能</p> <p>イ) 固定台試験による耐震性能</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき</td> <td>水平荷重の1/2以下が下記&lt;適用地震時水平力&gt;以上</td> </tr> <tr> <td>② 上記①以外の部分耐力に達したとき</td> <td>水平荷重の1/1.5以下が下記&lt;適用地震時水平力&gt;以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位 構造床面からの高さの1/50以下</p> <p>&lt;適用地震時水平力&gt; 3,000N 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m<sup>2</sup>当り自重+3,000N)/m<sup>2</sup>当りの支柱本数]×0.6 3,000N 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m<sup>2</sup>当り自重+3,000N)/m<sup>2</sup>当りの支柱本数]×1.0 5,000N 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m<sup>2</sup>当り自重+5,000N)/m<sup>2</sup>当りの支柱本数]×0.6 5,000N 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重 [(m<sup>2</sup>当り自重+5,000N)/m<sup>2</sup>当りの支柱本数]×1.0</p> <p>ロ) 振動台試験による耐震性能 (設計床高≤300mmの場合のみ) 振動台試験において、パネルの脱落や使用上又は避難上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。</p> <p>(5) 耐熱性能 建築基準法第2条第9号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒</p> <p>(6) 帯電防止性能評価値 (U) 0.6以上</p> <p>(7) 感電防止性能 漏えい抵抗 (R) ≥1×10<sup>8</sup>Ω</p> <p>(8) 歩行感 通常の歩行において空音響やたつきがなく、歩行感に違和感がない</p> <p>(9) メンテナンス性 交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。</p> <p>(試験方法)</p> <p>(1) 耐震性能</p> <p>1) 設計床高≤300mmの場合 試験体ユニット700mm×2500mm程度 所定の重りの質量 3000N:200kg 5000N:350kg 加振 0.6:浮定加速度600cm/S<sup>2</sup> 1.0:所定加速度1000cm/S<sup>2</sup></p> <p>2) 300mm&lt;設計床高≤600mmの場合 ① 固定台による耐震性能試験 イ、支柱調整式・支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法-1又は、試験方法-2による。 ロ、原則として、試験方法-1はパネル単体設置 (Aタイプ) に適用し、試験方法-2はパネル連結設置 (Bタイプ) に適用するものとする。</p> <p>② 試験方法-1 イ、試験は、コンクリート (JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300) に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。 ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。</p> <p>③ 試験方法-2 イ、試験は、コンクリート (JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類: N300) に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。 ロ、最終的に水平力を持つ支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重板1,900N (3,000N/1m<sup>2</sup>相当) を1箇所設ける。試験体数は、1セットとする。</p> <p>④ 零点修正及び測定記録 試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1/2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を零点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。</p> <p>3) 共通事項 試験に使用する表面仕上げ材 種類: タイルカーベット 繊維素材: ナイロン100 % パイル形態: ルーフパイル パイル長: 3.0mm～4.0mm パッキング素材: 塩化ビニル樹脂 全厚: 6.0mm～7.0mm 単位質量: 4.0kg/m<sup>2</sup>～6.0kg/m<sup>2</sup> 人体耐電圧: 2KV以下</p>	構造	・ 置数式	・ 支柱調整式	所定荷重	※ 3,000N ・ 5,000N	※ 3,000N ・ 5,000N	耐震性能	・ 1.0 ・ 0.6	・ 1.0 ・ 0.6	項目	性能	① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき	水平荷重の1/2以下が下記<適用地震時水平力>以上	② 上記①以外の部分耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5以下が下記<適用地震時水平力>以上	<p>2</p>	<p>表示 (2.0.2.11)</p> <p>案内用記号はJIS Z 8210による。 誘導標識、非常用出入口等の表示 ※ 消防法に適合する市販品 室名札、ビクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等 ※ 図示</p>																																																																																						
		構造	・ 置数式	・ 支柱調整式																																																																																																					
所定荷重	※ 3,000N ・ 5,000N	※ 3,000N ・ 5,000N																																																																																																							
耐震性能	・ 1.0 ・ 0.6	・ 1.0 ・ 0.6																																																																																																							
項目	性能																																																																																																								
① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき	水平荷重の1/2以下が下記<適用地震時水平力>以上																																																																																																								
② 上記①以外の部分耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5以下が下記<適用地震時水平力>以上																																																																																																								
3	<p>ブラインド (2.0.2.14)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>操作方法</th> <th>種類</th> <th>スラットの材質</th> <th>スラット幅 (mm)</th> <th>ボックスレールの材質</th> <th>幅・高さ取付箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 横形</td> <td>※ 手動</td> <td>※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式</td> <td>※ アルミニウム合金製</td> <td>※ 25</td> <td>※ 鋼製</td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ 縦形</td> <td>※ 手動</td> <td>※ 2本操作 コード式 ・ 1本操作 コード式</td> <td>※ アルミスラット ・ クロススラット</td> <td>・ 80 ・ 100</td> <td>アルミニウム合金製</td> <td>※ 図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>アルミスラットの材質 焼付け塗装仕上げ クロススラットの材質 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工</p>	形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	幅・高さ取付箇所	・ 横形	※ 手動	※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※ アルミニウム合金製	※ 25	※ 鋼製	※ 図示	・ 縦形	※ 手動	※ 2本操作 コード式 ・ 1本操作 コード式	※ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※ 図示	<p>4</p>	<p>ロールスクリーン (2.0.2.15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>操作方式</th> <th>透光性能</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>取付箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ガラス繊維製 ・ 合成・天然繊維製 ・ 木製</td> <td>・ 電動式 ・ スプリング式 ※ チェーン式</td> <td>・ 1級 ※ 図示 ・ 2級</td> <td>※ 図示</td> <td>※ 図示</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料 ※ 製造所の仕様</p>	材質	操作方式	透光性能	寸法 (mm)	取付箇所	備考	・ ガラス繊維製 ・ 合成・天然繊維製 ・ 木製	・ 電動式 ・ スプリング式 ※ チェーン式	・ 1級 ※ 図示 ・ 2級	※ 図示	※ 図示																																																																						
形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	幅・高さ取付箇所																																																																																																			
・ 横形	※ 手動	※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※ アルミニウム合金製	※ 25	※ 鋼製	※ 図示																																																																																																			
・ 縦形	※ 手動	※ 2本操作 コード式 ・ 1本操作 コード式	※ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※ 図示																																																																																																			
材質	操作方式	透光性能	寸法 (mm)	取付箇所	備考																																																																																																				
・ ガラス繊維製 ・ 合成・天然繊維製 ・ 木製	・ 電動式 ・ スプリング式 ※ チェーン式	・ 1級 ※ 図示 ・ 2級	※ 図示	※ 図示																																																																																																					
5	<p>カーテン (2.0.2.16)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>開閉操作</th> <th>ひだの種類</th> <th>生地の種類、品質、特殊加工等</th> <th>取付箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ シングル ・ ダブル</td> <td>・ 手引き ・ 引分け ・ 電動</td> <td>・ つまみひだ ・ 箱ひだ、片ひだ ・ フレーンひだ</td> <td></td> <td>※ 図示</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(巻幕)</p>	形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種類、品質、特殊加工等	取付箇所	備考	・ シングル ・ ダブル	・ 手引き ・ 引分け ・ 電動	・ つまみひだ ・ 箱ひだ、片ひだ ・ フレーンひだ		※ 図示		<p>6</p>	<p>カーテンレール (2.0.2.16)</p> <p>材料による区分 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材 ・ ステンレス製 強さによる区分 ※ 10-90 仕上げ ※ アルマイト 形状 ※ 角形</p> <p>溝幅×深さ (mm) ・ 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 ・ 図示 材質 ・ 集成材 (仕上げ: ) ・ アルミニウム製 押出し型材 (市販品) 表面処理 ・ BC-1 ・ BC-2 (※標準色 ( ) ・ 特注色 ( )) ・ 鋼製 (仕上げ: )</p>																																																																																										
形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種類、品質、特殊加工等	取付箇所	備考																																																																																																				
・ シングル ・ ダブル	・ 手引き ・ 引分け ・ 電動	・ つまみひだ ・ 箱ひだ、片ひだ ・ フレーンひだ		※ 図示																																																																																																					
7	<p>ブラインドボックス及びカーテンボックス</p> <p>溝幅×深さ (mm) ・ 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 ・ 図示 材質 ・ 集成材 (仕上げ: ) ・ アルミニウム製 押出し型材 (市販品) 表面処理 ・ BC-1 ・ BC-2 (※標準色 ( ) ・ 特注色 ( )) ・ 鋼製 (仕上げ: )</p>	<p>8</p>	<p>天井点検口</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>外枠</th> <th>内枠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ アルミニウム製</td> <td>※ 450×450 ・ 600×600</td> <td>※ 一般形 ※ 屋内用</td> <td>※ 縦線タイプ ・ 目地タイプ</td> <td>※ 縦線タイプ ・ 目地タイプ</td> </tr> </tbody> </table> <p>(品質・性能)</p> <p>内外枠の材質 アルミニウム製 JIS H 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの 表面処理 陽極酸化処理 (JIS H 8601 (AA6) 又は同等の性能を有するもの (外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの)) 内枠及び外枠のコーティング 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの 外枠の取付け金物 鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの 内枠の仕上げ材 取付金物 アルミニウム及びアルミニウム合金押出型材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの 耐久性能 (繰り返し試験) (1) 300回の繰り返し試験後、内裏の垂れ下がり、0.5mm以内とする。 (2) 閉閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。 枠の寸法許差 ±0.5mm以内 外枠と内枠のクリアランス 片側2.0mm以内 (試験方法) 内裏 (内枠) の繰り返し閉閉試験 (1) 試験体は一般事務用とし、特異込み40mm程度のものとする。 吊り金物は、外枠を天井地下取付用補強材に直接留付ける方式 (天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式) とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定天井地下取付用補強材に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野線の種類は、19形と仕上げ材は、せっこうボード厚さ9.5mm (JIS A 6901「せっこうボード製品」のGB-Rの難燃2級又は発熱性2級以上) 二重張りとする。 (2) 試験は、内裏を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。 (3) 測定は、上記繰り返し試験を300回行い、試験後の内裏の垂れ下がり寸法を測定する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製</td> <td>・ 450×450 ・ 600×600</td> <td>・ 一般形 ・ 密閉形</td> <td>・ 扉付き ・ 屋内用</td> </tr> </tbody> </table> <p>密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものをとする。 (品質・性能)</p>	材質	寸法 (mm)	形式	外枠	内枠	※ アルミニウム製	※ 450×450 ・ 600×600	※ 一般形 ※ 屋内用	※ 縦線タイプ ・ 目地タイプ	※ 縦線タイプ ・ 目地タイプ	材質	寸法 (mm)	形式	備考	・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 扉付き ・ 屋内用																																																																																				
材質	寸法 (mm)	形式	外枠	内枠																																																																																																					
※ アルミニウム製	※ 450×450 ・ 600×600	※ 一般形 ※ 屋内用	※ 縦線タイプ ・ 目地タイプ	※ 縦線タイプ ・ 目地タイプ																																																																																																					
材質	寸法 (mm)	形式	備考																																																																																																						
・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 扉付き ・ 屋内用																																																																																																						
9	<p>床点検口</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>形式</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製</td> <td>・ 450×450 ・ 600×600</td> <td>・ 一般形 ・ 密閉形</td> <td>・ 扉付き ・ 屋内用</td> </tr> </tbody> </table> <p>密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものをとする。 (品質・性能)</p>	材質	寸法 (mm)	形式	備考	・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 扉付き ・ 屋内用	<p>設計者・設計事務所名</p> <p>東広島市都市交通部営繕課</p> <p>M A S A A</p> <p>〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室</p> <p>1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録294712号) 高藤 聡美</p> <p>工事名</p> <p>令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事</p> <p>図面内容・縮尺</p> <p>建築改修工事特記仕様書(5)</p> <p>A2:100% A3:71%縮小</p> <p>設計</p> <p>令和7年</p> <p>種別</p> <p>A</p> <p>図面番号</p> <p>6</p>																																																																																															
材質	寸法 (mm)	形式	備考																																																																																																						
・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形	・ 扉付き ・ 屋内用																																																																																																						

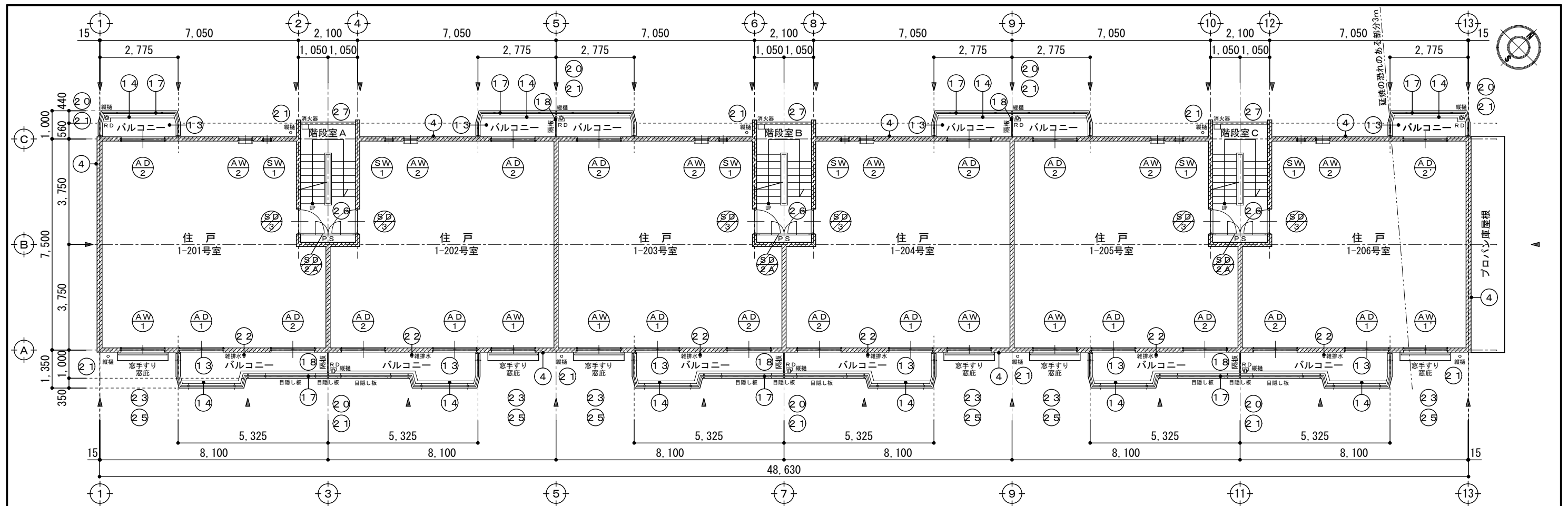
<p>(品質・性能)</p> <p>項目</p> <p>材質等</p> <p>【アルミニウム及びアルミニウム合金押出成形材の場合】</p> <p>JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出成形材」に規定するA6063S-T5、またはこれと同等の性能を有するもの。</p> <p>JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化処理被覆膜」のB又はJIS H 8601「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化被覆膜」に規定するAA15、もしくはこれらと同等の性能を有するもの。</p> <p>【ステンレス鋼板の場合】</p> <p>JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1またはこれらと同等の性能を有するもの。</p> <p>【アルミニウム及びアルミニウム合金押出成形材の場合】</p> <p>屋内外用に同じ。ただし、その他の構成材(底板、補強材、コーナーピース等)は、屋内用の材質のものとする。</p> <p>表面処理 屋内外用に同じ。</p> <p>【ステンレス鋼板の場合】</p> <p>材質 屋内外用に同じ。</p> <p>【鋼板の場合】</p> <p>鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」に規定する鋼板にメラミン樹脂焼付塗装等の防錆処理を行ったもの。</p> <p>防錆処理 JIS G 3313又は鋼板等に標準仕様書表16.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗りの防錆処理を行ったもの。</p> <p>【アルミニウム及びアルミニウム合金押出成形材の場合】</p> <p>材質 屋内外用又は屋内用に同じ。</p> <p>表面処理 屋内外用又は屋内用に同じ。</p> <p>【ステンレス鋼板の場合】</p> <p>材質 屋内外用又は屋内用に同じ。</p> <p>【鋼板の場合】</p> <p>材質 屋内外用に同じ。</p> <p>表面処理 屋内外用に同じ。</p> <p>【鋳鉄製の場合】</p> <p>材質 JIS G 5501「ねずみ錆蝕品」に規定するFC150、FC200。</p> <p>【上記以外の場合】</p> <p>材質 塩化ビニル樹脂製等</p> <p>【黄銅製の場合】</p> <p>JIS H 3100「銅及び銅合金の板及び条」に規定するC2600、C2720、C2801又はJIS H 3250「銅及び銅合金の棒」に規定するC3602、C3604もしくはこれらと同等の性能を有するもの。</p> <p>【ステンレス鋼板の場合】</p> <p>JIS G 4305に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1またはJIS G 4308「ステンレス鋼棒材」に規定するSUS304もしくはこれらと同等の性能を有するもの。</p> <p>【アルミニウム板の場合】</p> <p>JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び及び条」に規定するA1100P-H24または同等の性能を有するもの。</p> <p>JIS H 8602に規定するBまたはJIS H 8601に規定するAA15もしくはこれらと同等の性能を有するもの。</p> <p>【ステンレス鋼板またはアルミニウム板以外の場合】</p> <p>受取用は、補強材及びコーナーピースの部がモルタル内に埋め込まれる場合は、鋼板も可とする。</p> <p>【ステンレス鋼板の場合】</p> <p>JIS G 4305に規定するSUS304、SUS430J1LまたはSUS443J1もしくはこれらと同等の性能を有するもの。</p> <p>【鋼板の場合】</p> <p>鋼板はJIS G 3313に規定する鋼板にメラミン樹脂焼付塗装等の防錆処理を行ったもの。またはこれと同等の性能を有するもの。</p> <p>防錆処理 JIS G 3313又は鋼板等に標準仕様書表18.3.1および表18.3.2の錆止め塗料等の防錆処理を行ったもの。もしくはこれらと同等の性能を有するもの。</p> <p>塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等外枠と蓋枠の材質、形状に適する弾力性及び密着性を有するもの。</p> <p>鋼板に電気亜鉛めっき又は防錆塗装を行ったもの。または同等の防錆性能を有するもの。</p> <p>黄銅製物、黄銅製、アルミニウム押出成形材・合金鑄物製、ステンレス鋼製鋼品、ステンレス鋼材製の堅牢な材質のもの。ステンレス鋼材、アルミニウム押出成形材等で被覆した合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じない構造のもの。</p> <p>黄銅製、ステンレス鋼製、亜鉛合金製(クロムめっき)の類。</p> <p>品質</p> <p>項目</p> <p>品質等</p> <p>加工は、受け枠・蓋枠とも四隅の接続部に目違い、すれ、隙間等がない構造であること。</p> <p>2. 組立は、受け枠・蓋枠とも四隅の接続部を溶接溶接および釘付材等により留付けた堅牢な構造であること。</p> <p>3. 取組状態において蓋枠と受け枠に目違いのない構造であること。又蓋と受け枠の接触部は、歪みがなく歩行等に際してたつきその他の支障が生じない構造であること。</p> <p>4. 設けきの場合の庇・開閉は、扉または開閉用ハンドル式とする。</p> <p>5. アンカーは、四隅均等かつ堅固に固定できる位置にあること。</p> <p>製品の許容差</p> <p>受け枠基準寸法 600mm角程度まで</p> <p>許容差</p> <p>受け枠寸法の許容差 ±0.5mm</p> <p>蓋枠寸法の許容差 ±0.5mm</p> <p>受け枠と蓋枠のクリアランス 片側2.0mm以内</p> <p>性能</p> <p>蓋の耐荷重性能</p> <p>イ) 加圧する加重値Pn=1,000N</p> <p>ロ) 蓋中央部の残留たわみが点検口の有効径の0.08%以内</p> <p>ハ) 受け枠・蓋その他に使用上の支障がないこと</p> <p>ニ) 破壊荷重が、加圧荷重値Pnの2倍以上</p> <p>(試験方法)</p> <p>耐荷重試験</p> <p>(1) 試験体</p> <p>試験体は、受け枠・蓋枠ともアルミニウム製を含む場合は、アルミニウム製(目地材にステンレス製等を使用したもの可)を優先する。また、仕上げ材を張付けないもの(底板面)とする。</p> <p>イ) 貼付物とし、600mm角程度とする。</p> <p>ロ) 枠見込みは40mm以下とし、蓋の底板は単層の製品で、補強材は各製品のうち断面係数が小さいものとする。また、材質、厚さ、形状及び位置は、常時生産品とする。</p> <p>(2) 試験</p> <p>イ) 試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。</p> <p>ロ) 本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。</p> <p>ハ) 本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返した後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。</p>	<p>10 手すり</p> <p>11 天井見切り縁等</p> <p>12 視覚障害者用床タイル(視覚障害者誘導用ブロック)</p> <p>13 鉄筋</p> <p>14 溶接金網</p> <p>15 鉄筋の継手及び定着</p> <p>16 コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等</p> <p>17 セメント</p> <p>18 型枠</p> <p>19 無筋コンクリート</p> <p>20 床コンクリート直均し仕上げ</p> <p>21 あと施工アンカー</p>	<table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>表面仕上げ</th> <th>直径(mm)</th> <th>取付箇所</th> </tr> <tr> <td>・ 集成材</td> <td>・ クリアラッカー</td> <td>・ 35・45</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ステンレスパイプ</td> <td>・ H.L程度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鋼製パイプ</td> <td>・ SOP</td> <td>・ E-P-G</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ビニル製ハンドレール</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁(天井見切縁、下がり壁見切縁)の材質</p> <p>・ アルミニウム既製品</p> <p>・ ビニル既製品</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">屋内</td> <td>・ 塩化ビニル製</td> <td>※ 300×300</td> <td>・ 7.0</td> </tr> <tr> <td>・ セラミックタイル</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ レジコンクリート製</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート製</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">屋外</td> <td>・ セラミックタイル</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ レジコンクリート製</td> <td>※ 300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート製</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>突起の形状、配列及び寸法は JIS T 9251による</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)</th> </tr> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び名</th> </tr> <tr> <td>※ S D 2 9 5 A</td> <td>※ D 1 6 以下</td> </tr> <tr> <td>※ S D 3 4 5</td> <td>※ D 1 9 以上</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>網目寸法、鉄線の径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※ 溶接金網</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">鉄筋の継手の方法等</th> </tr> <tr> <td>※ 重ね継ぎ手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋の重ね継ぎ手の長さ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ 40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継ぎ手の長さのうち大きい値とする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋の定着長さ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ 柱に取り付ける梁の引っこ張り鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 機械式定着工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 適用する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>適用箇所</td> <td>・ 図示による</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>・ 摩擦圧接接合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 嵌合グラウト固定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 嵌合グラウト固定</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.2.1~4)</th> </tr> <tr> <th colspan="3">※ 普通コンクリート</th> </tr> <tr> <th>設計基準強度 (F<sub>c</sub>) [N/mm<sup>2</sup>]</th> <th>スランプ (c<sub>m</sub>)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>※ 24</td> <td>※ 標準仕様書表6.2.2による</td> <td>※ コンクリート全て</td> </tr> <tr> <td>○ 21</td> <td></td> <td>(無筋コンクリートを除く)</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">6章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.3.1)</th> </tr> <tr> <th colspan="3">種類</th> </tr> <tr> <td colspan="3">※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は</td> </tr> <tr> <td colspan="3">フライアッシュセメントA種</td> </tr> <tr> <td colspan="3">・ 高炉セメントB種</td> </tr> <tr> <td colspan="3">・ フライアッシュセメントB種</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.8.2)</th> </tr> <tr> <th colspan="3">せき板の材料 ※ 合板 厚さ(※ 12mm)</th> </tr> <tr> <td colspan="3">・ メッシュ型枠</td> </tr> <tr> <td colspan="3">・ 断熱材を兼用した型枠 厚さ2.5mm以下かつ熱抵抗値1m<sup>2</sup>h<sup>2</sup>°C/kCa1以上</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.14.1)</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>設計基準強度 (F<sub>c</sub>) [N/mm<sup>2</sup>]</th> <th>スランプ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>※ 普通コンクリート</td> <td>※ 18</td> <td>※ 15</td> <td>※ 標準仕様書6.14.1(4)(7)~(8)による</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">6章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (8.1.4)(表8.1.5)</th> </tr> <tr> <th colspan="3">仕上げの平たんさは、図示以外は下記による</th> </tr> <tr> <th>改修標準仕様書表8.1.5に</th> <th colspan="2">施工箇所</th> </tr> <tr> <th colspan="3">よる平たんさの種類</th> </tr> <tr> <td>a種</td> <td>合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア(置敷式)</td> <td>( )</td> </tr> <tr> <td>b種</td> <td>カーペット張り、防水下地、セルフレベルング材塗り</td> <td>( )</td> </tr> <tr> <td>c種</td> <td>タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア(支柱調整式)</td> <td>( )</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">6章内装改修工事 軽量鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記によるあと施工アンカー施工後の確認試験 ※ 行う ・ 行わない (14.1.3)</th> </tr> </table>	材質	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	・ 集成材	・ クリアラッカー	・ 35・45		・ ステンレスパイプ	・ H.L程度			・ 鋼製パイプ	・ SOP	・ E-P-G		・ ビニル製ハンドレール				施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	屋内	・ 塩化ビニル製	※ 300×300	・ 7.0	・ セラミックタイル	※ 300×300	・	・ レジコンクリート製	※ 300×300	・	・ コンクリート製			屋外	・ セラミックタイル	※ 300×300	・	・ レジコンクリート製	※ 300×300	・	・ コンクリート製			8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)		種類の記号	呼び名	※ S D 2 9 5 A	※ D 1 6 以下	※ S D 3 4 5	※ D 1 9 以上	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)		種類	網目寸法、鉄線の径(mm)	備考	※ 溶接金網			・ 鉄筋格子			8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)		鉄筋の継手の方法等		※ 重ね継ぎ手		・ 鉄筋の重ね継ぎ手の長さ		※ 40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継ぎ手の長さのうち大きい値とする		・ 鉄筋の定着長さ		※ 柱に取り付ける梁の引っこ張り鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による		・ 機械式定着工法		・ 適用する		適用箇所	・ 図示による	種類	・ 摩擦圧接接合		・ 嵌合グラウト固定		・ 嵌合グラウト固定	8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.2.1~4)			※ 普通コンクリート			設計基準強度 (F <sub>c</sub> ) [N/mm <sup>2</sup> ]	スランプ (c <sub>m</sub> )	適用箇所	※ 24	※ 標準仕様書表6.2.2による	※ コンクリート全て	○ 21		(無筋コンクリートを除く)	6章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.3.1)			種類			※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は			フライアッシュセメントA種			・ 高炉セメントB種			・ フライアッシュセメントB種			8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.8.2)			せき板の材料 ※ 合板 厚さ(※ 12mm)			・ メッシュ型枠			・ 断熱材を兼用した型枠 厚さ2.5mm以下かつ熱抵抗値1m <sup>2</sup> h <sup>2</sup> °C/kCa1以上			8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.14.1)				種類	設計基準強度 (F <sub>c</sub> ) [N/mm <sup>2</sup> ]	スランプ (mm)	施工箇所	※ 普通コンクリート	※ 18	※ 15	※ 標準仕様書6.14.1(4)(7)~(8)による	6章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (8.1.4)(表8.1.5)			仕上げの平たんさは、図示以外は下記による			改修標準仕様書表8.1.5に	施工箇所		よる平たんさの種類			a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア(置敷式)	( )	b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベルング材塗り	( )	c種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア(支柱調整式)	( )	6章内装改修工事 軽量鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記によるあと施工アンカー施工後の確認試験 ※ 行う ・ 行わない (14.1.3)		<p>22 トイレブース</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">(20.2.5)</th> </tr> <tr> <th>表面材の材料</th> <th>脚部</th> </tr> <tr> <td>※ メラミン樹脂系化粧板</td> <td>※ 幅木タイプ</td> </tr> <tr> <td>・ ポリエステル樹脂系化粧板</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※ アルミニウム製</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ ステンレス製</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 表面材と同材</td> </tr> </table> <p>(品質・性能)</p> <p>(1) パネル</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>表面材</td> <td>メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。</td> </tr> <tr> <td>裏打材</td> <td>JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。</td> </tr> <tr> <td>心材</td> <td>JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。</td> </tr> <tr> <td>枠材</td> <td>JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。</td> </tr> <tr> <td>小口</td> <td>防水処理を施す。</td> </tr> </table> <p>(2) 構造金物</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>品質・性能</th> </tr> <tr> <td>ヒンジ</td> <td>耐蝕性のあるものとする。</td> </tr> <tr> <td>ラッチセット</td> <td></td> </tr> <tr> <td>戸当り</td> <td>腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。</td> </tr> </table> <p>(4) 外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b)による。</p> <p>(5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th colspan="2">品質・性能</th> </tr> <tr> <td></td> <th>耐薬品性及び耐汚染性</th> <th>耐ひっかき性</th> </tr> <tr> <td>メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材</td> <td>JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂系高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(β法)の規定を満足していること。</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>低圧メラミン樹脂系化粧板</td> <td>ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MD F、ポリエステル樹脂系化粧バーティカルボードのいずれかの品質に適合していること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂系加工化粧板</td> <td>JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。</td> <td>JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。</td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂系化粧MD F</td> <td>JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ポリエステル樹脂系化粧バーティカルボード</td> <td>JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。</td> <td></td> </tr> </table> <p>(試験方法)</p> <p>(1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築物ドア金物の試験方法—第2部：ドア用金物」に規定する試験による。</p> <p>(2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。</p> <p>パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上</p>	(20.2.5)		表面材の材料	脚部	※ メラミン樹脂系化粧板	※ 幅木タイプ	・ ポリエステル樹脂系化粧板	・		※ アルミニウム製		・ ステンレス製		・ 表面材と同材	項目	品質・性能	表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。	裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。	心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。	枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。	小口	防水処理を施す。	項目	品質・性能	ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。	ラッチセット		戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。	項目	品質・性能			耐薬品性及び耐汚染性	耐ひっかき性	メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂系高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(β法)の規定を満足していること。	-	低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MD F、ポリエステル樹脂系化粧バーティカルボードのいずれかの品質に適合していること。		ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。	ポリエステル樹脂系化粧MD F	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。		ポリエステル樹脂系化粧バーティカルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。		<p>設計者・設計事務所名</p> <p>〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25</p> <p>東広島市都市交通部営繕課</p> <p>M A S A A</p> <p>1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号</p> <p>1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美</p> <p>工事名</p> <p>令和8年度 市営住宅建設事業</p> <p>市営恵下山住宅外壁等改修工事</p> <p>図面内容・縮尺</p> <p>建築改修工事特記仕様書(6)</p> <p>A2:100%</p> <p>A3:71%縮小</p> <p>設計</p> <p>令和7年</p> <p>種別</p> <p>A</p> <p>図面番号</p> <p>7</p>
	材質	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所																																																																																																																																																																																																																																			
・ 集成材	・ クリアラッカー	・ 35・45																																																																																																																																																																																																																																					
・ ステンレスパイプ	・ H.L程度																																																																																																																																																																																																																																						
・ 鋼製パイプ	・ SOP	・ E-P-G																																																																																																																																																																																																																																					
・ ビニル製ハンドレール																																																																																																																																																																																																																																							
施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)																																																																																																																																																																																																																																				
屋内	・ 塩化ビニル製	※ 300×300	・ 7.0																																																																																																																																																																																																																																				
	・ セラミックタイル	※ 300×300	・																																																																																																																																																																																																																																				
	・ レジコンクリート製	※ 300×300	・																																																																																																																																																																																																																																				
	・ コンクリート製																																																																																																																																																																																																																																						
屋外	・ セラミックタイル	※ 300×300	・																																																																																																																																																																																																																																				
	・ レジコンクリート製	※ 300×300	・																																																																																																																																																																																																																																				
	・ コンクリート製																																																																																																																																																																																																																																						
8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)																																																																																																																																																																																																																																							
種類の記号	呼び名																																																																																																																																																																																																																																						
※ S D 2 9 5 A	※ D 1 6 以下																																																																																																																																																																																																																																						
※ S D 3 4 5	※ D 1 9 以上																																																																																																																																																																																																																																						
8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)																																																																																																																																																																																																																																							
種類	網目寸法、鉄線の径(mm)	備考																																																																																																																																																																																																																																					
※ 溶接金網																																																																																																																																																																																																																																							
・ 鉄筋格子																																																																																																																																																																																																																																							
8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)																																																																																																																																																																																																																																							
鉄筋の継手の方法等																																																																																																																																																																																																																																							
※ 重ね継ぎ手																																																																																																																																																																																																																																							
・ 鉄筋の重ね継ぎ手の長さ																																																																																																																																																																																																																																							
※ 40dと標準仕様書表5.3.2の重ね継ぎ手の長さのうち大きい値とする																																																																																																																																																																																																																																							
・ 鉄筋の定着長さ																																																																																																																																																																																																																																							
※ 柱に取り付ける梁の引っこ張り鉄筋の直線定着長さは40d以上とし、それ以外は標準仕様書表5.3.4による																																																																																																																																																																																																																																							
・ 機械式定着工法																																																																																																																																																																																																																																							
・ 適用する																																																																																																																																																																																																																																							
適用箇所	・ 図示による																																																																																																																																																																																																																																						
種類	・ 摩擦圧接接合																																																																																																																																																																																																																																						
	・ 嵌合グラウト固定																																																																																																																																																																																																																																						
	・ 嵌合グラウト固定																																																																																																																																																																																																																																						
8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.2.1~4)																																																																																																																																																																																																																																							
※ 普通コンクリート																																																																																																																																																																																																																																							
設計基準強度 (F <sub>c</sub> ) [N/mm <sup>2</sup> ]	スランプ (c <sub>m</sub> )	適用箇所																																																																																																																																																																																																																																					
※ 24	※ 標準仕様書表6.2.2による	※ コンクリート全て																																																																																																																																																																																																																																					
○ 21		(無筋コンクリートを除く)																																																																																																																																																																																																																																					
6章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.3.1)																																																																																																																																																																																																																																							
種類																																																																																																																																																																																																																																							
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は																																																																																																																																																																																																																																							
フライアッシュセメントA種																																																																																																																																																																																																																																							
・ 高炉セメントB種																																																																																																																																																																																																																																							
・ フライアッシュセメントB種																																																																																																																																																																																																																																							
8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.8.2)																																																																																																																																																																																																																																							
せき板の材料 ※ 合板 厚さ(※ 12mm)																																																																																																																																																																																																																																							
・ メッシュ型枠																																																																																																																																																																																																																																							
・ 断熱材を兼用した型枠 厚さ2.5mm以下かつ熱抵抗値1m <sup>2</sup> h <sup>2</sup> °C/kCa1以上																																																																																																																																																																																																																																							
8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.14.1)																																																																																																																																																																																																																																							
種類	設計基準強度 (F <sub>c</sub> ) [N/mm <sup>2</sup> ]	スランプ (mm)	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																				
※ 普通コンクリート	※ 18	※ 15	※ 標準仕様書6.14.1(4)(7)~(8)による																																																																																																																																																																																																																																				
6章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (8.1.4)(表8.1.5)																																																																																																																																																																																																																																							
仕上げの平たんさは、図示以外は下記による																																																																																																																																																																																																																																							
改修標準仕様書表8.1.5に	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																						
よる平たんさの種類																																																																																																																																																																																																																																							
a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア(置敷式)	( )																																																																																																																																																																																																																																					
b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベルング材塗り	( )																																																																																																																																																																																																																																					
c種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア(支柱調整式)	( )																																																																																																																																																																																																																																					
6章内装改修工事 軽量鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記によるあと施工アンカー施工後の確認試験 ※ 行う ・ 行わない (14.1.3)																																																																																																																																																																																																																																							
(20.2.5)																																																																																																																																																																																																																																							
表面材の材料	脚部																																																																																																																																																																																																																																						
※ メラミン樹脂系化粧板	※ 幅木タイプ																																																																																																																																																																																																																																						
・ ポリエステル樹脂系化粧板	・																																																																																																																																																																																																																																						
	※ アルミニウム製																																																																																																																																																																																																																																						
	・ ステンレス製																																																																																																																																																																																																																																						
	・ 表面材と同材																																																																																																																																																																																																																																						
項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																						
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。																																																																																																																																																																																																																																						
裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。																																																																																																																																																																																																																																						
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。																																																																																																																																																																																																																																						
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。																																																																																																																																																																																																																																						
小口	防水処理を施す。																																																																																																																																																																																																																																						
項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																						
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。																																																																																																																																																																																																																																						
ラッチセット																																																																																																																																																																																																																																							
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施したものであるものとする。戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。																																																																																																																																																																																																																																						
項目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																																						
	耐薬品性及び耐汚染性	耐ひっかき性																																																																																																																																																																																																																																					
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂系高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(β法)の規定を満足していること。	-																																																																																																																																																																																																																																					
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MD F、ポリエステル樹脂系化粧バーティカルボードのいずれかの品質に適合していること。																																																																																																																																																																																																																																						
ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。																																																																																																																																																																																																																																					
ポリエステル樹脂系化粧MD F	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。																																																																																																																																																																																																																																						
ポリエステル樹脂系化粧バーティカルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。																																																																																																																																																																																																																																						

名称		A 表面劣化部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		C 錆鉄筋部処理																															
記号・仕様		A-1 打放し面表面劣化部処理 [サンダー工法]		A-2 モルタル面表面劣化部処理 [サンダー工法]		B-1 打放し面樹脂注入工法 [標仕4.2.5] ひび割れ幅 0.2~1.0mm		B-2 打放し面Uカットシール材充てん工法 [標仕4.2.6] ひび割れ幅 1.0mm以上		B-3 打放し面Uカットシール材充てん工法 [標仕4.2.6] ひび割れ幅 0.2~1.0mm																															
改修前	改修後																																								
工程		<p>①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン (*全面 ○部分) ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ③セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※見上げ面については、③を省略する。</p> <p>参考数量： 1号棟：32.6㎡ 2号棟：8.0㎡ (塗膜等浮き部・劣化等) 高圧水洗浄のみ：1号棟2,166㎡ 2号棟：1,514㎡</p>		<p>①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン (*全面 ○部分) ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ③セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm) ※見上げ面については、③を省略する。</p> <p>参考数量： 1号棟：6.5㎡ 2号棟：5.1㎡</p>		<p>①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-1工法を行う場合は、①、④の工程はA-1工法に含む。 1号棟：18.2㎡ ひび割れ幅 0.2~0.5mm 2号棟：0㎡ ( ) ひび割れ幅 0.5~1.0mm 1号棟：0㎡ ( ) 2号棟：0㎡ ( ) ( )内は挙動ひび割れ数量を示す</p>		<p>①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し (ポリマーセメントモルタル) ⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-1工法を行う場合は、②、⑤の工程はA-1工法に含む。</p> <p>参考数量： 1号棟：0㎡ 2号棟：0㎡</p>		<p>①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-1工法を行う場合は、②、④の工程はA-1工法に含む。</p> <p>参考数量：</p>																															
名称		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		C 錆鉄筋部処理																															
記号・仕様		B-4 モルタル面樹脂注入工法 [標仕4.3.6] ひび割れ幅 0.2~1.0mm		B-5 モルタル面躯体部樹脂注入工法 [標仕4.3.6] ひび割れ幅 0.2~1.0mm		B-6 モルタル面Uカットシール材充てん工法 ひび割れ幅 1.0mm以上		B-7 モルタル面Uカットエポキシ樹脂充てん工法 ひび割れ幅 0.2~1.0mm		C-1 打放し面錆鉄筋部処理																															
改修前	改修後																																								
工程		<p>①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、①、④の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量： ひび割れ幅 0.2~0.5mm ( ) ひび割れ幅 0.5~1.0mm ( ) ( )内は挙動ひび割れ数量を示す</p>		<p>①ひび割れ周囲モルタルカッター切り ②モルタル除去 ③ひび割れ部シール ④エポキシ樹脂注入 ⑤埋戻し ⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、⑥の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量：</p>		<p>①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し (ポリマーセメントモルタル) ⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、②、⑤の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量：</p>		<p>①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、②、④の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量：</p>		<p>①錆鉄筋周辺のはつり ②錆落とし ③高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ④防錆処理 ⑤はつり部埋戻し整形 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、③、⑥の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量： 1号棟：5.6㎡ 2号棟：2.5㎡</p>																															
名称		C 錆鉄筋部処理		D 浮き部処理		D 浮き部処理		D 浮き部処理		D 浮き部処理																															
記号・仕様		C-2 モルタル面錆鉄筋部処理		D-1 モルタル面はつり		D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.3.11] D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.9]		D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.9]		D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4.4.9]																															
改修前	改修後																																								
工程		<p>①カッター線切り ②浮き部はつり ③錆落とし ④高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ⑤防錆処理 ⑥はつり部埋戻し整形 ⑦セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、④、⑦の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量：</p>		<p>①カッター線切り ②浮き部はつり ③高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ④はつり部埋戻し整形 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、③、⑤の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量： 1号棟：0.4㎡ 2号棟：0.2㎡</p>		<p>①穿孔</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table> <p>②孔内エアークリーニング</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table> <p>③エポキシ樹脂注入</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table> <p>④ステンレスピン挿入</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table>		一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	<p>⑤穿孔跡埋戻し [パテ状エポキシ樹脂]</p> <table border="1"> <tr><td>一般部</td><td>16</td><td>ヶ所</td></tr> <tr><td>指定部</td><td>25</td><td>ヶ所</td></tr> </table> <p>⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄 (150~200kg/cm<sup>2</sup>) ⑧セメント系下地調整材コテ塗り (1.5mm±0.5mm)</p> <p>※A-2工法を行う場合は、⑥、⑦、⑧の工程はA-2工法に含む。</p> <p>参考数量：①一般部分： 1号棟：0㎡ 2号棟：0㎡ ②指定部分： ③狭幅部： 1号棟：0㎡ 2号棟：0㎡</p>		一般部	16	ヶ所	指定部	25	ヶ所	<p>①一般部分標準グリッド (250×250) ③狭幅部 (幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所)</p> <p>②指定部分標準グリッド (200×200) (見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等)</p> <p>● アンカーピン固定部</p>	
一般部	16	ヶ所																																							
指定部	25	ヶ所																																							
一般部	16	ヶ所																																							
指定部	25	ヶ所																																							
一般部	16	ヶ所																																							
指定部	25	ヶ所																																							
一般部	16	ヶ所																																							
指定部	25	ヶ所																																							
一般部	16	ヶ所																																							
指定部	25	ヶ所																																							
東広島市都市交通部営繕課		設計者・設計事務所名 MASAA		〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 1級建築士事務所 広島県知事登録18(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美		工事名 令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事		図面内容・縮尺 外壁改修工事特記仕様書(1)		A2:100% A3:71%縮小 設計 令和7年 種別 A 図面番号 8																															

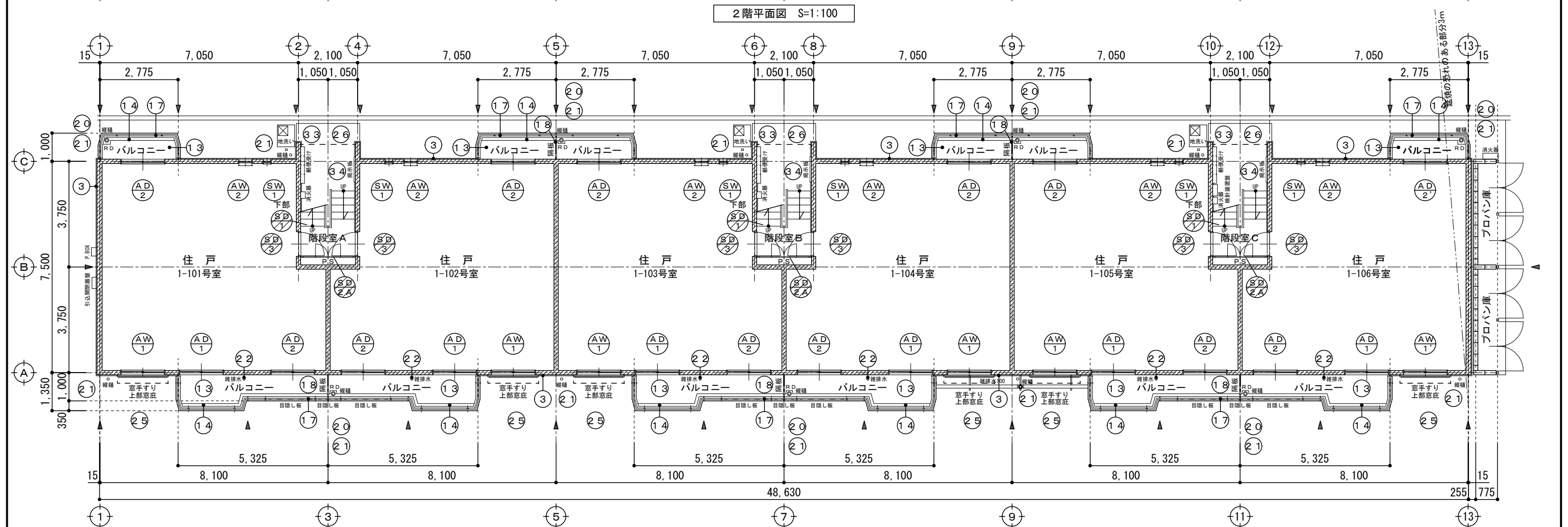








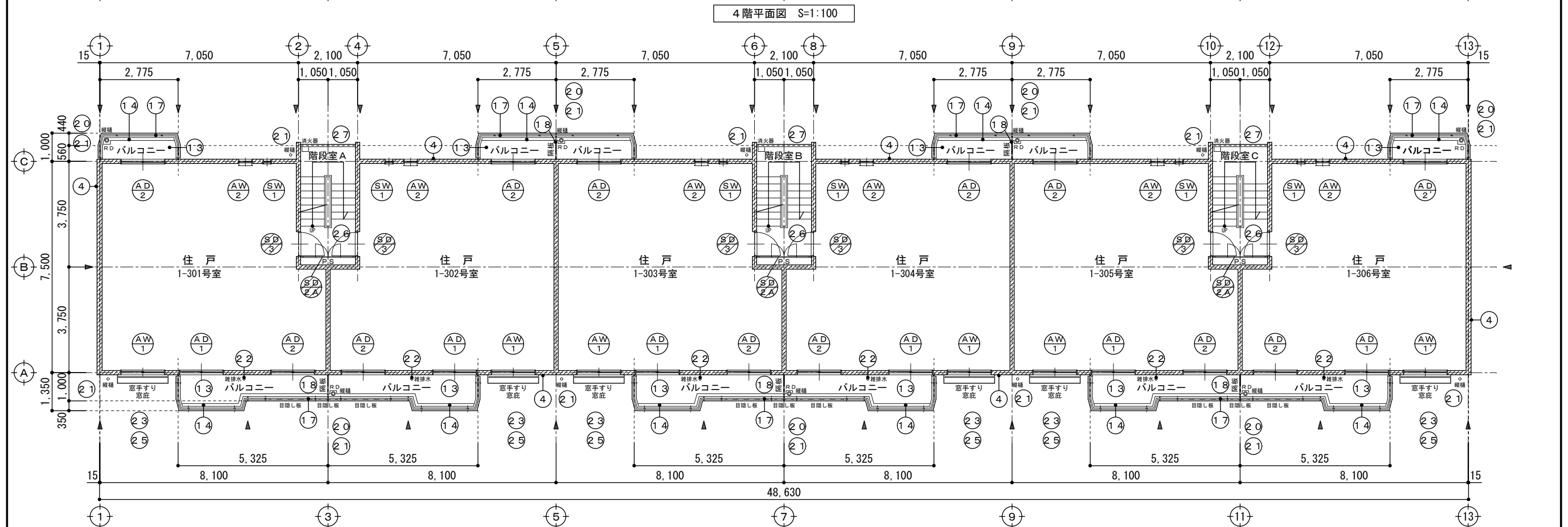
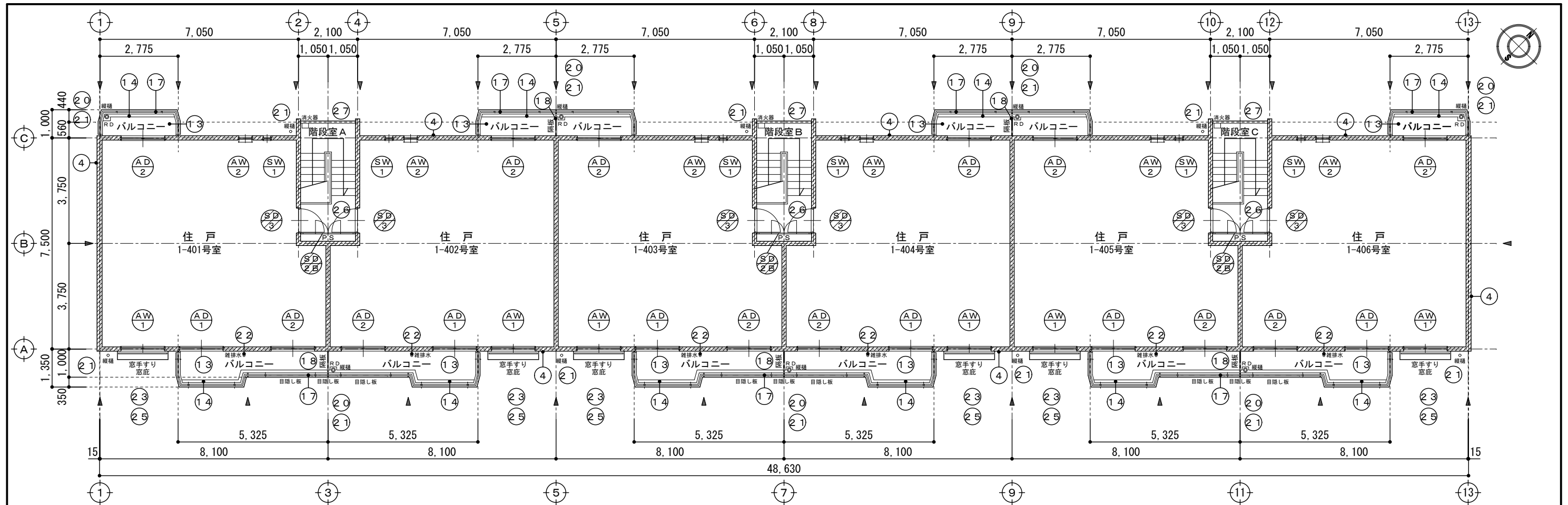
2階平面図 S=1:100



1階平面図 S=1:100

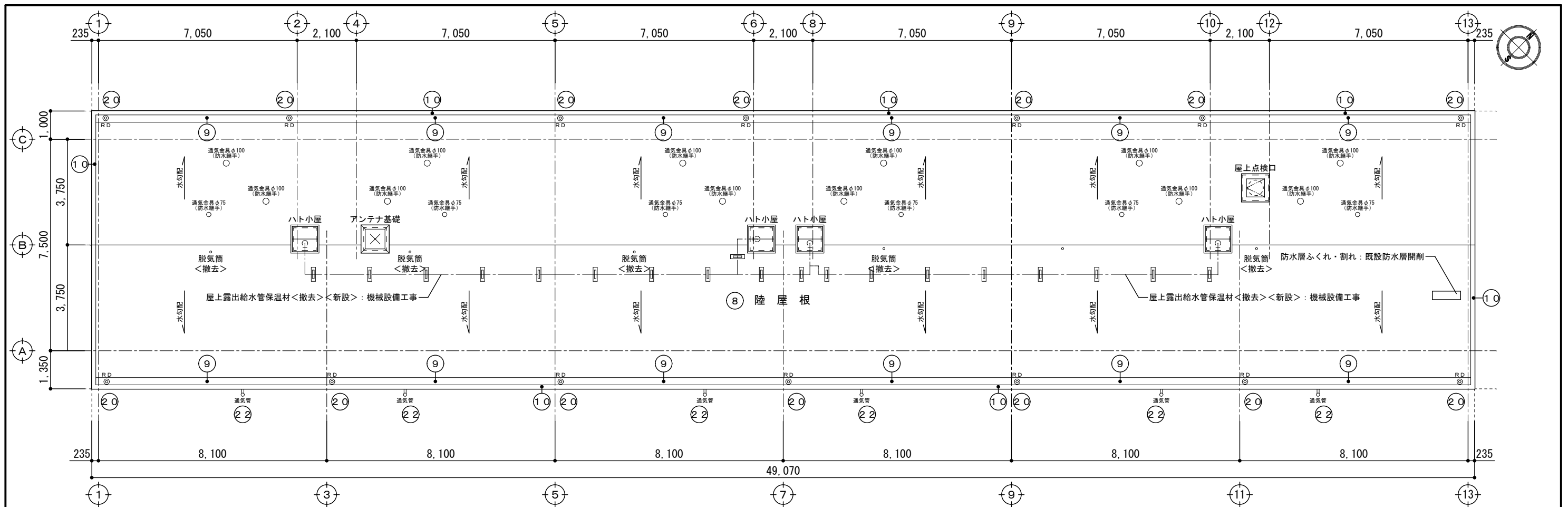
※ 建具符号を示す 建具周囲シーリング打替え ※ 建具符号を示す 建具周囲シーリング打替え・塗装改修 ▲ PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 MASAA	工事名	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小	設計	種別
		1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美					

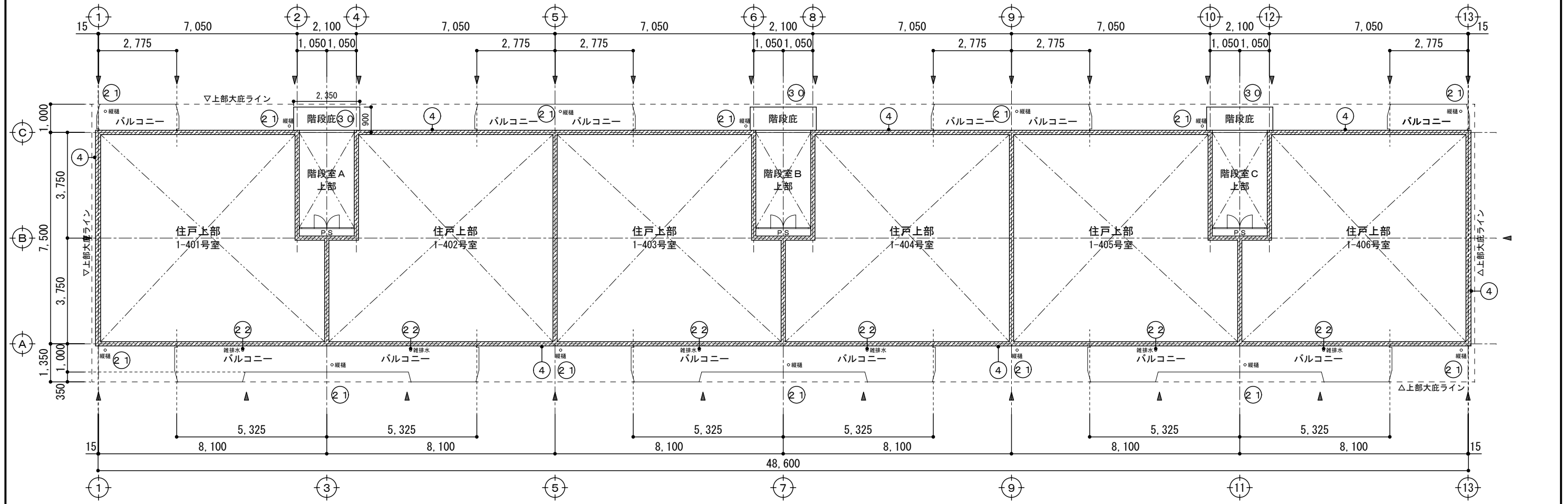


東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 MASAA	工事名	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小 1:100	設計	令和7年	種別	A
		1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美							

※ 建具符号を示す  
※ 建具周囲シーリング打替え  
※ 建具符号を示す  
※ 建具周囲シーリング打替え・塗装改修  
▲ PC版 ジョイント部を示す

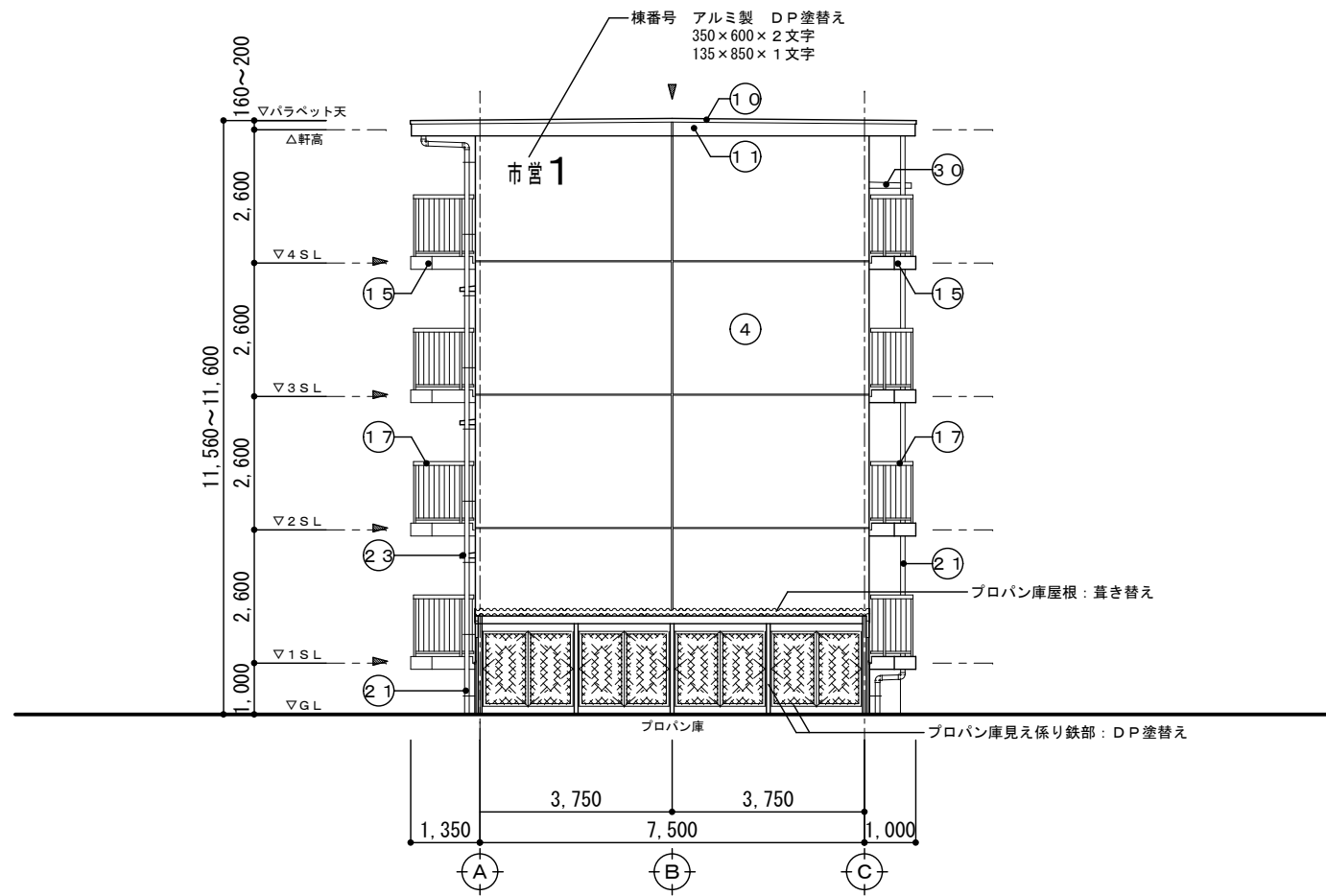


屋根伏図 S=1:100

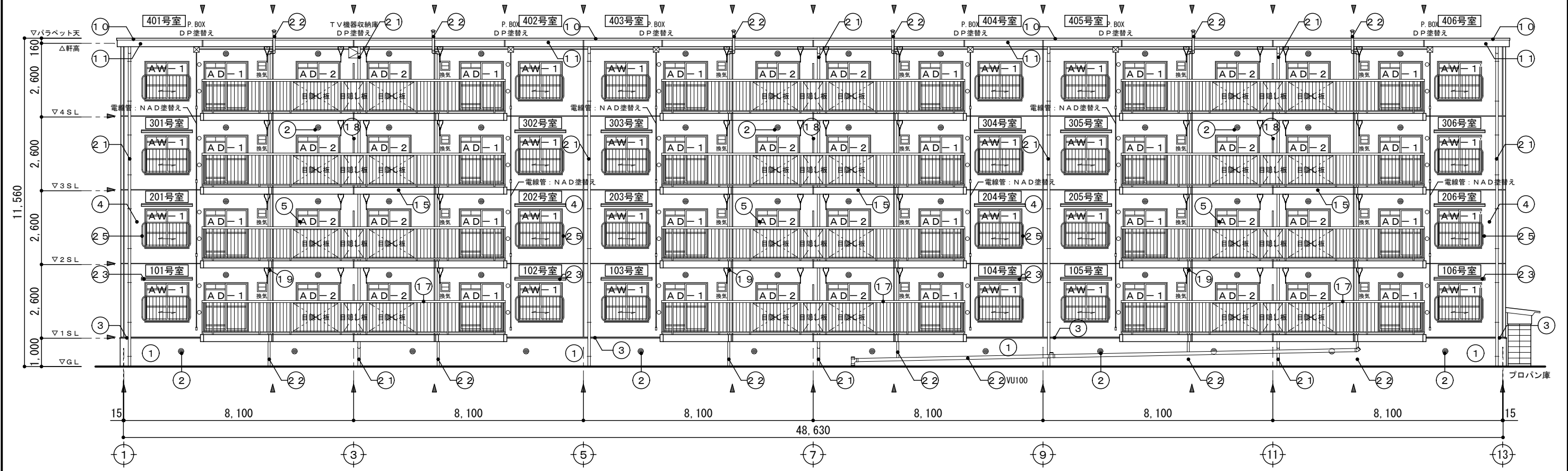


4階上部平面図 S=1:100 ▲PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小 1:100	設計	種別
	MASAA	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美				令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	【1号棟】4階上部平面図・屋根伏図

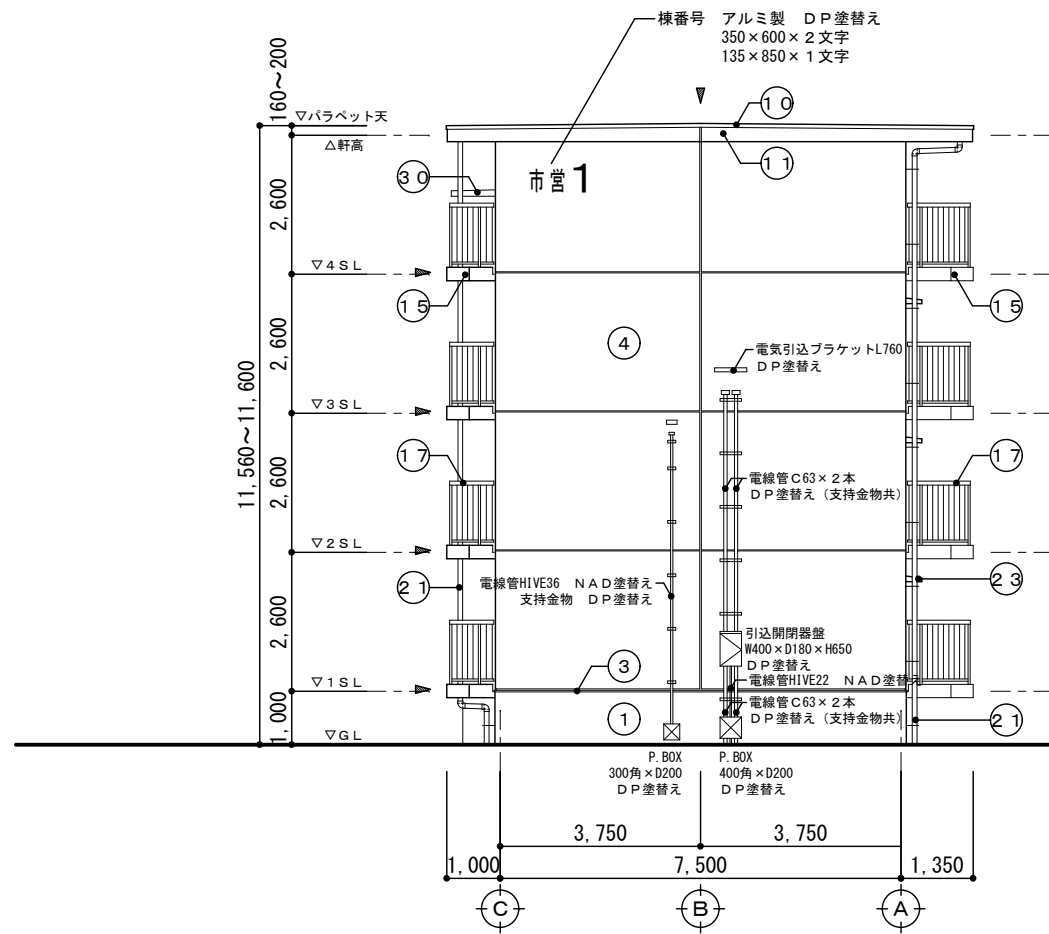


東側立面図 S=1:100

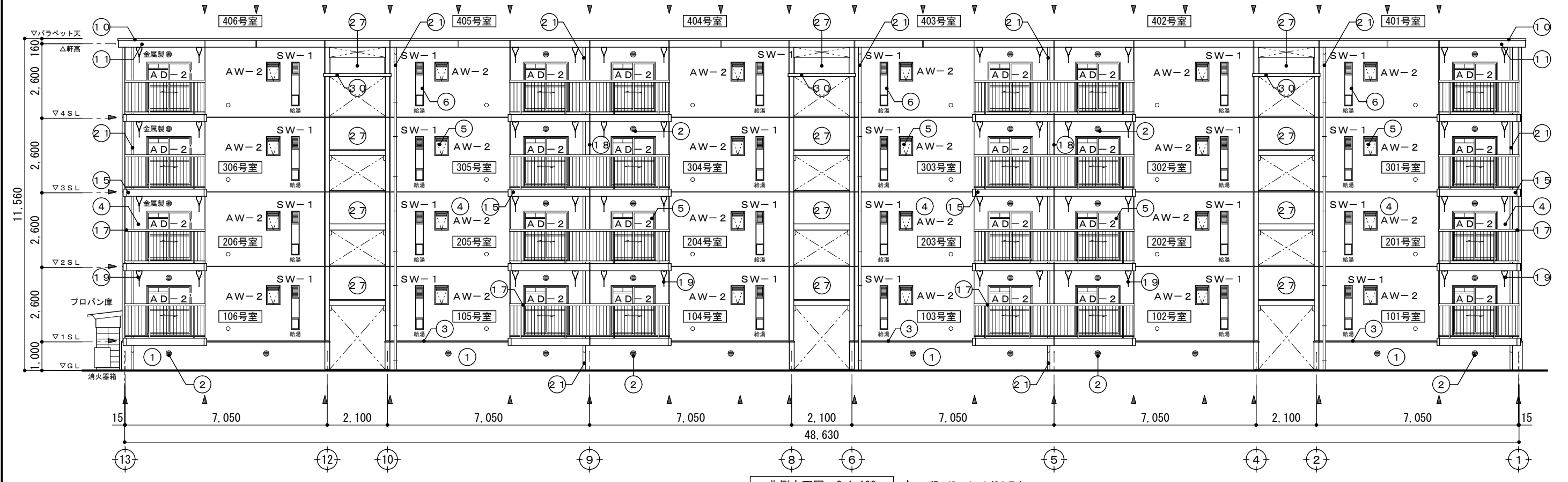


南側立面図 S=1:100 ▲PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小	設計	令和7年	種別	A
	MASAA	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美			【1号棟】立面図(1)	1:100			図面番号	15

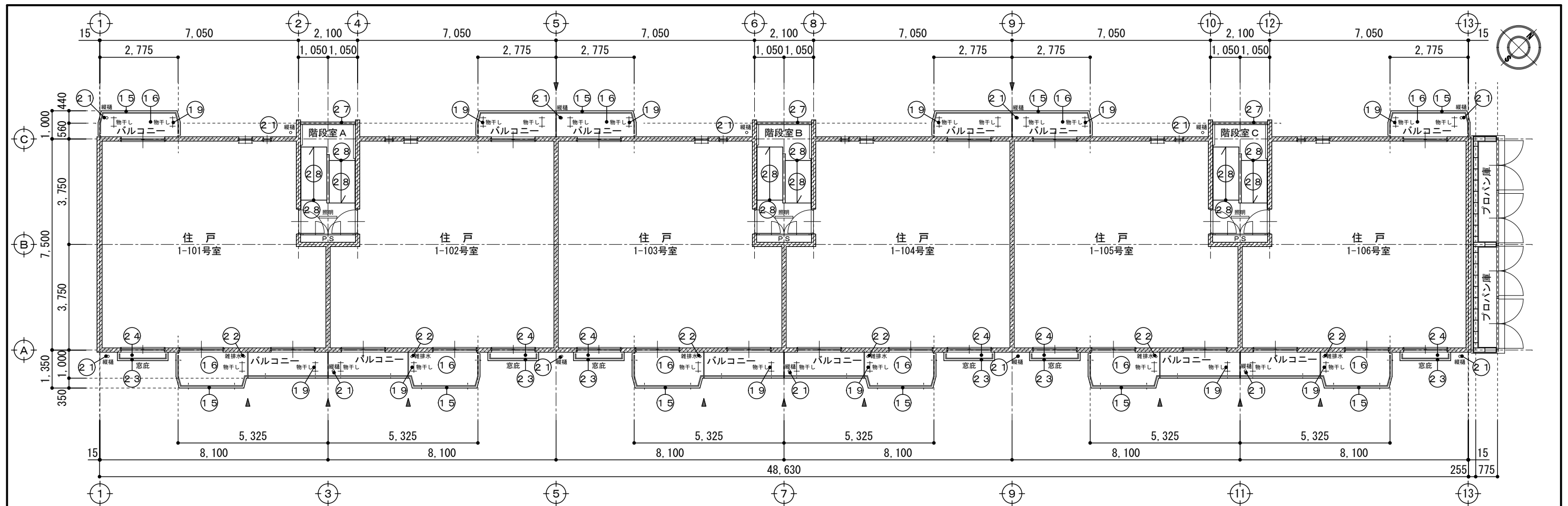


西側立面図 S=1:100

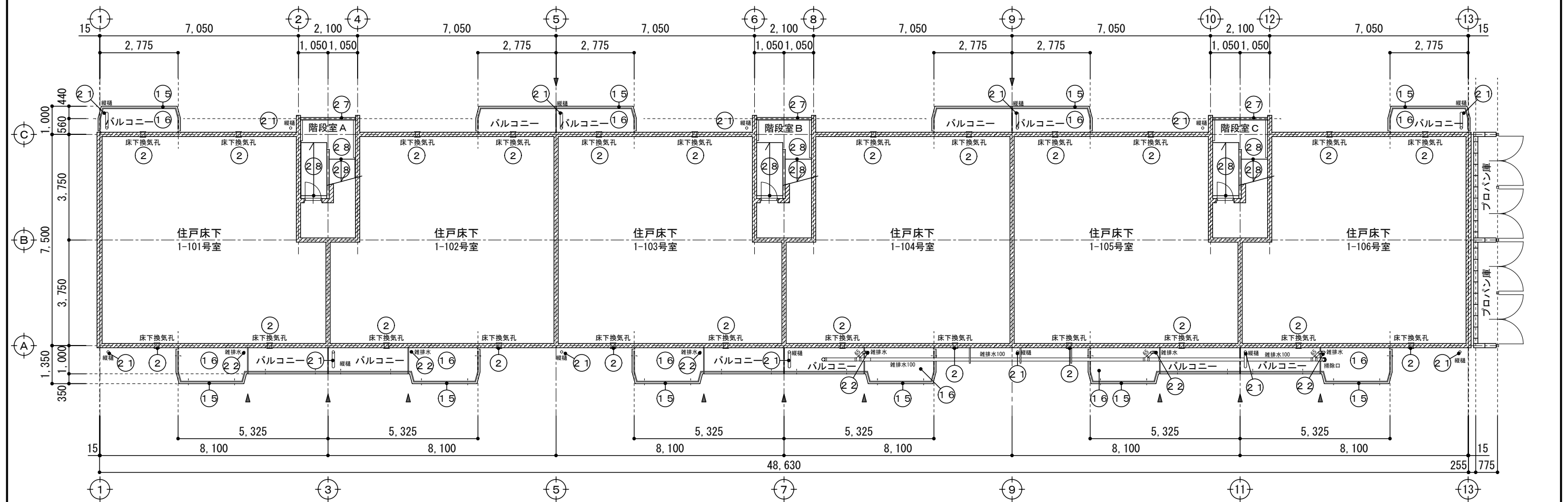


北側立面図 S=1:100 ▲PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小	設計 令和7年	種別 A 図面番号 16
	MASAA	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	【1号棟】立面図(2)	1:100		



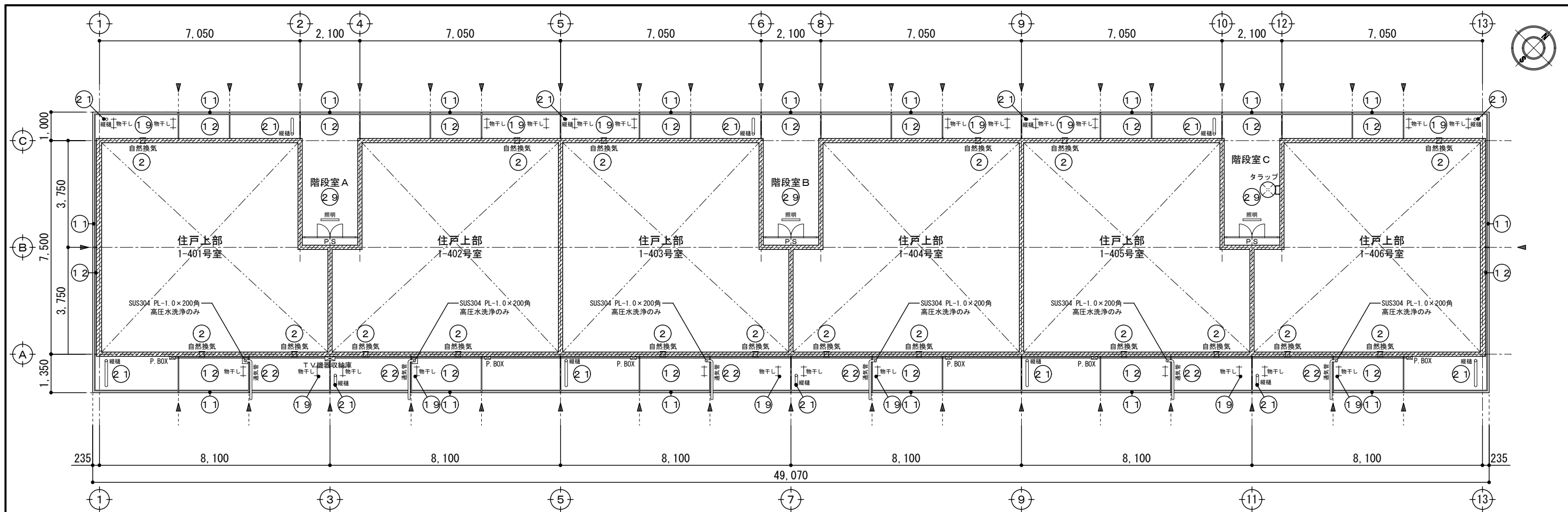
1階天井伏図 S=1:100



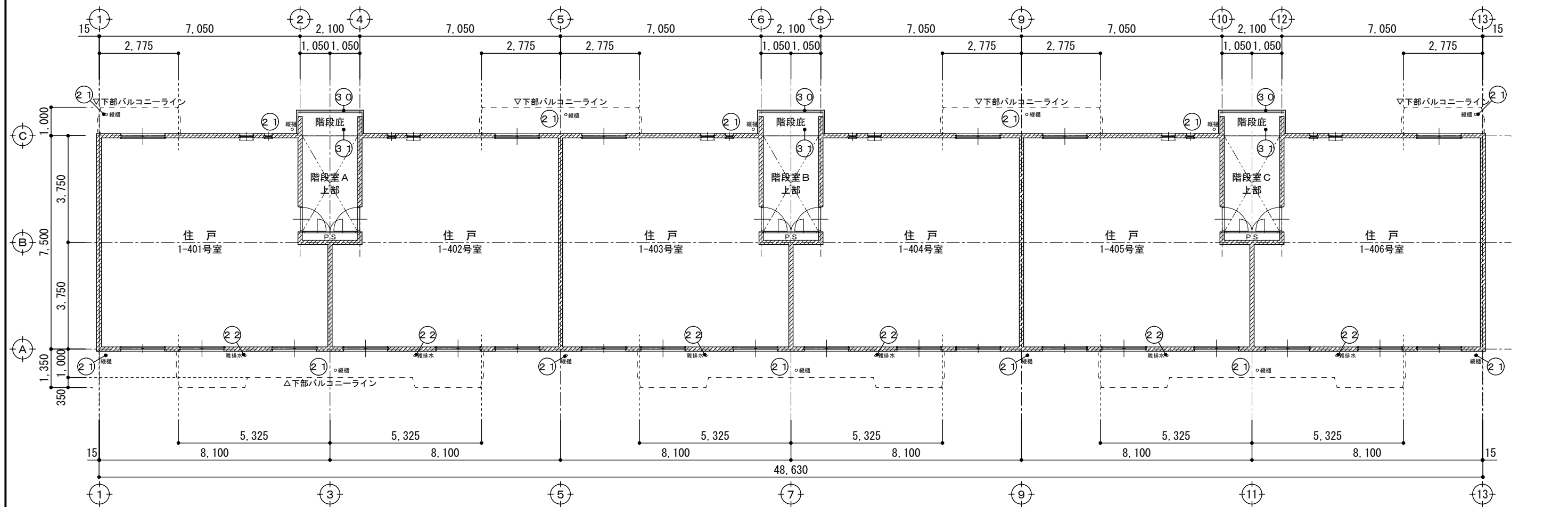
1階床下天井伏図 S=1:100 ▲PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小	設計	種類
	M A S A A	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美			【1号棟】1階床下・1階 天井伏図	1:100	令和7年	A 図面番号 17



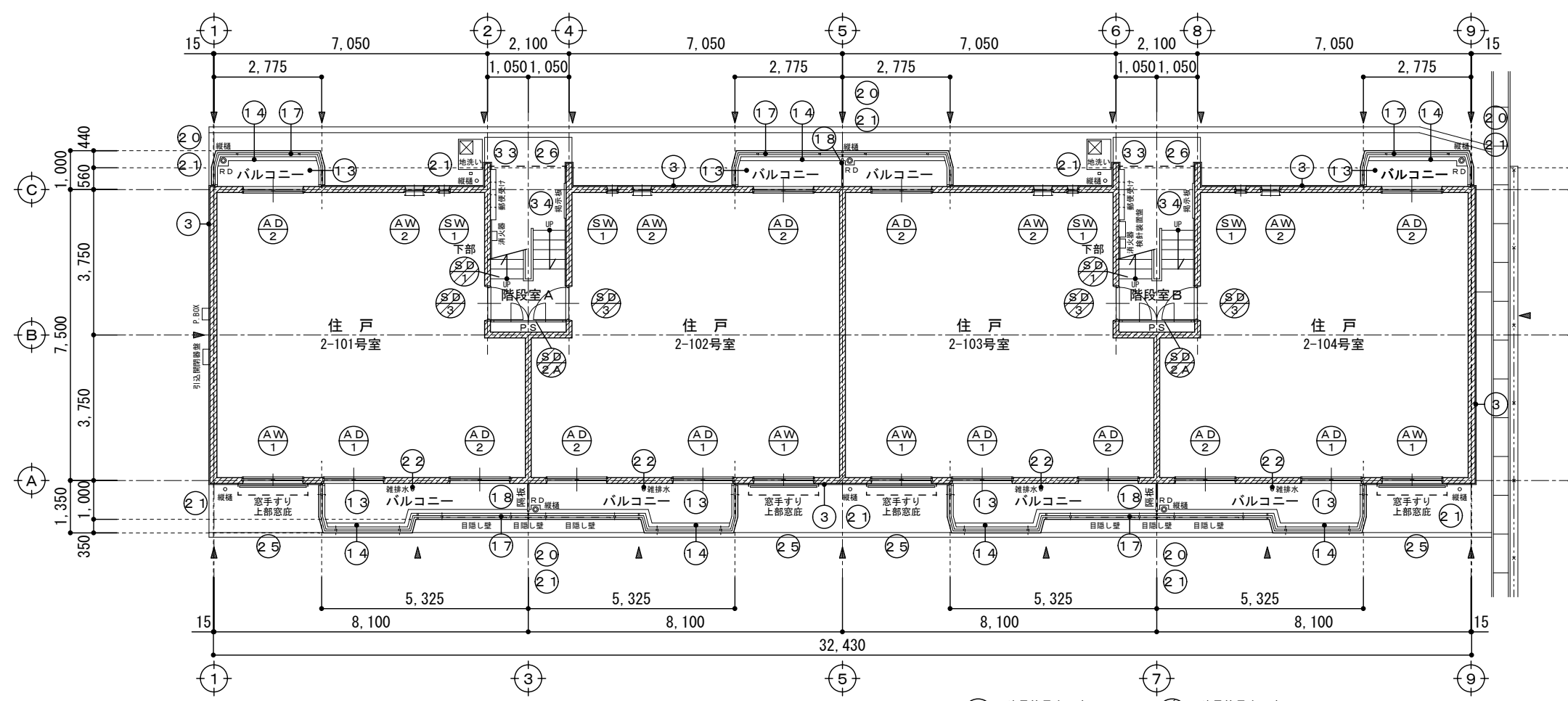
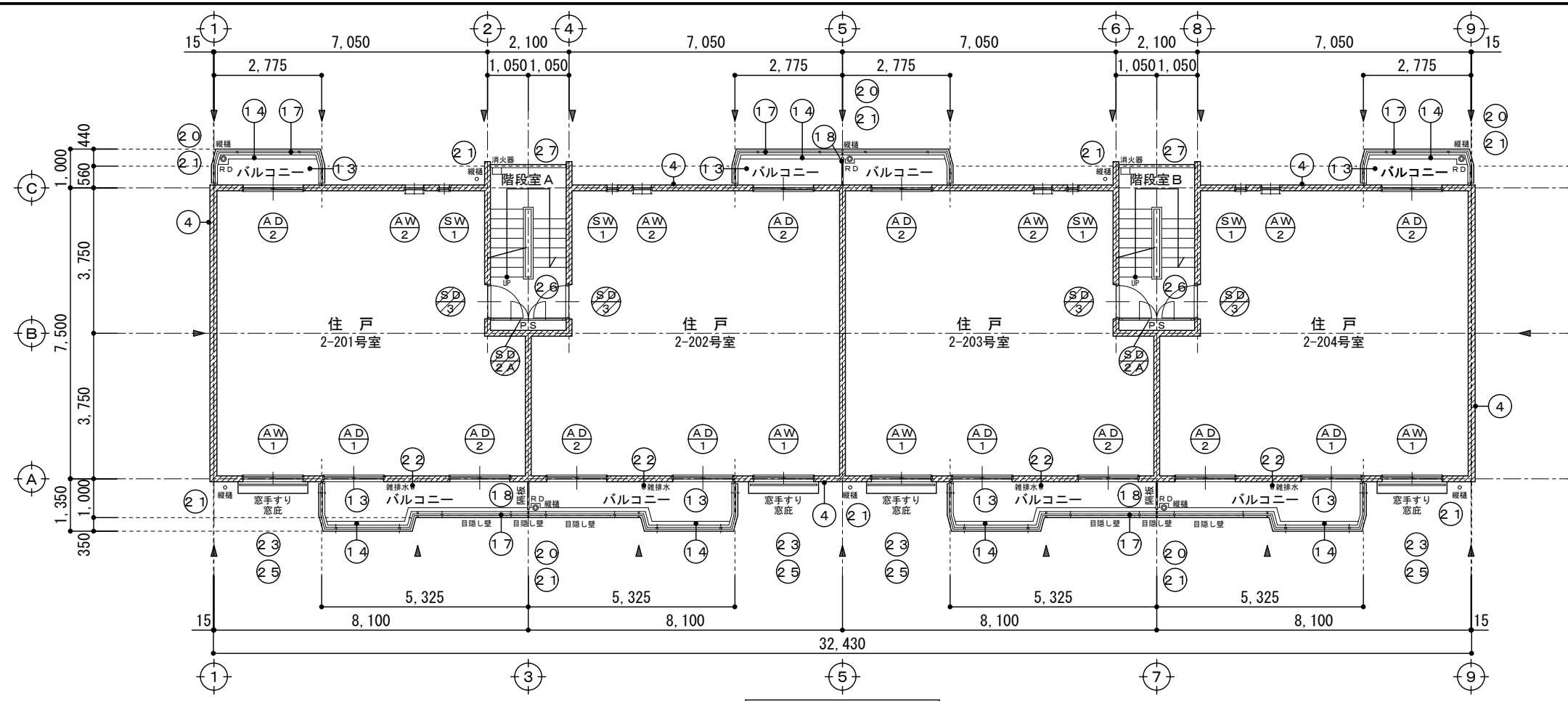


4階上部天井伏図 S=1:100



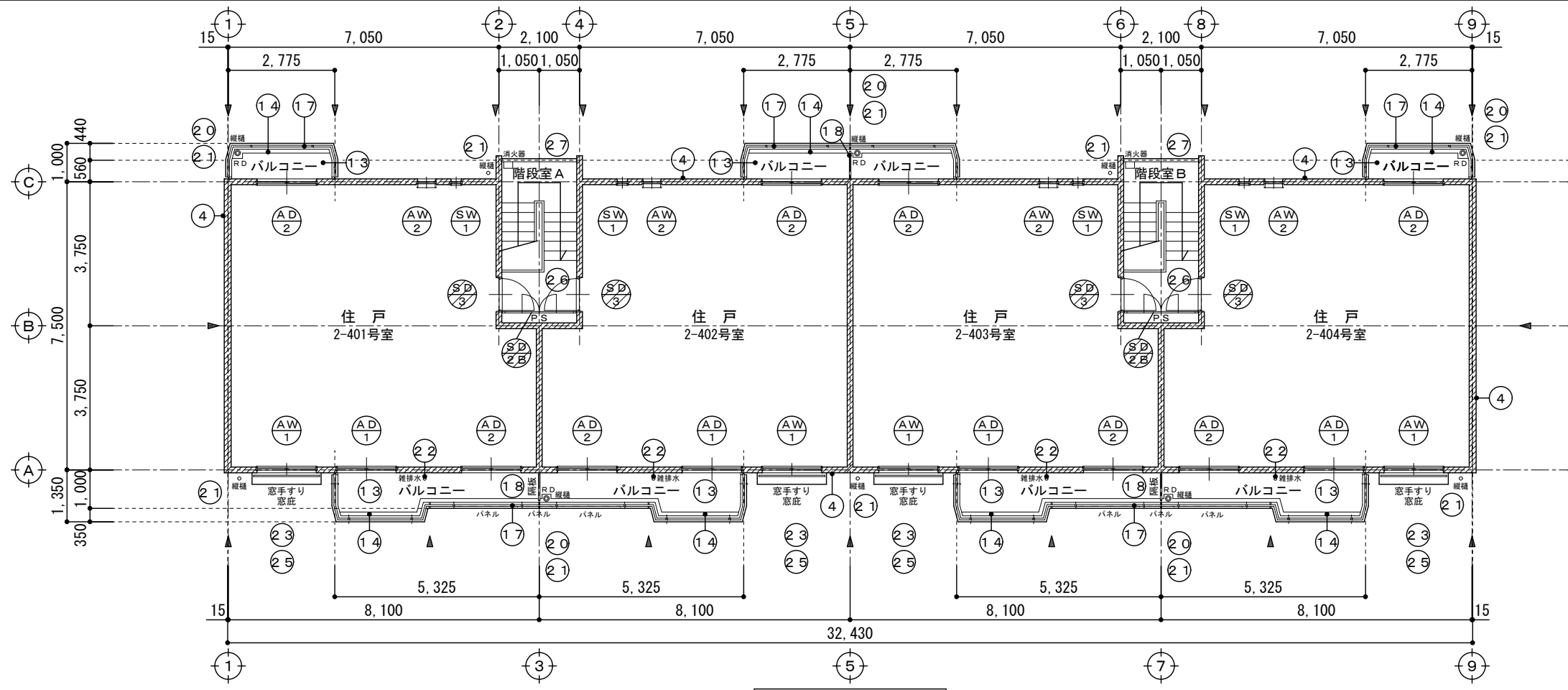
4階天井伏図 S=1:100 ▲PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A 2: 100% A 3: 71%縮小 1:100	設計	種別	
	M A S A A	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美						令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事
							図面番号	19

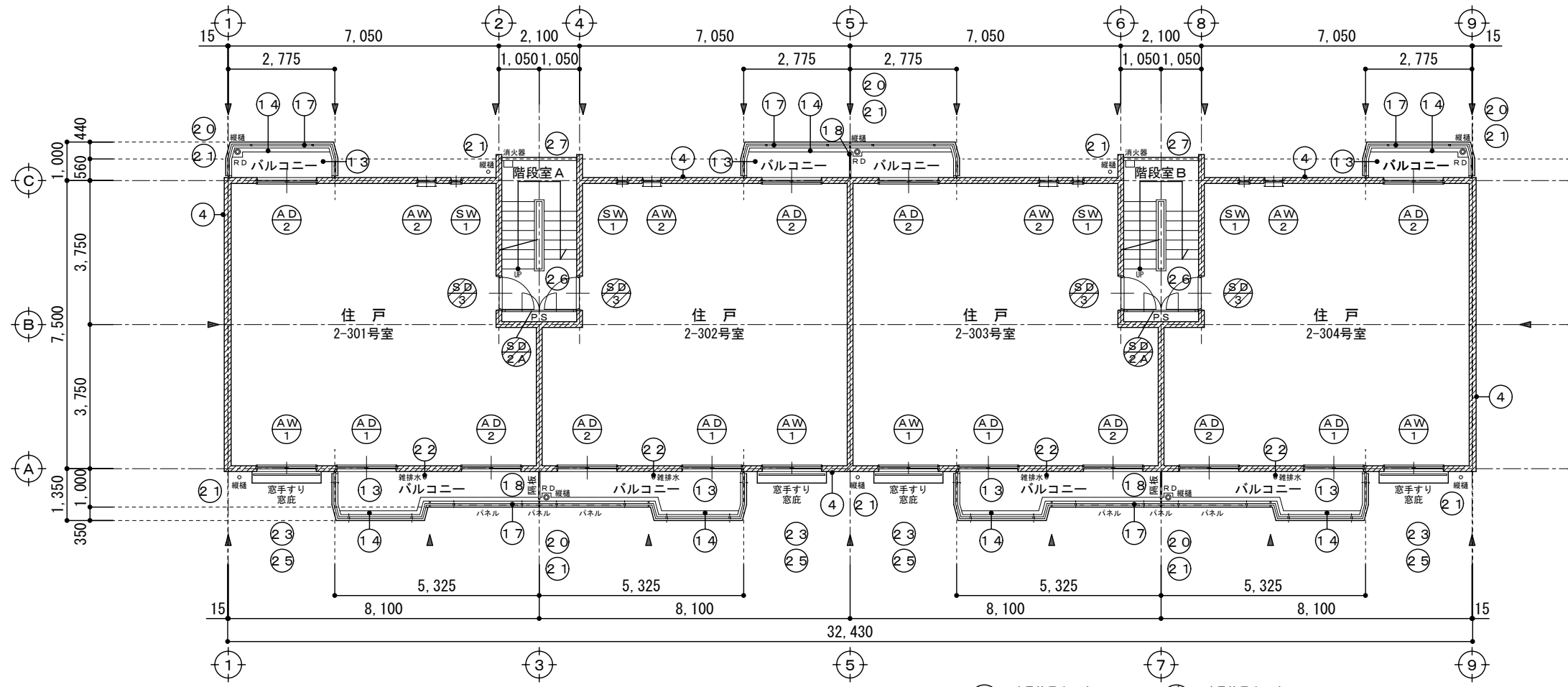


※ 建具符号を示す  
 ※ 建具周囲シーリング打替え  
 ※ 建具符号を示す  
 ※ 建具周囲シーリング打替え・塗装改修  
 ▲ PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 MASAA	工事名	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小	設計	種類
		1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美					



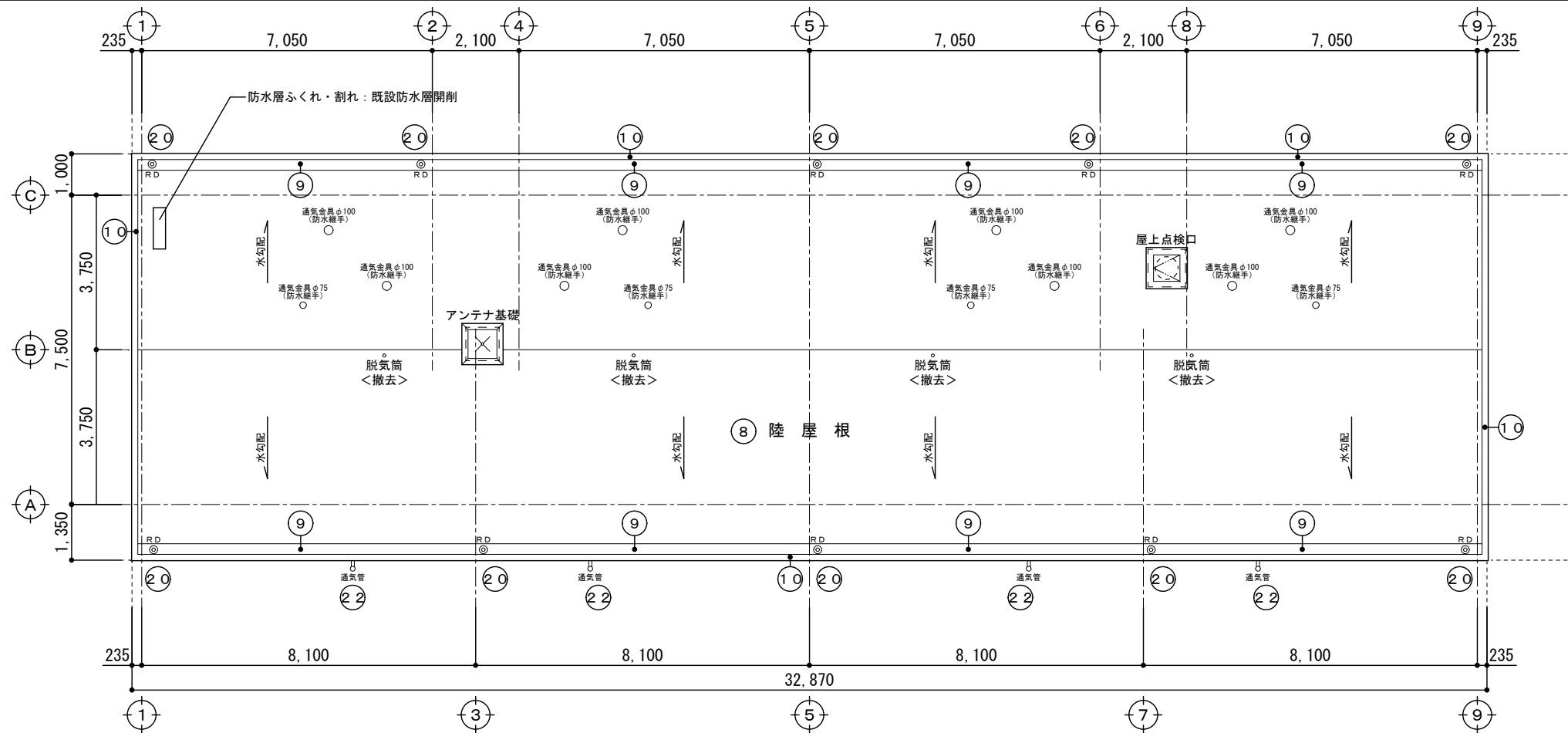
4階平面図 S=1:100



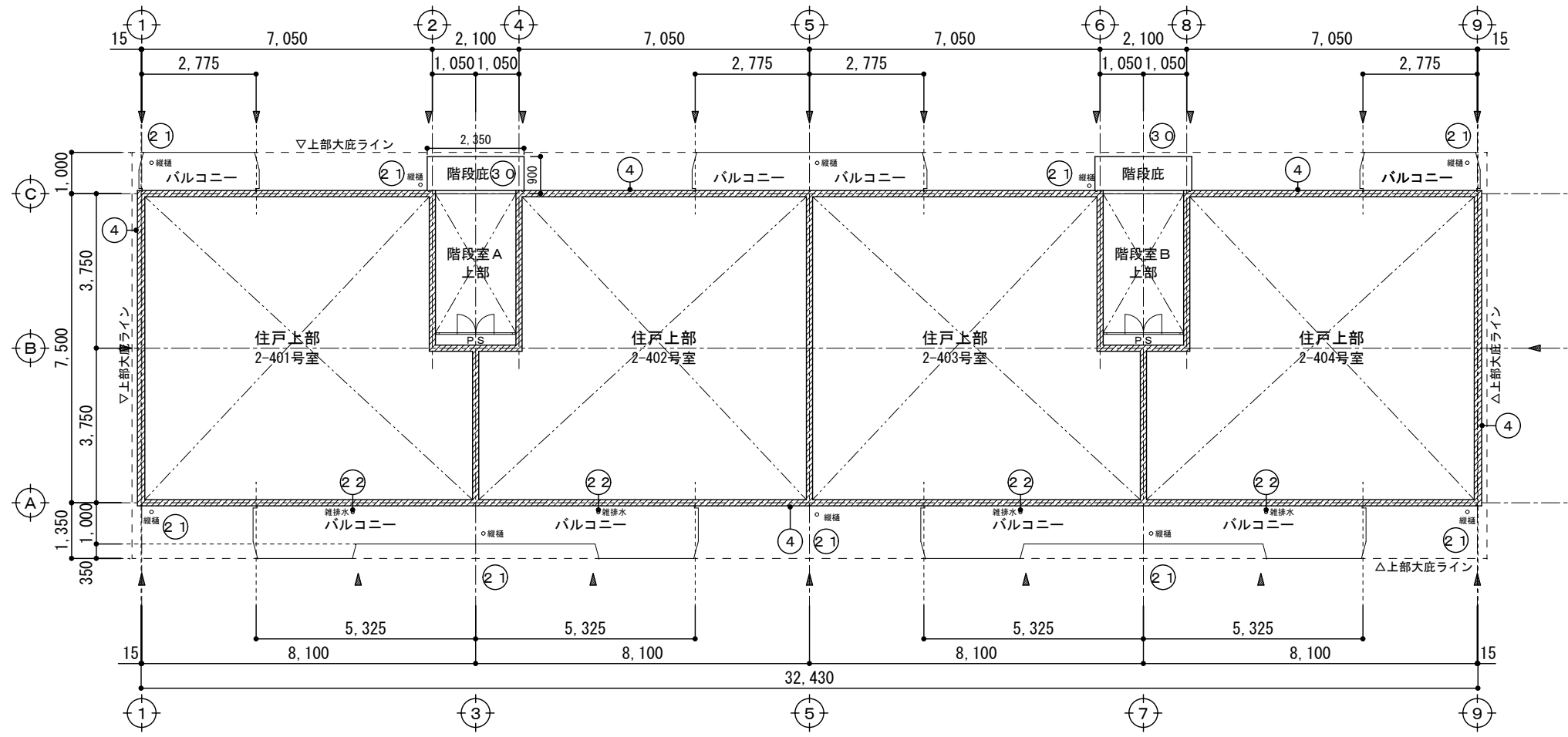
3階平面図 S=1:100

※ 建具符号を示す  
 ※ 建具周囲シーリング打替え  
 ※ 建具符号を示す  
 ※ 建具周囲シーリング打替え・塗装改修  
 ▲ PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課 設計者・設計事務所名 M A S A A	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	工事名 令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺 【2号棟】3・4階平面図・建具配置図 1:100	A2: 100% A3: 71%縮小	設計 令和7年	種別 A
				図面番号 21		

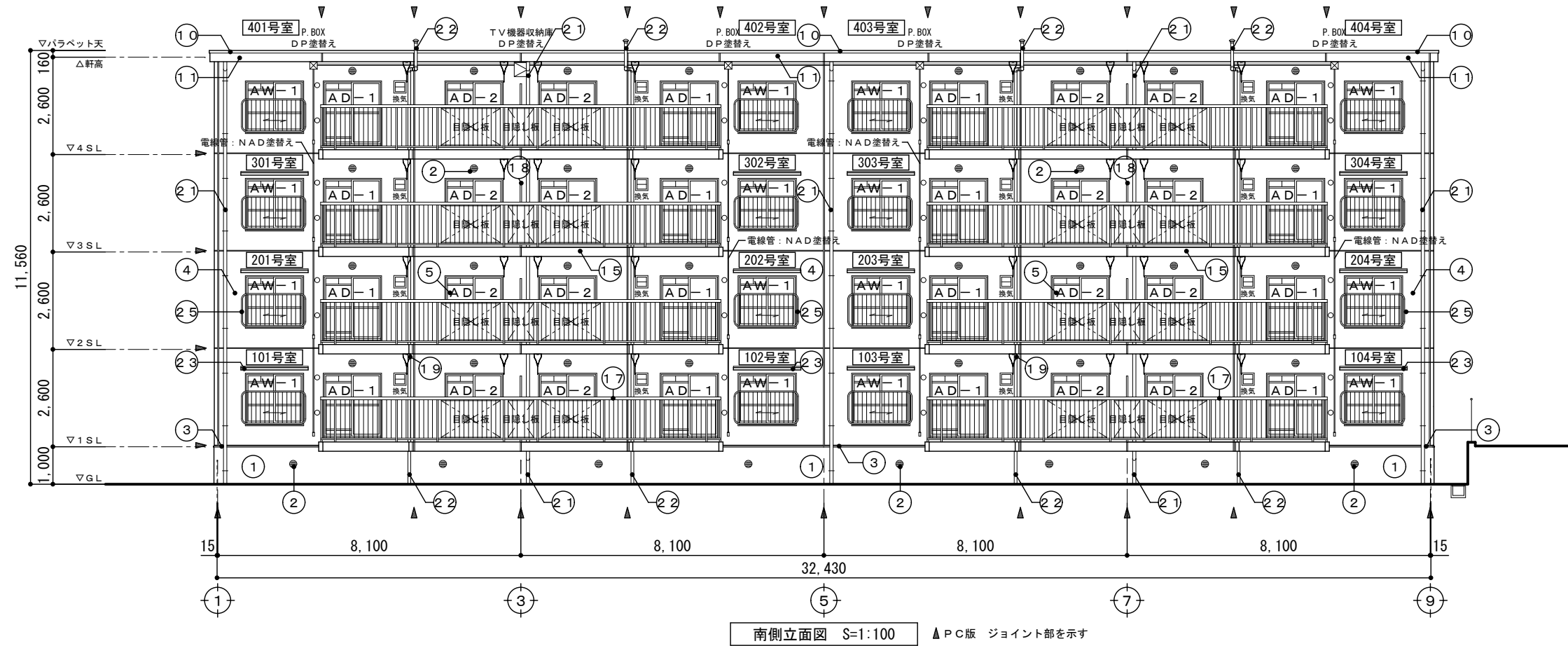
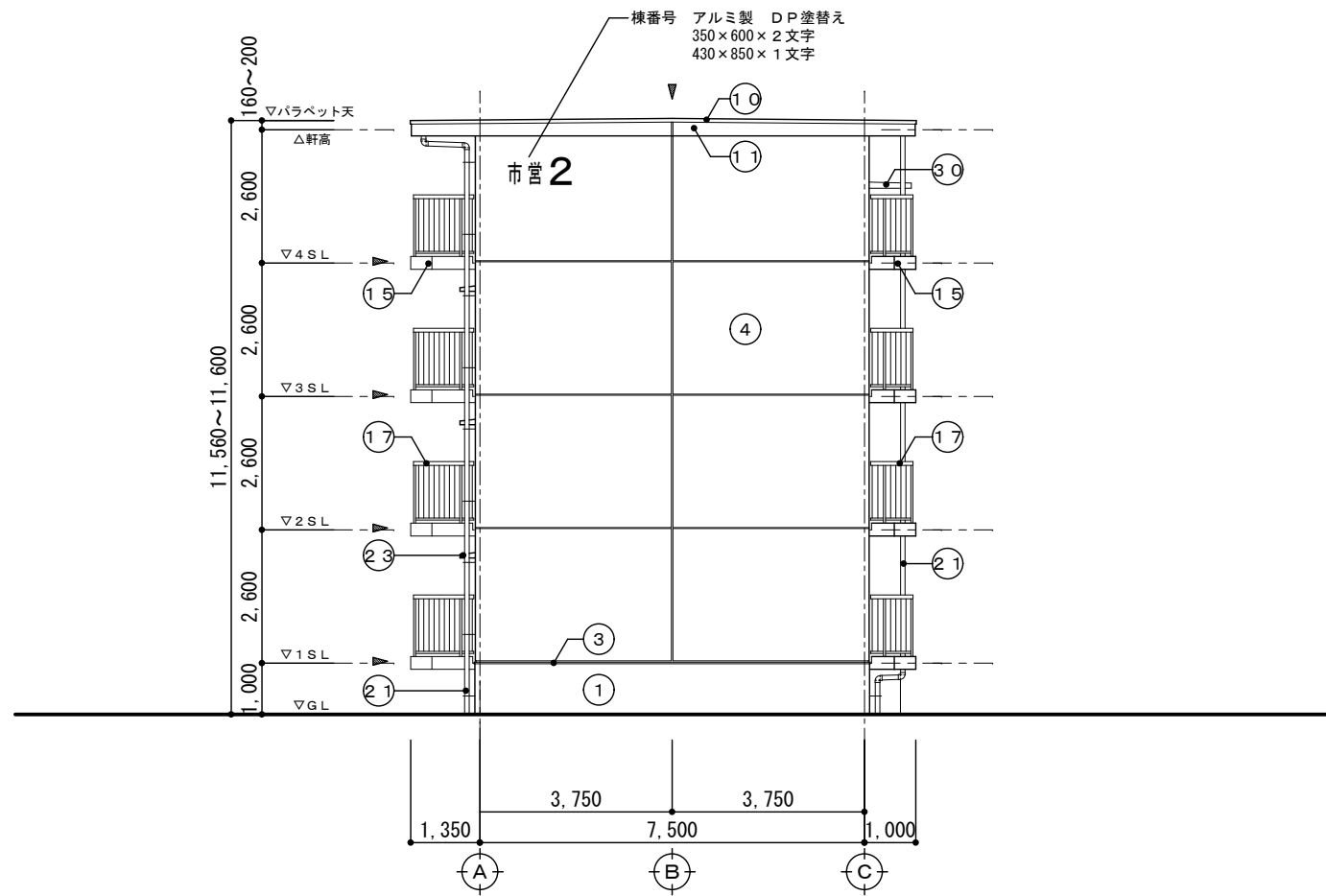


屋根伏図 S=1:100

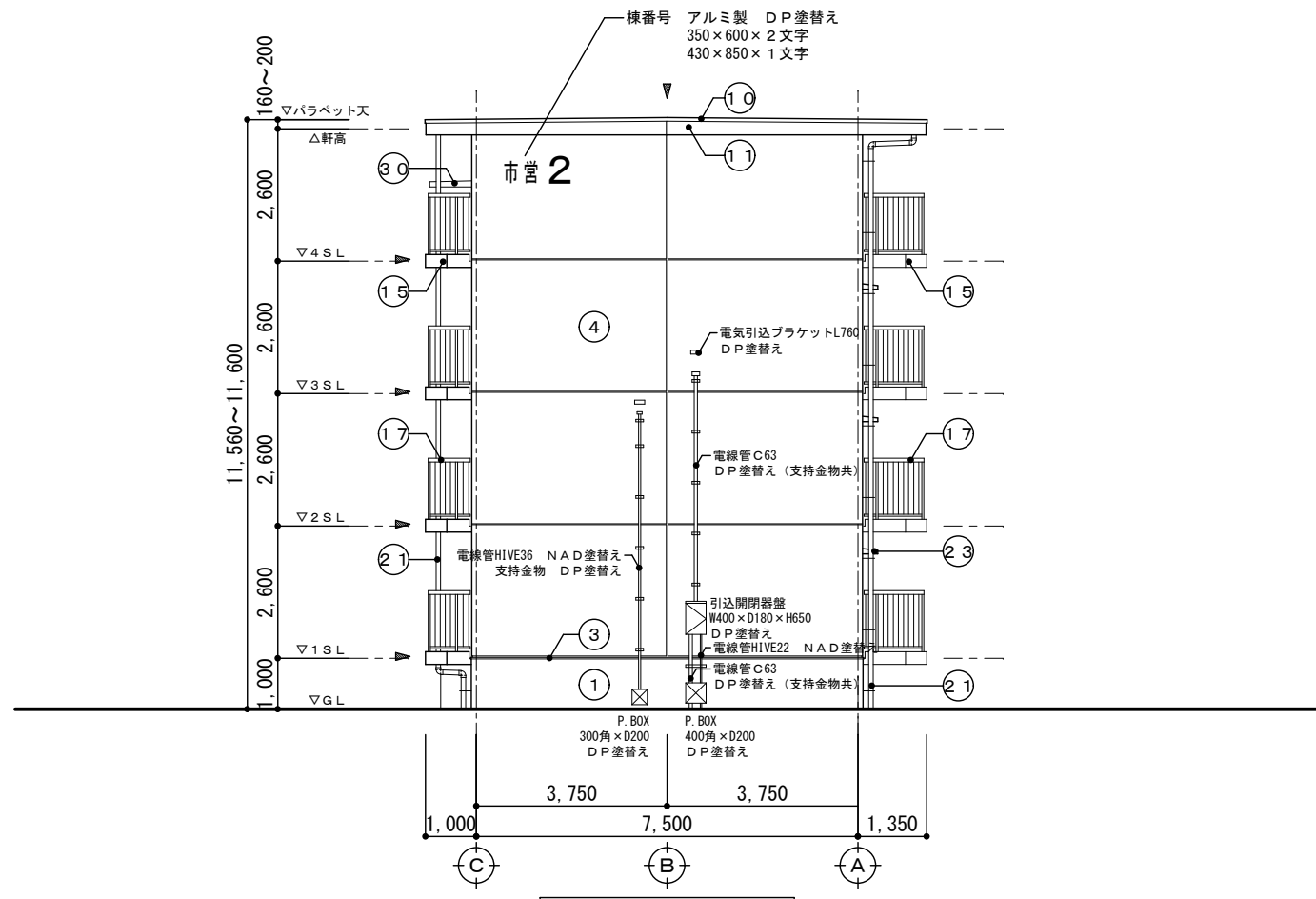


4階上部平面図 S=1:100 ▲PC版 ジョイント部を示す

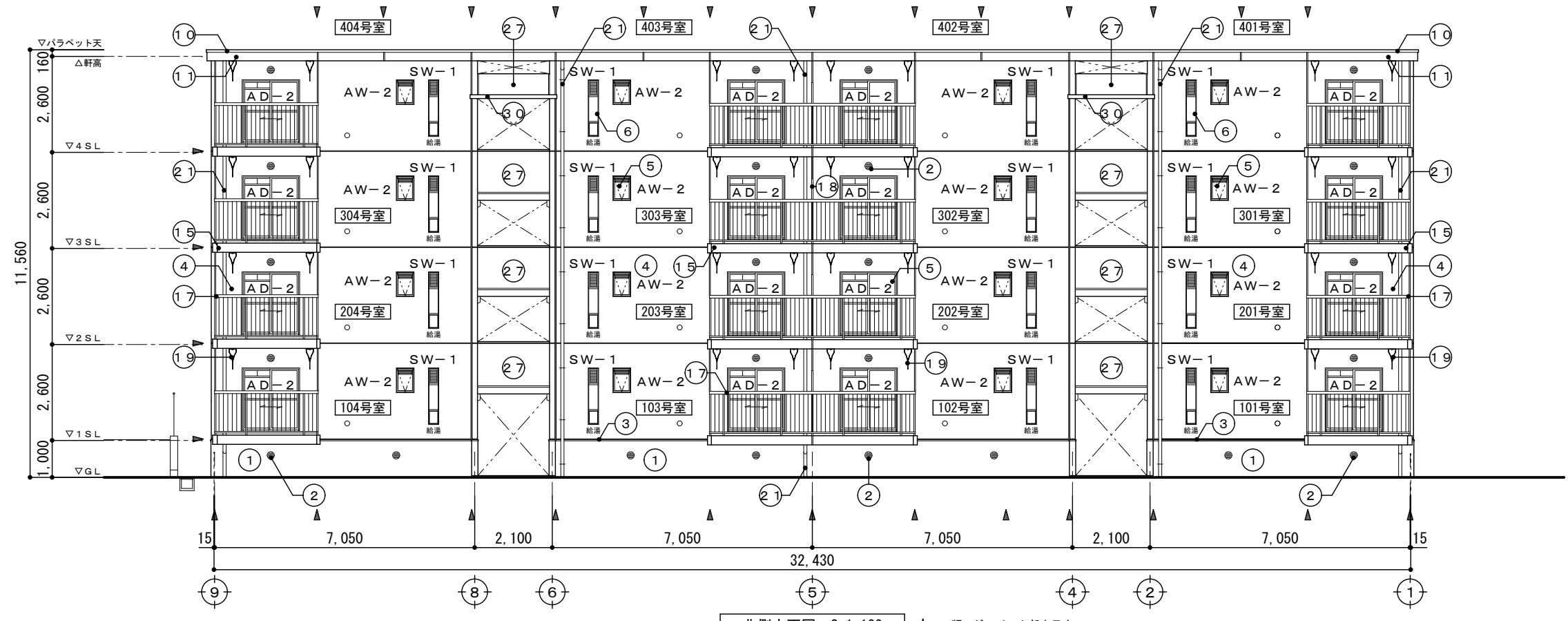
東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A 2 : 100%	設計	種別	
	M A S A A	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美			令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事			【2号棟】4階上部平面図・屋根伏図
					1:100		図面番号	22



東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小	設計 令和7年	種別 A 図面番号 23
	MASAA	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	【2号棟】立面図(1)	1:100		

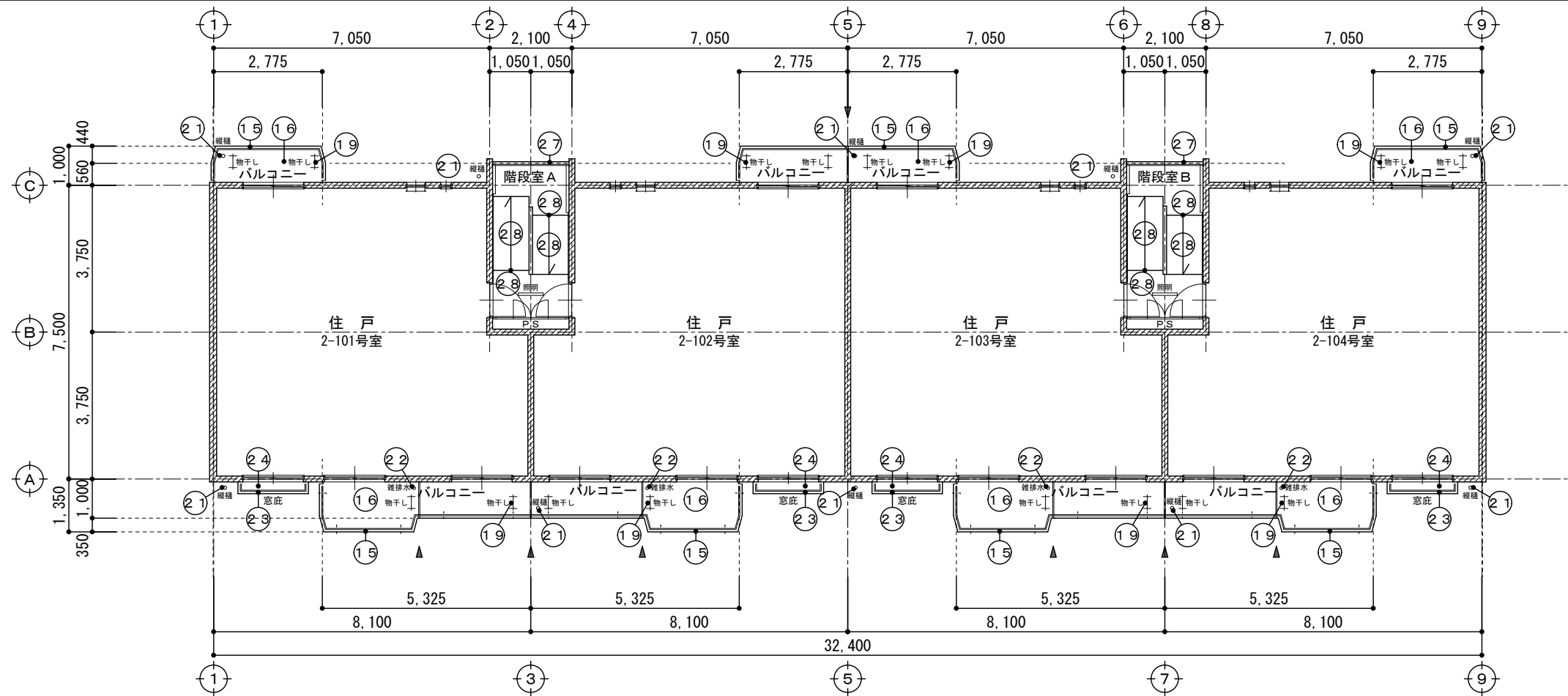
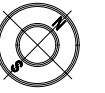


西側立面図 S=1:100

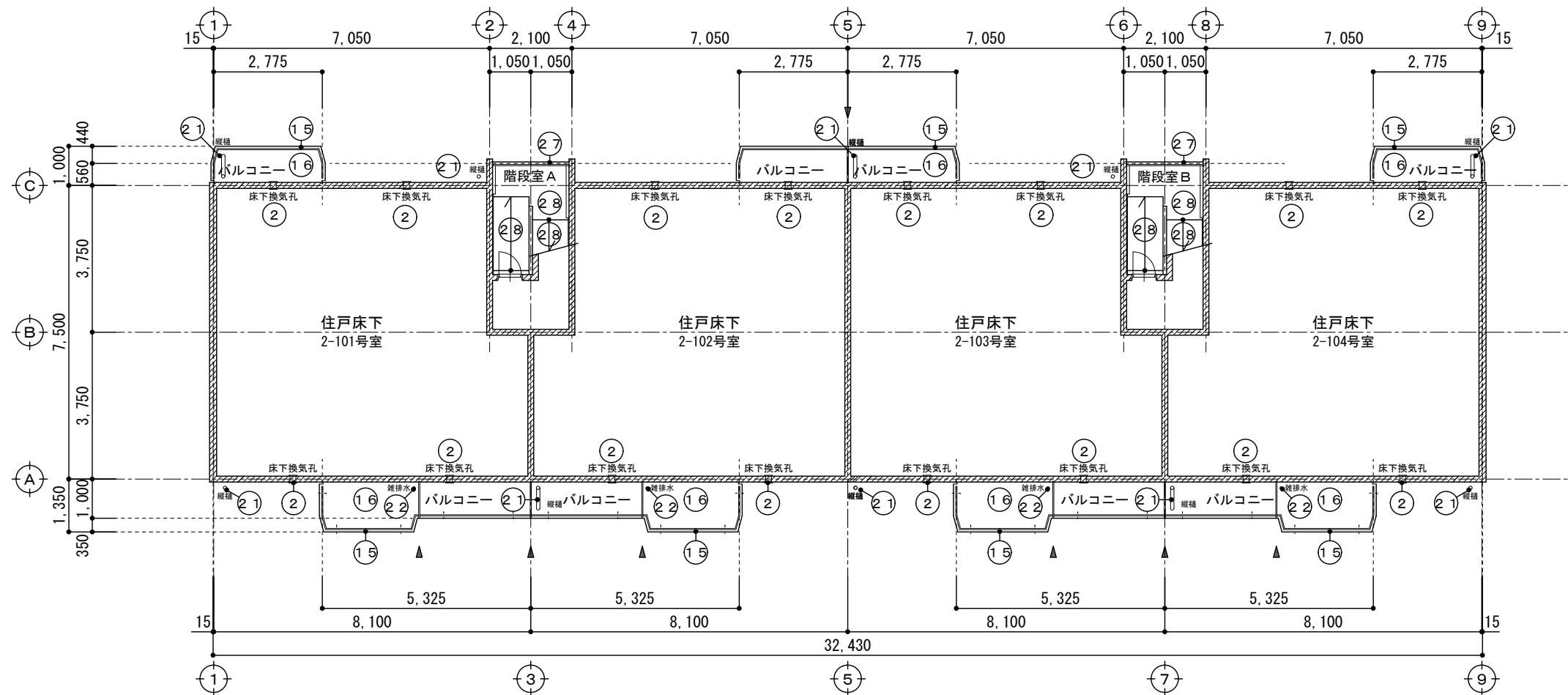


北側立面図 S=1:100 ▲PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小	設計 令和7年	種別 A 図面番号 24
	MASAA	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	【2号棟】立面図(2)	1:100		



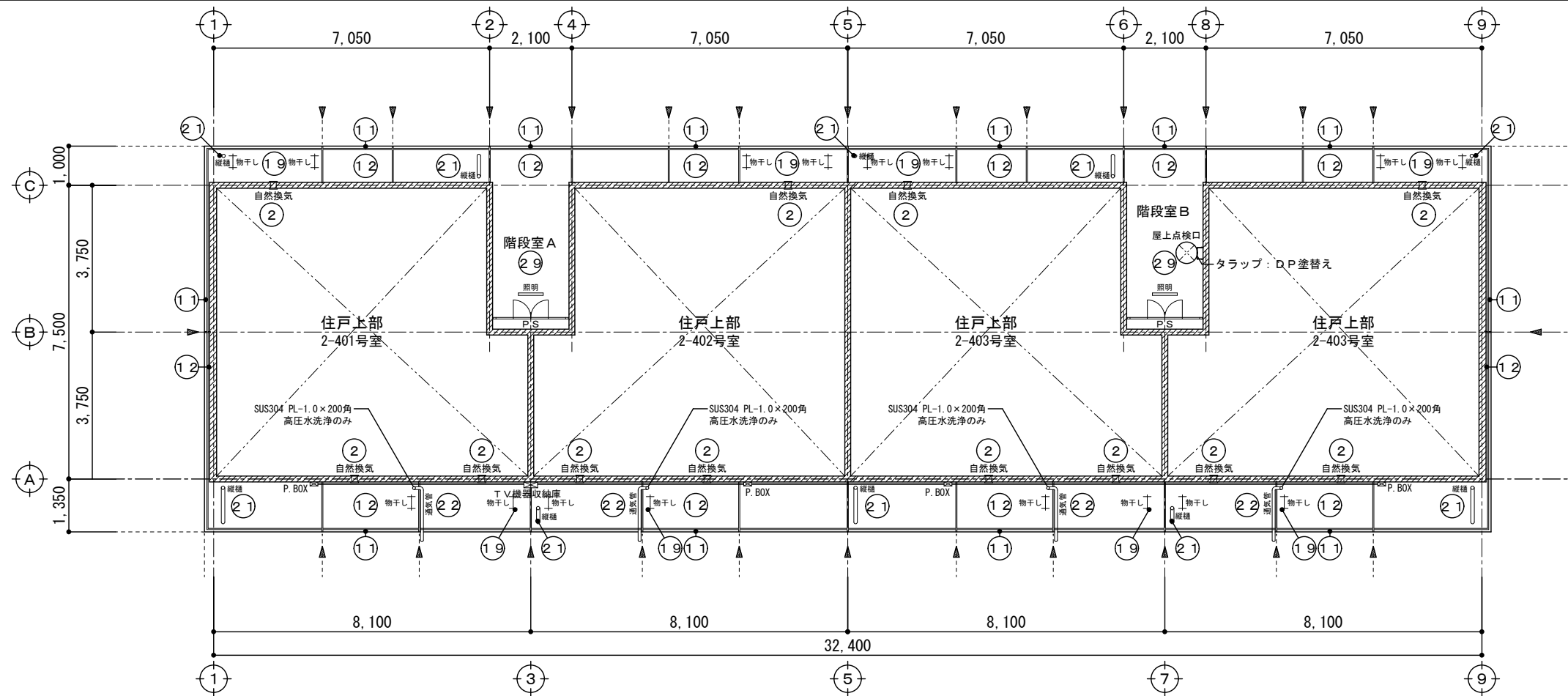
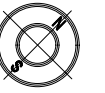
1階天井伏図 S=1:100



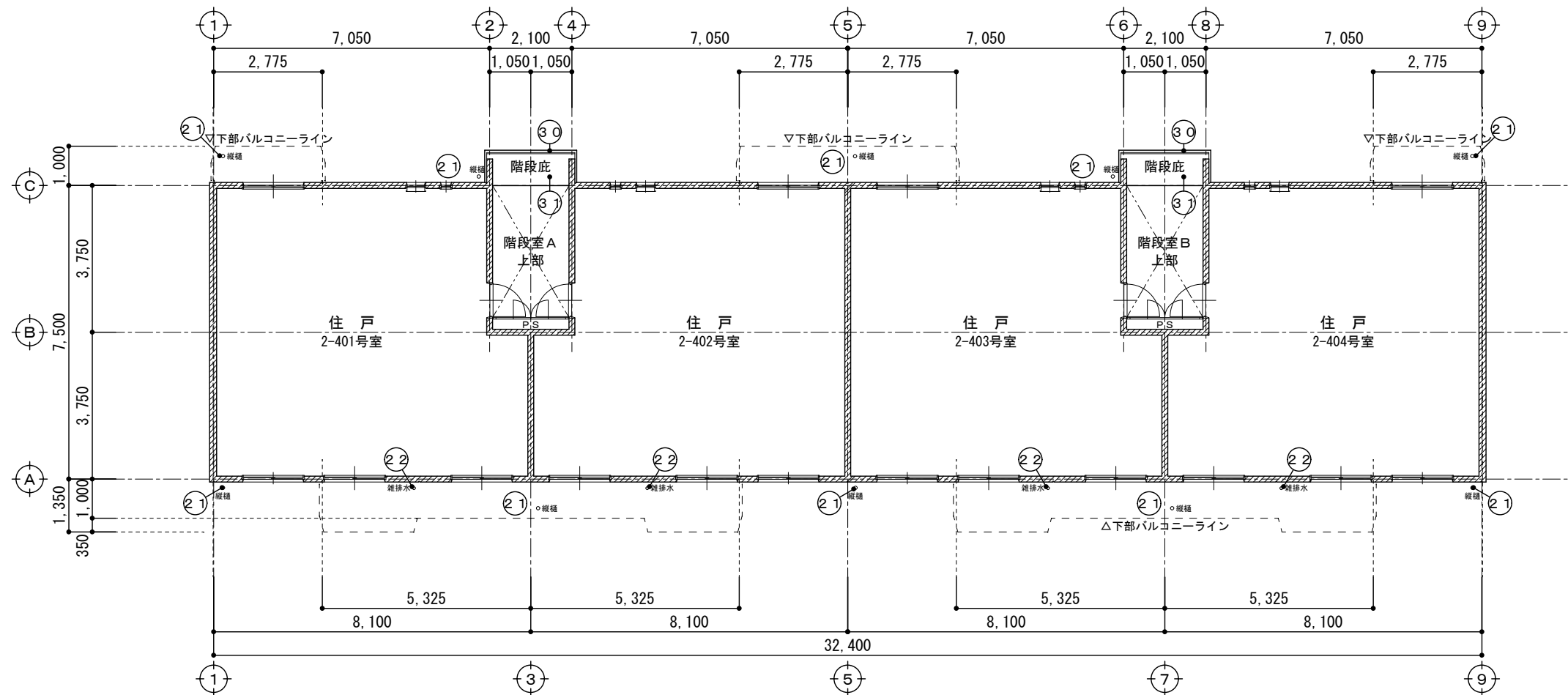
1階床下天井伏図 S=1:100 ▲PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 MASAA	工事名	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小 1:100	設計	種別
		1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美				令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	【2号棟】1階床下・1階 天井伏図



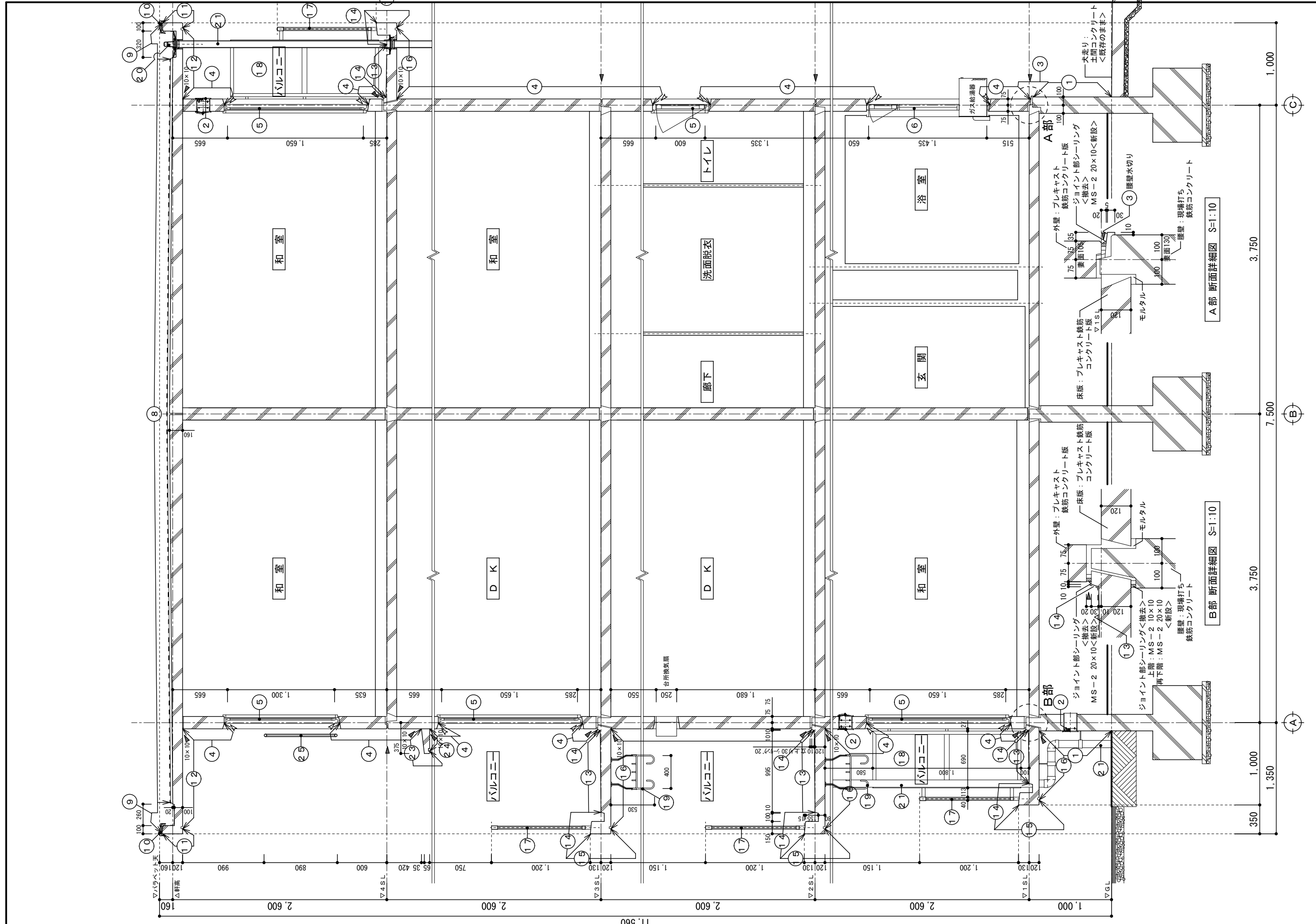


4階上部天井伏図 S=1:100



4階天井伏図 S=1:100 ▲PC版 ジョイント部を示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺	A 2: 100% A 3: 71%縮小	設計 令和7年	種別 A 図面番号 27
	M A S A A	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	【2号棟】4階・4階上部 天井伏図	1:100				



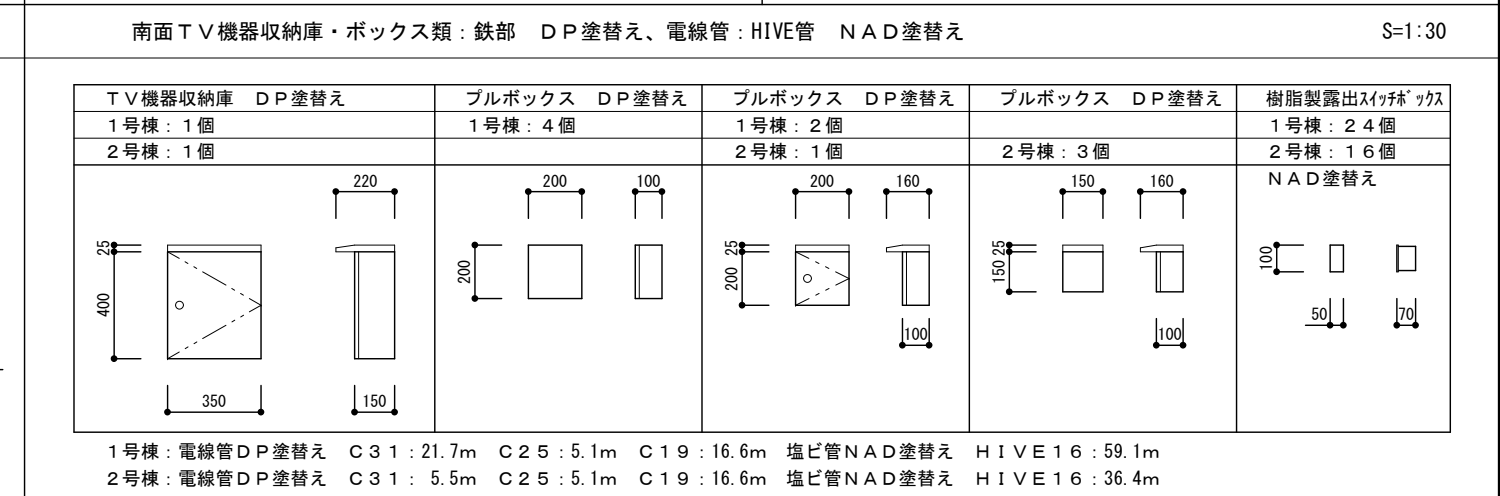
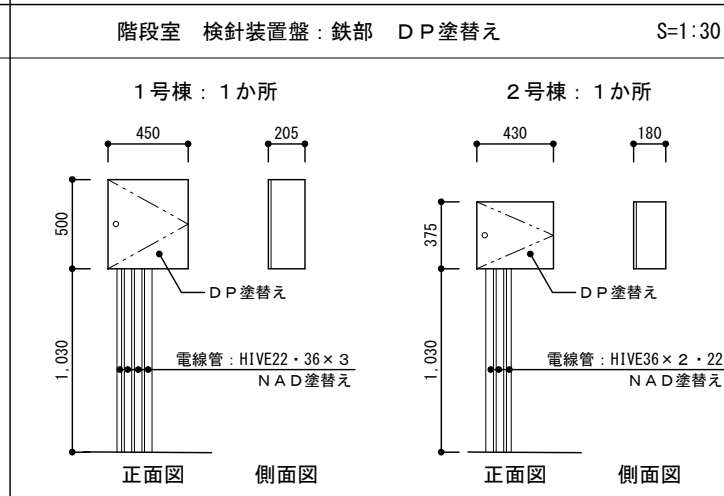
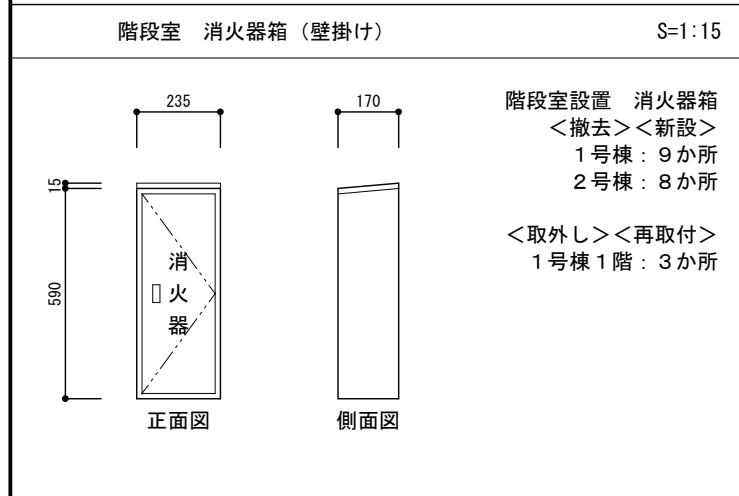
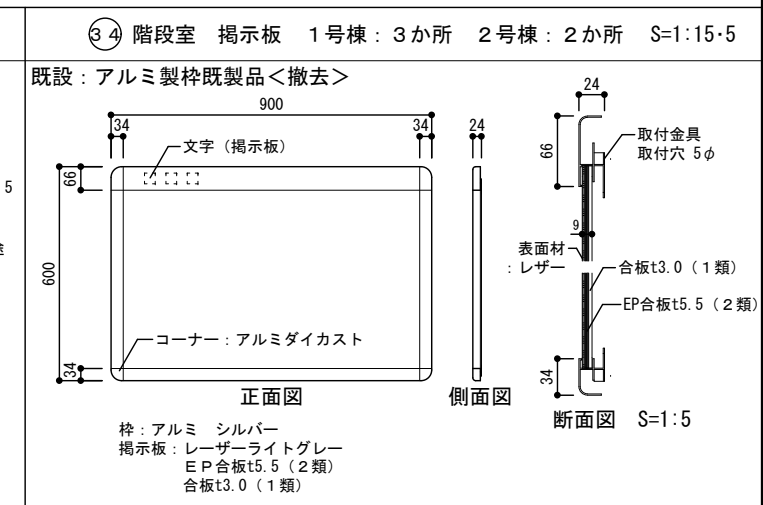
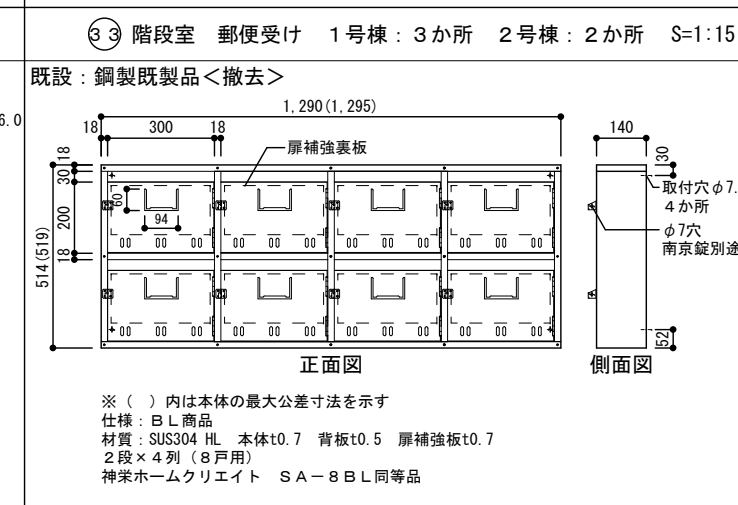
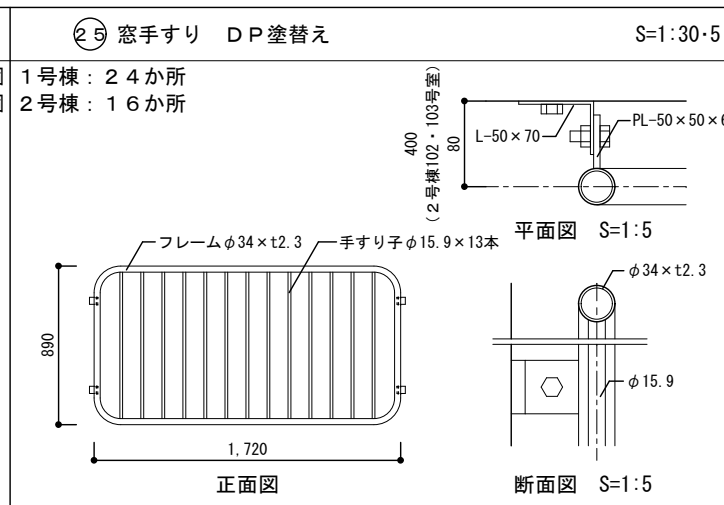
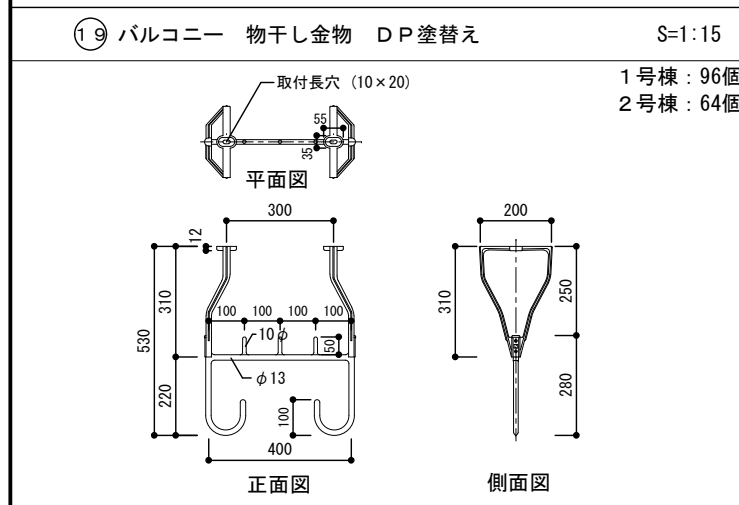
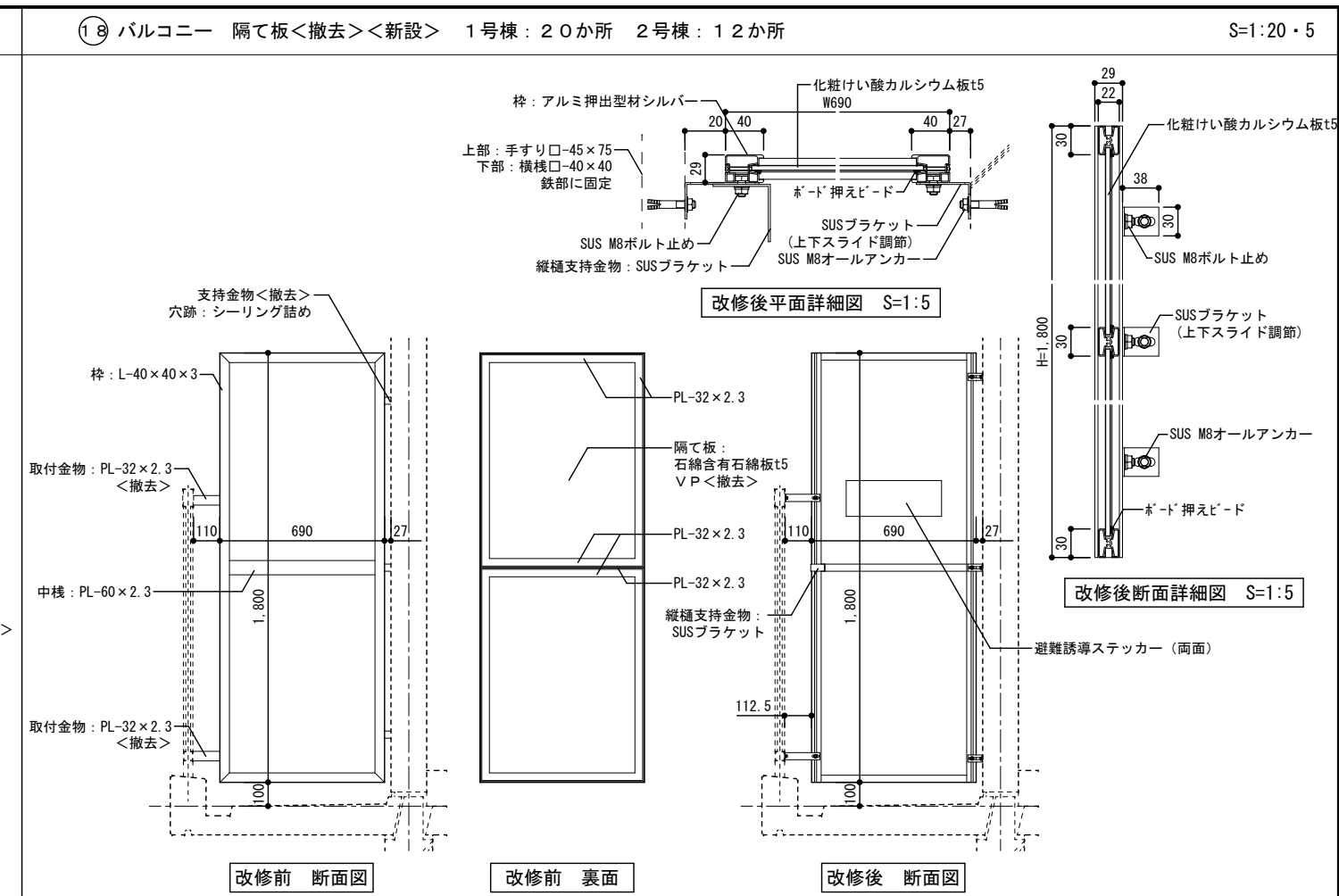
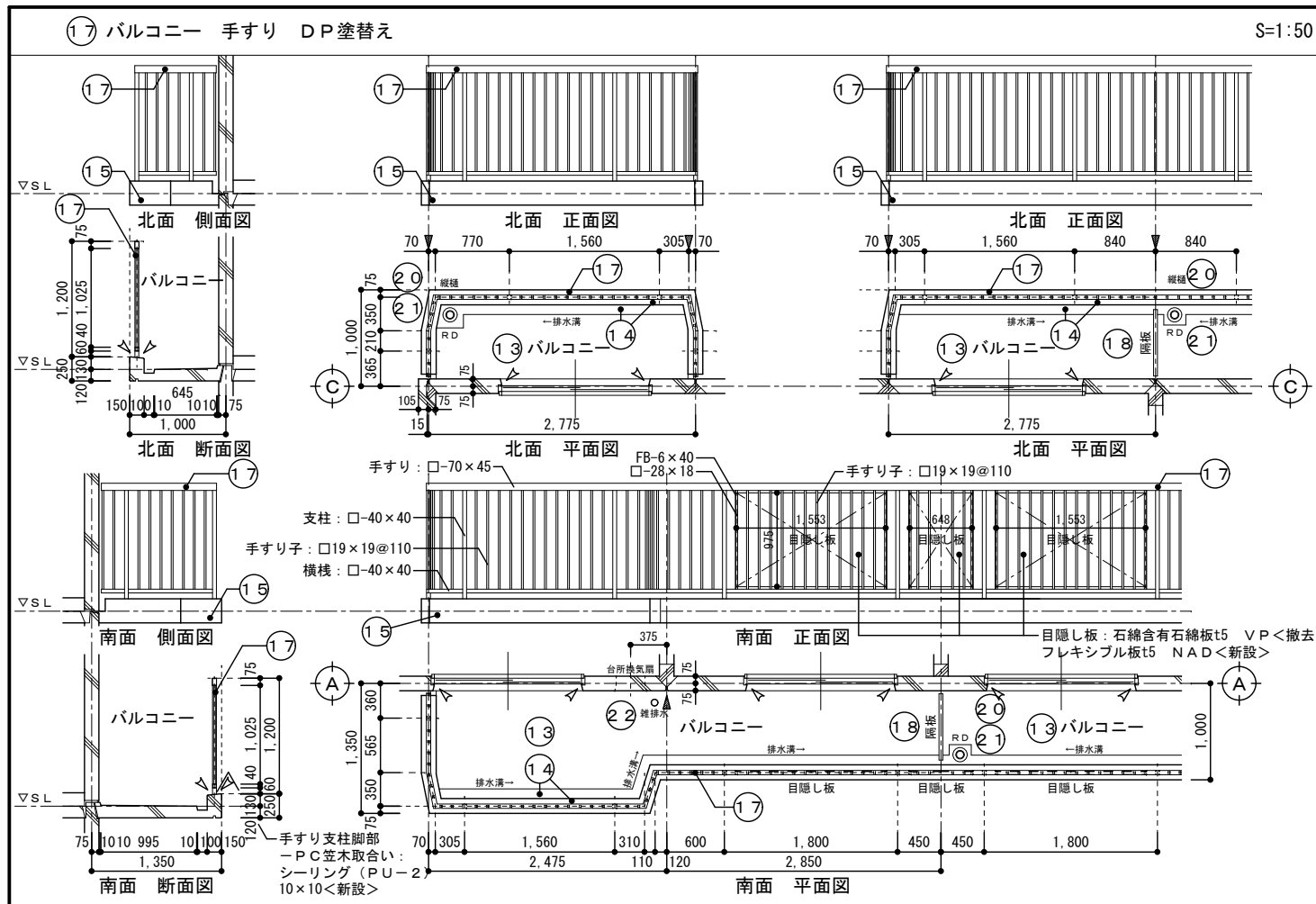
矩形図 S=1:30  
 ▲ ジョイント部シーリングを示す  
 ▼ 外部開口部廻りシーリングを示す

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 MASAA	工事名	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小 1:30 1:10	設計	令和7年	種別	A
		1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美						令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	矩形図

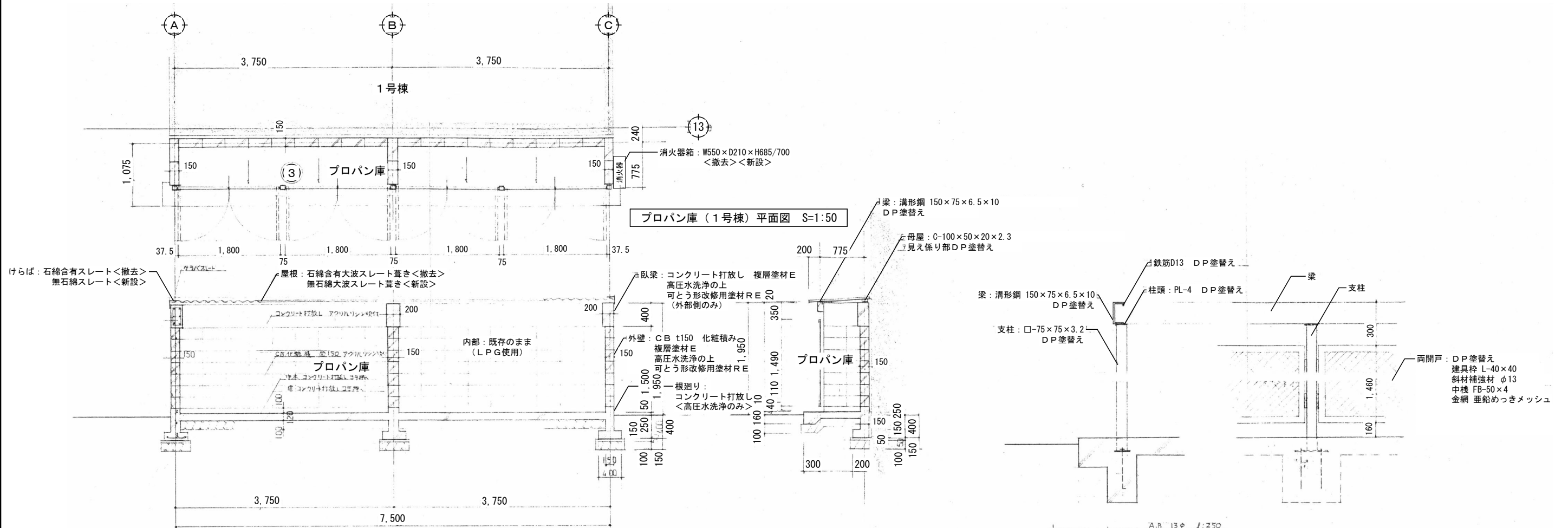


外部建具表		S=1:100									
建具改修工事内容 【建具周囲シーリング打替】 シーリング10×10<撤去> MS-2 10×10<新設> 【ガラス及び建具枠の清掃】 【塗替え】 鋼製建具のみDP塗替え(枠共)	符号・名称	(AD1) アルミ製 引違い戸 引違い換気窓・給気ガラリ付 【建具周囲シーリング打替】	(AD2) アルミ製 引違い戸 引違い換気窓付 【建具周囲シーリング打替】	(AD2) アルミ製 引違い戸 引違い換気窓付 【建具周囲シーリング打替】	(AW1) アルミ製 引違い窓 引違い換気窓付 【建具周囲シーリング打替】	(AW1) アルミ製 引違い窓 引違い換気窓付 【建具周囲シーリング打替】					
	位置・数量	1~4F 住戸(DK) 1号棟×24 2号棟×16	1~4F 住戸(和室) 1号棟×44 2号棟×32	1~4F 住戸(和室) 1号棟×4	1~4F 住戸(和室) 1号棟×20 2号棟×16	1~4F 住戸(和室) 1号棟×4					
	姿図										
	扉厚・仕上	-	-	-	-	-					
	枠見込・仕上	60 B-1	60 B-1	60 B-1	60 B-1	60 B-1					
	沓摺・水切	-	-	-	-	-					
	硝子	上:フロート板ガラスt3.0、下:刷りガラスt3.0 換気窓:フロート板ガラスt5.0	上:フロート板ガラスt3.0、下:刷りガラスt3.0 換気窓:フロート板ガラスt5.0	上:網入りガラスt6.8、下:網入り型板ガラスt6.8 換気窓:網入りガラスt6.8	上:フロート板ガラスt3.0、下:刷りガラスt3.0 換気窓:フロート板ガラスt5.0	上:網入りガラスt6.8、下:網入り型板ガラスt6.8 換気窓:網入りガラスt6.8					
金物	附属金物一式、網戸なし	附属金物一式、網戸なし	附属金物一式、網戸なし	附属金物一式、網戸なし	附属金物一式、網戸なし						
備考			乙種防火戸		乙種防火戸						
符号・名称	(AW2) アルミ製 内倒し窓 アルミガラリ付 【建具周囲シーリング打替】	(SW1) ステンレス製 はめ殺し窓 塞ぎ窓・内倒し可動ガラリ付 【建具周囲シーリング打替】									
位置・数量	1~4F 住戸(トイレ) 1号棟×24 2号棟×16	1~4F 住戸(浴室) 1号棟×24 2号棟×16									
姿図											
扉厚・仕上	-	-									
枠見込・仕上	60 B-1	60 ヘアライン									
沓摺・水切	アルミ製二重水切	SUS304									
硝子	型ガラスt4.0	網入り型板ガラスt6.8									
金物	附属金物一式、網戸なし	附属金物一式、網戸なし									
備考	ガラリ部はビニル養生を行うこと	附属金物一式、網戸なし									
符号・名称	(SD1) スチール製 片開き戸 両面【塗替え】 【建具周囲シーリング打替】	(SD2A) スチール製 片面パイプシャフトドア 両袖固定パネル付 両面【塗替え】 【建具周囲シーリング打替】	(SD2B) スチール製 片面パイプシャフトドア 両袖固定パネル付 両面【塗替え】 【建具周囲シーリング打替】	(SD3) スチール製 片開き戸 階段室側のみ【塗替え】 【建具周囲シーリング打替】							
位置・数量	1F 階段室 1号棟×3 2号棟×2	1~3F 階段室 1号棟×9 2号棟×6	4F 階段室 1号棟×3 2号棟×2	1~4F 階段室 1号棟×24 2号棟×16							
姿図											
扉厚・仕上	36 SOP	40 SOP	40 SOP	36 SOP							
枠見込・仕上	80 SOP	50 SOP	50 SOP	80 SOP							
沓摺・水切	-	-	-	鋼製							
硝子	-	-	-	-							
金物	丁番、シリング-面付本締錠、附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	丁番、シリング-面付本締錠、ノブ、附属金物一式							
備考	扉側面小口は塗装改修を行わない	扉側面小口は塗装改修を行わない	扉側面小口は塗装改修を行わない	甲種防火戸							
東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名 MASAA	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	工事名 令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺 建具表	A2:100% A3:71%縮小 1:50 設計 令和7年 種別 A 図面番号 30						





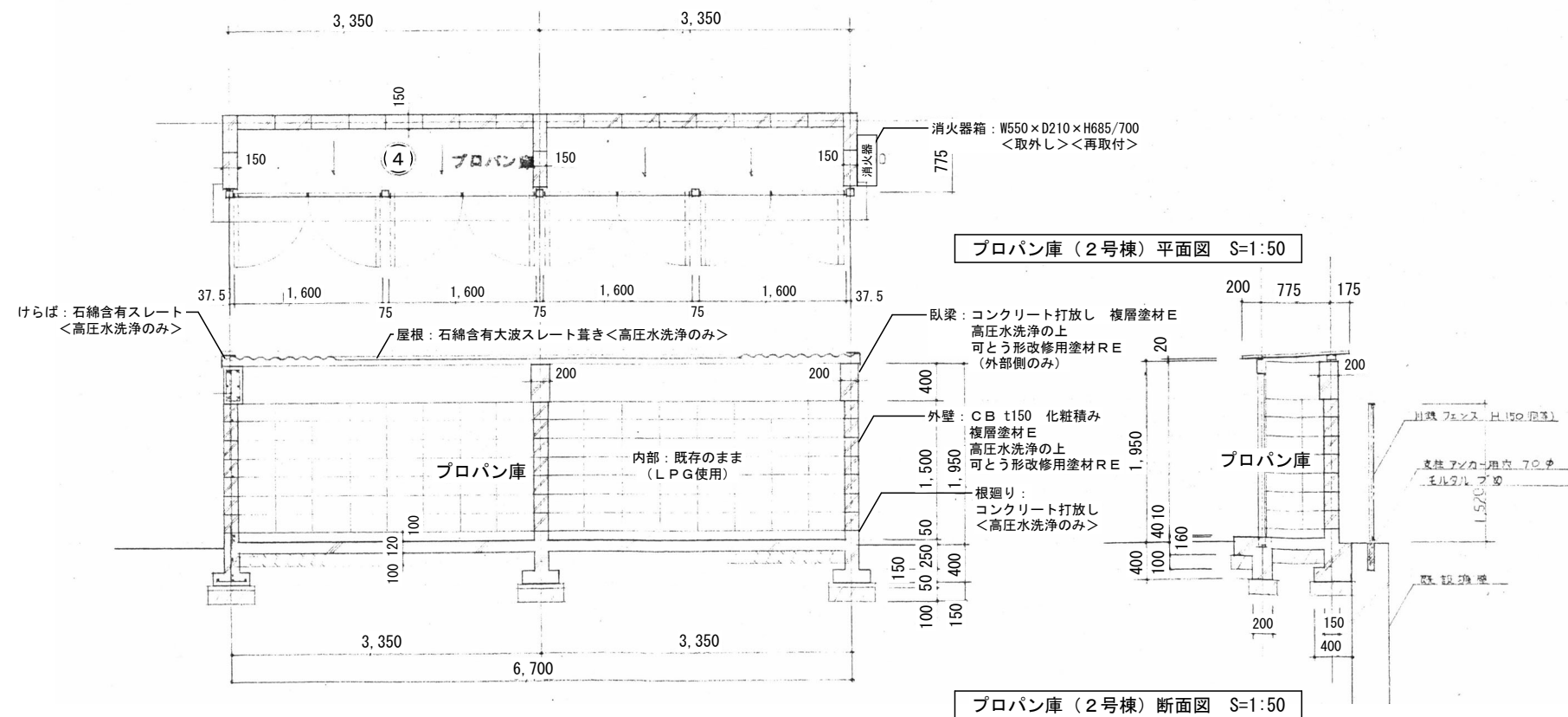




プロパン庫 (1号棟) 平面図 S=1:50

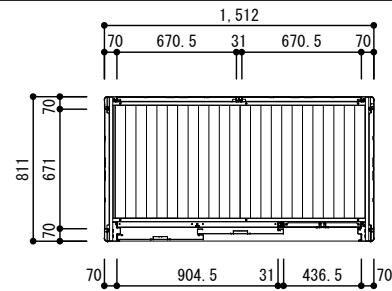
プロパン庫 (1号棟) 断面図 S=1:50

断面詳細図 S=1:20

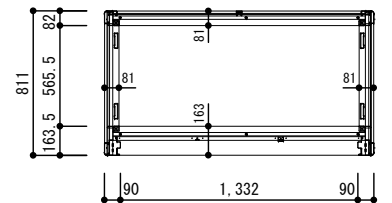


プロパン庫 (2号棟) 平面図 S=1:50

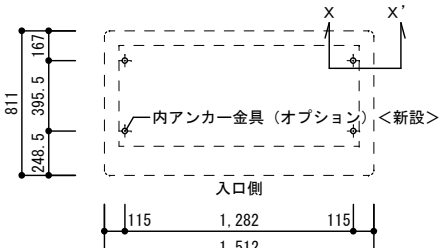
プロパン庫 (2号棟) 断面図 S=1:50



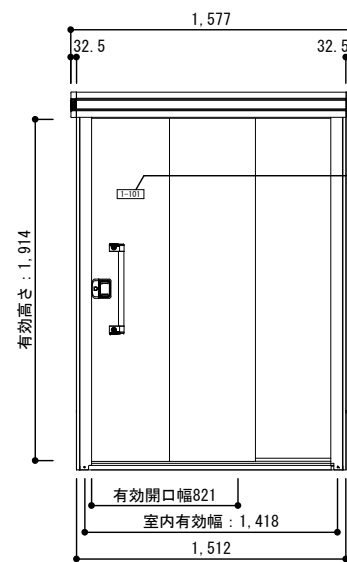
平面図 S=1:30



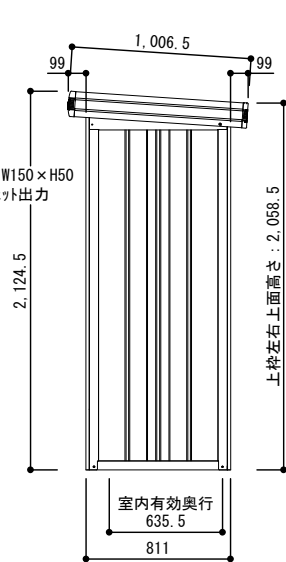
床伏図 S=1:30



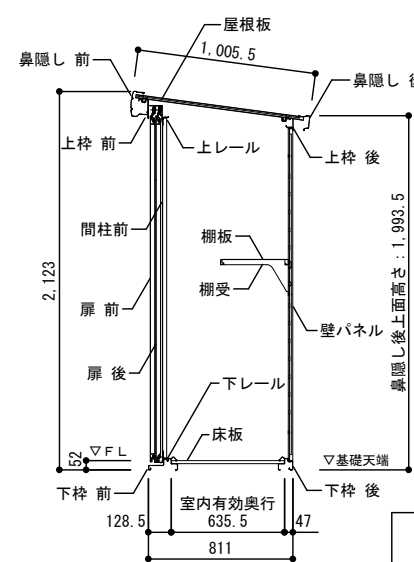
アンカー位置図 S=1:30



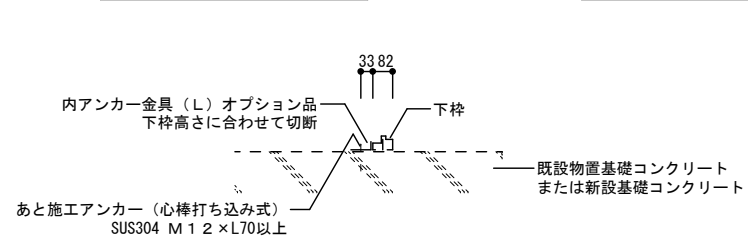
正面立面図 S=1:30



側面立面図 S=1:30



矩形図 S=1:30



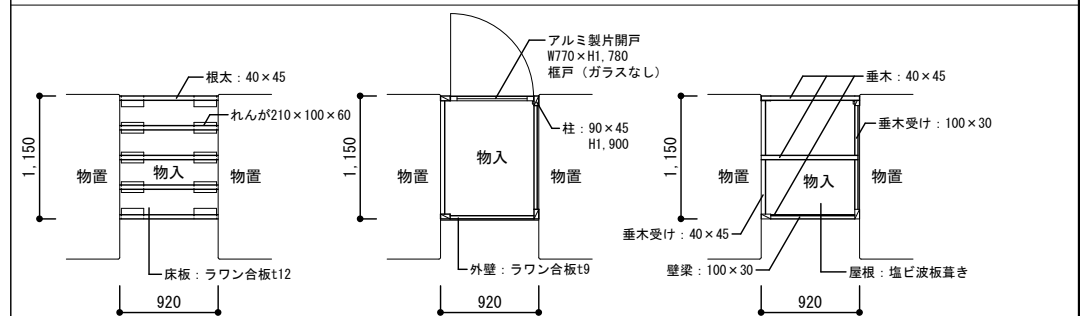
X-X断面図 S=1:20

部 材 名	厚さ(mm)	材 質
屋根板	0.4	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
下枠前(側・後)	1.2(1.0)	同上
上枠前(後)	1.0(0.8)	同上
上枠左右	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC (ツートンカラー)
上レール	1.2	アルミニウム合金押出型材
下レール	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し前	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC (ツートンカラー)
鼻隠し後	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
柱	0.8	同上
扉	0.6	同上
壁パネル	0.5	同上
袖壁	0.5	同上
間柱	1.0	同上
床板	0.6	同上
アンカープレート(L)	2.3	JIS G3302 溶融亜鉛めっき鋼板 SGCC (後塗装仕上げ)

部 材 名	サイズ(巾×高さ)
扉前 L-G	482.5 × 1938
扉後 L-G	482.5 × 1938
壁パネル L-A	670 × 1870
袖壁 L-G	436 × 1909

株式会社ヨドコウ ヨド物置エルモ LMD-1508型同等品

⑤ 物置 (1号棟) 木造物入<撤去>

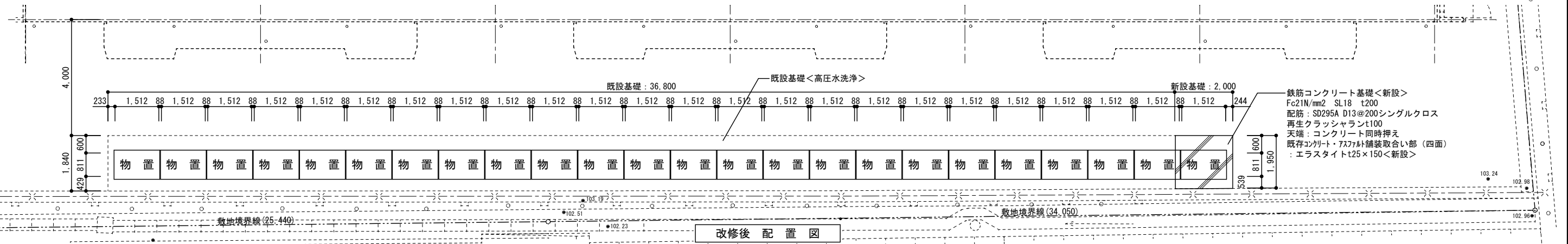


物入 床伏図 S=1:50

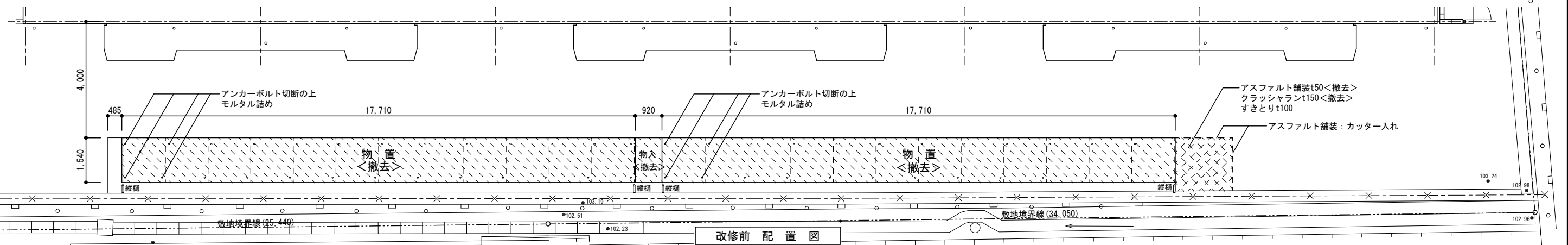
物入 平面図 S=1:50

物入 小屋伏図 S=1:50

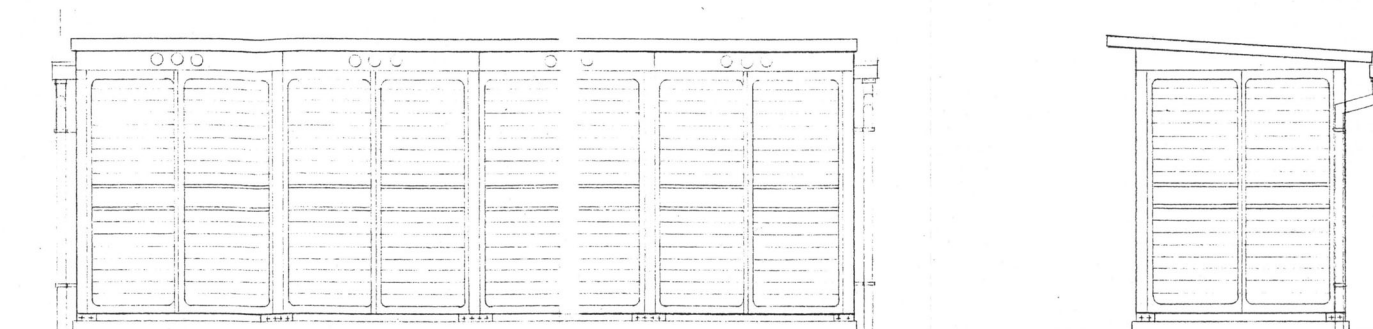
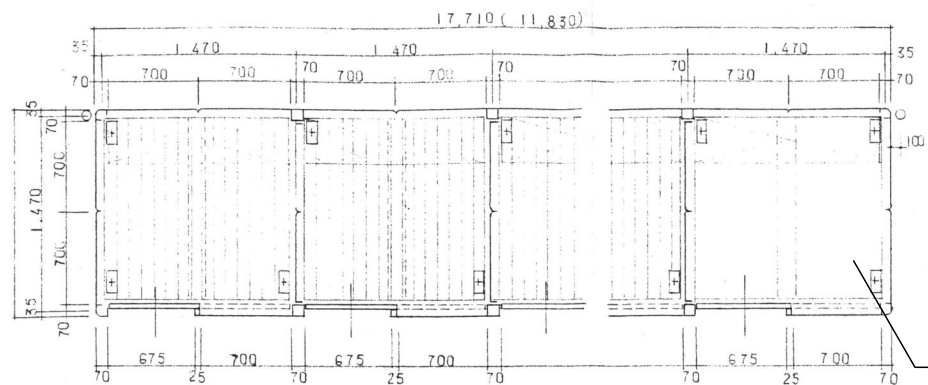
⑤ 物置 (1号棟)



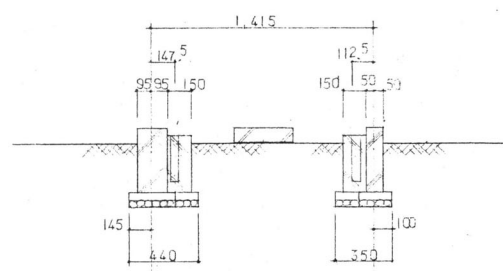
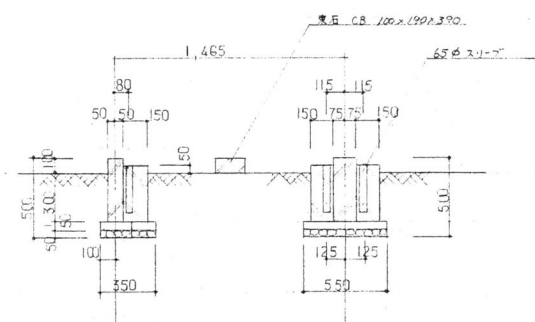
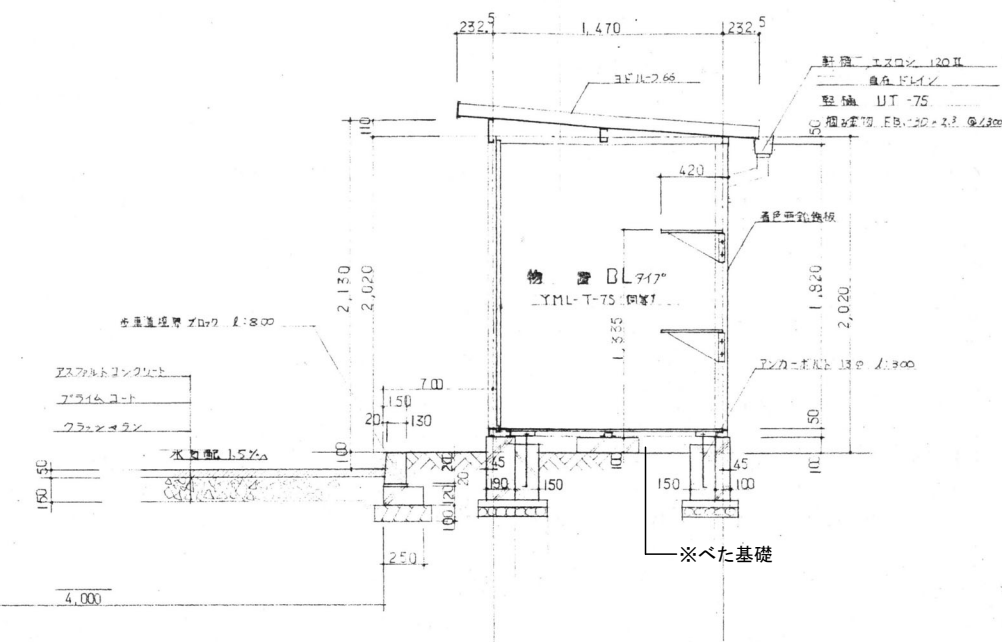
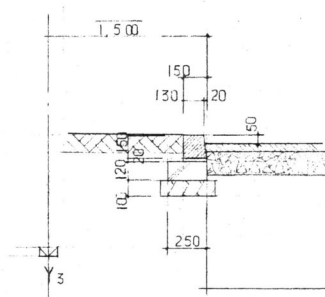
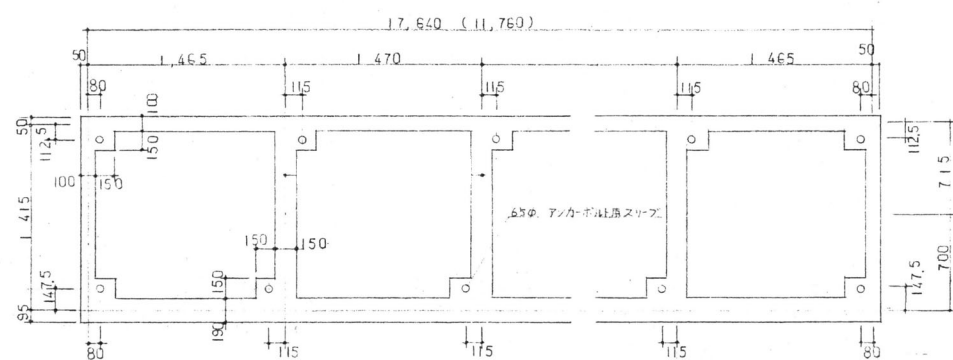
改修後 配置図



改修前 配置図



床: 敷き鉄板t4.5 (1号棟のみ)



	建築面積	床面積
物置 16 P	36.436	36.436
物置 24 P	54.546	54.546
<b>合計</b>	<b>90.982 m<sup>2</sup></b>	<b>90.982 m<sup>2</sup></b>

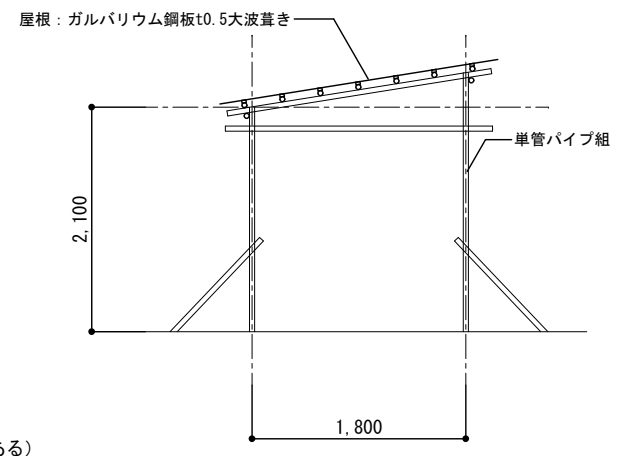
11,830	11,830	11,830 × 1,540 × 2 = 36,436
8 P	8 P	17,710 × 1,540 × 2 = 54,546
17,710	17,710	
12 P	12 P	





凡例	II工区(2号棟)
	工事用出入口: キャスターゲートW3.0×H1.8m【指定仮設】
	仮囲い: ガードフェンス H1.8m L=1.8m【指定仮設】
	交通誘導警備員(大型車両進入時) 1名 計75人【指定仮設】
	くさび緊結足場(手すり先行方式) 特記なきは建地幅900mm
	くさび緊結足場(手すり先行方式) ブラケット枠 建地幅300mm
	メッシュシート張り(H1,800以上)
	仮設駐輪場 W5,500×D1,800 単管組・大波葺き
	居住者動線を示す
	工事建物

- 特記事項**
- ※休憩所・仮設トイレは、空き室を利用する(水道及び電気利用については有償である)  
退去時には、現状復旧・清掃を行うこと
  - ※各戸 窓・ガラリ等はすべて目張り養生を行うこと
  - ※既存舗装(アスファルト舗装・コンクリート舗装等)を破損した場合は現状復旧すること
  - ※入居者の車両は、敷地内の駐車場1~29・33~37・40に駐車する  
車両通行支障がないように作業をすすめること
  - ※緊急車両等の大型車両が玄関利用の場合は、  
車両通行支障がないように通路確保に努めること
  - ※ゴミ置場の収集車両、プロパン庫のLPGガス供給車両等に配慮すること  
またLPGガスボンベ入れ替えのための搬出入スペースを確保すること
  - ※交通誘導警備員は、工事期間中施工状況に応じて適切な位置に配置し、  
大型車両通行時には車両に随行する等安全に配慮すること
  - ※仮囲い範囲外での揚重・作業等は、監督職員・施設管理者と協議の上カラーコーン・バリケード等により区画し注意喚起表設置と交通誘導員を配置すること  
また365日施設利用するため、休日も安全に配慮すること
  - ※現場事務所と駐車スペース・資材置場等は、監督職員と協議の上決定のこと
  - ※仮設計画図は参考図とするが、安全対策・動線等については十分配慮の上、  
仮設工事施工計画書を事前に作成し監督職員の承諾を得ること
  - ※別敷地の市営寺山住宅の駐車場5台分程度を借用予定  
利用時は監督職員・施設管理者の承諾を得ること
  - ※外部足場設置部の出入口には合板等にて3方養生を行うこと
  - ※プロパンボンベ庫は外部足場に干渉するため、大波スレート屋根撤去・新設する  
足場配置は、LPG納入業者と調整のこと
  - ※資材置場の提供場所については1号棟及び2号棟倉庫の解体跡地とするため、工事に先立ち倉庫解体工事を行う  
当該場所以外を資材置場とする場合はこの限りではない(跡地利用する場合は事前に監督職員と協議を行うこと)  
・2号棟倉庫解体後は隣接地との高低差があるため、転落防止対策を行うこと

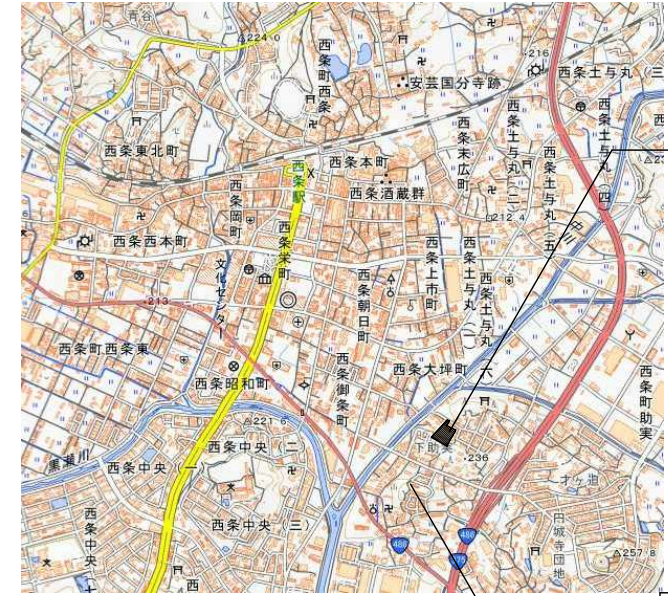


仮設駐輪場断面図(参考図) S=1:50

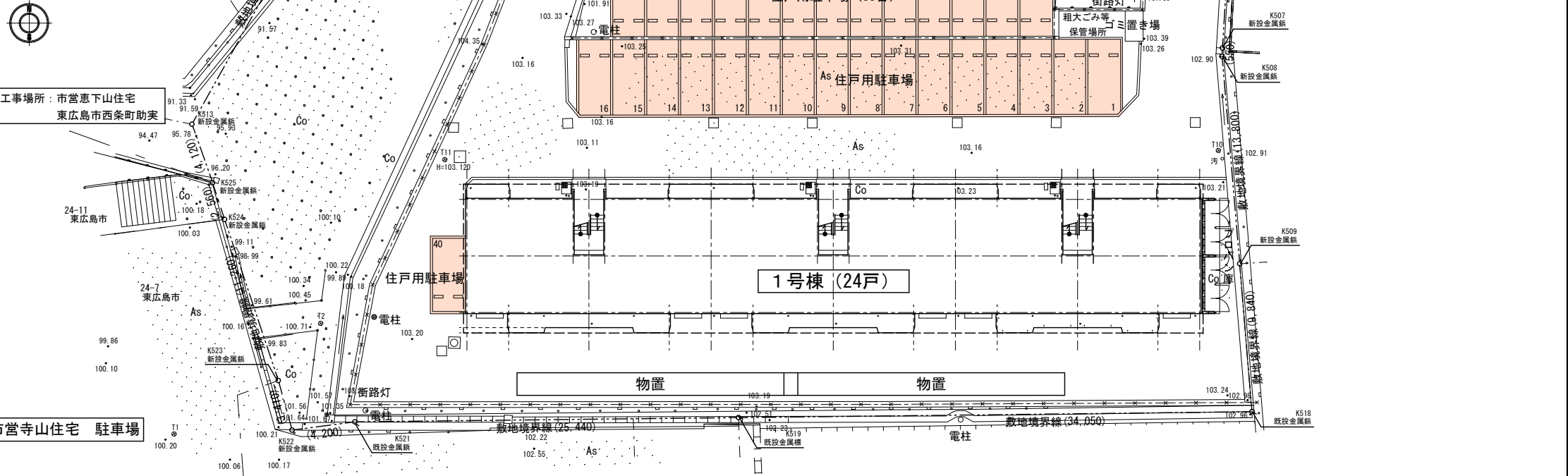
※単管埋設部はアスファルト舗装復旧のこと  
※単管端部は保護材等を取付、利用者の安全に配慮すること

(参考) 令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事 概略工事工程表

工事種別	工事期間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
I工区 (1号棟 防水改修工事) RC-4F部 対象床面積: 1,473.00㎡	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備
I工区 (1号棟 外壁改修工事) RC-4F部 対象床面積: 1,473.00㎡	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備
II工区 (2号棟 防水改修工事) RC-4F部 対象床面積: 982.32㎡	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備
II工区 (2号棟 外壁改修工事) RC-4F部 対象床面積: 982.32㎡	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備
1号棟物置・2号棟物置 (撤去・新設工事) S-1F部 対象40棟	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備	準備



敷地案内図 S=1:15,000 出典: 国土地理院



擁壁設置のメッシュフェンスH1,200  
外部足場設置時にメッシュパネルL12,000  
<取外し><再取付>

ガードフェンス H1.8×L1.8m  
メッシュフェンス撤去部と外部足場間に  
転落防止のため設置

コンクリート打放し仕上げ

劣化現象	調査項目	改修工法	備考	調査図凡例
ひび割れ	ひび割れ幅0.2mm未満	シーリング工法（挙動の少ない場合：パテ状エポキシ樹脂）		ひび割れ幅・長さ
	0.2mm≦ひび割れ幅<0.5mm	B-1 打放し面樹脂注入工法（自動式・低粘度形エポキシ樹脂）		ひび割れ幅・長さ
	0.5mm≦ひび割れ幅<1.0mm	B-1 打放し面樹脂注入工法（自動式・中粘度形エポキシ樹脂）		ひび割れ幅・長さ
	1.0mm≦ひび割れ幅	B-2 打放し面Uカットシーリング材充填工法		調査結果、該当なし
浮き	錆び鉄筋による浮き	C-1 打放し面鉄筋部処理		RC浮き m <input type="checkbox"/>
欠損	はがれ、はく落のため欠損が生じている	E-1 打放し面充填工法	エポキシ樹脂モルタル	調査結果、該当なし
	はがれ、はく落があり漏水がある	ひび割れ改修+E-1 打放し面充填工法	エポキシ樹脂モルタル	調査結果、該当なし
	鉄筋露出	E-2 打放し面欠損処理	ポリマーセメントモルタル充填	鉄筋露出 m <input type="checkbox"/>
	はがれが欠損状に生じた、浅い欠損	E-1 打放し面充填工法	ポリマーセメントモルタル充填	RC欠損 m <input type="checkbox"/>

モルタル塗り仕上げ

劣化現象	調査項目	改修工法	備考	調査図凡例
欠損	はく落、欠損	E-3 モルタル面充填工法	ポリマーセメントモルタル	M欠損 m <input type="checkbox"/>
浮き	通常レベルの打撃力よってはく落するおそれのあるモルタルの浮き 0.25㎡未満	D-1 モルタル面はつり	ポリマーセメントモルタル	M浮き m <input type="checkbox"/>
	通常レベルの打撃力よってはく落するおそれのあるモルタルの浮き 0.25㎡以上	D-1 モルタル面はつり		調査結果、該当なし
	1箇所浮き面積 0.25㎡未満	D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法		調査結果、該当なし
	1箇所浮き面積 0.25㎡以上	D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法		調査結果、該当なし
ひび割れ	ひび割れ幅0.2mm未満	劣化部補修しない（A-2 モルタル面表面劣化部処理[サンダー工法]）またはシーリング工法（挙動の少ない場合：パテ状エポキシ樹脂）		調査結果、該当なし
	0.2mm≦ひび割れ幅<0.5mm	B-4 モルタル面樹脂注入工法（自動式・低粘度形エポキシ樹脂）		調査結果、該当なし
	0.5mm≦ひび割れ幅<1.0mm	B-4 モルタル面樹脂注入工法（自動式・中粘度形エポキシ樹脂）		調査結果、該当なし
	1.0mm≦ひび割れ幅	B-6 打放し面Uカットシーリング材充填工法		調査結果、該当なし

揚げ裏 塗膜（外装薄塗材E）

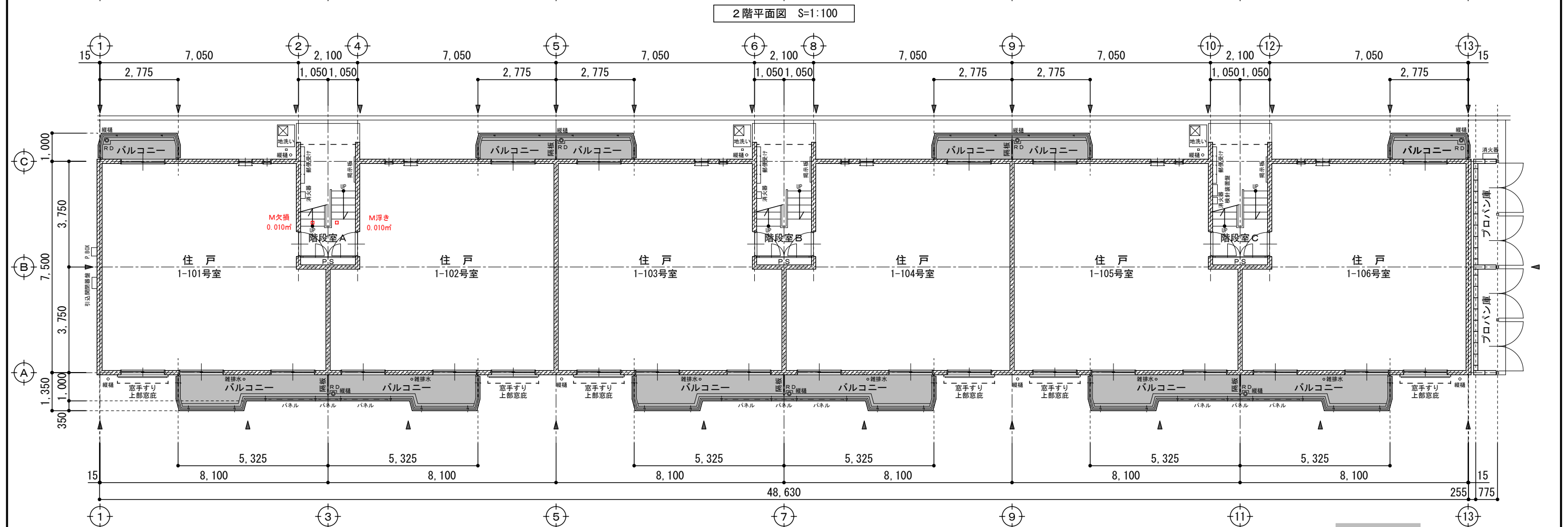
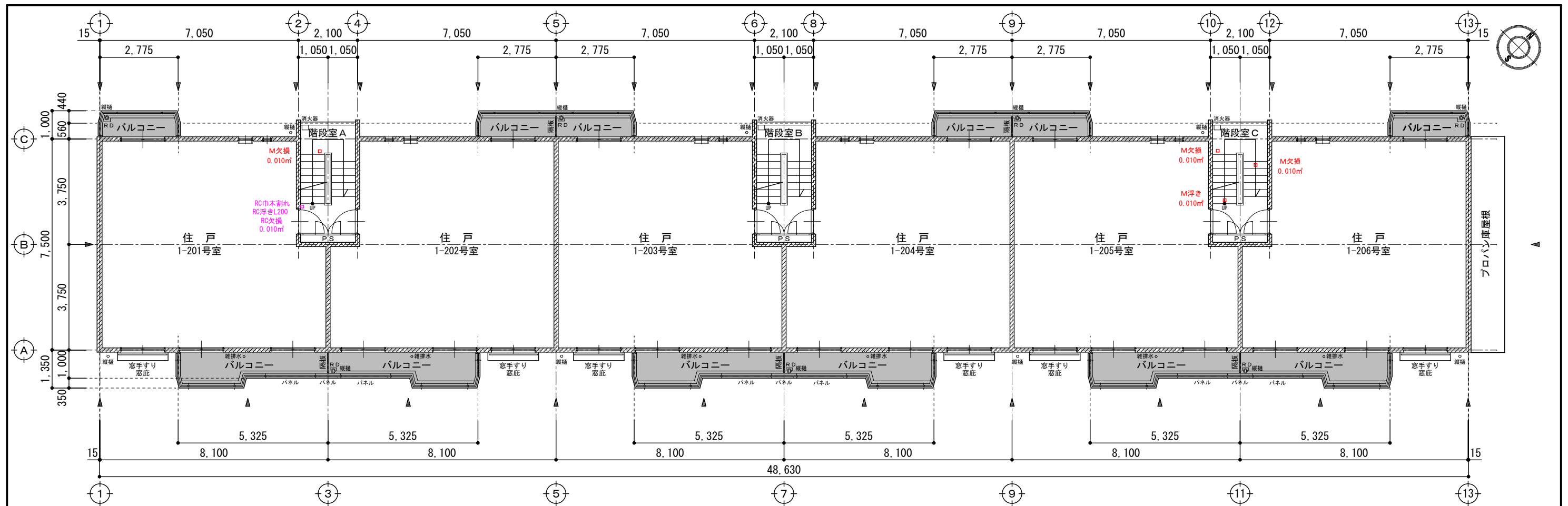
劣化現象	調査項目	改修工法	備考	調査図凡例
ふくれ・はがれ	ふくれ・はがれ	劣化塗膜の除去 または塗膜全面の除去		塗膜はがれm <input checked="" type="checkbox"/>
浮き	下地調整材の浮き	劣化部分の除去 または全面の除去	セメント系下地調整材こて塗り	塗膜浮き m <input type="checkbox"/>

外壁 塗膜（複層塗材E）

劣化現象	調査項目	改修工法	備考	調査図凡例
ふくれ・はがれ	ふくれ・はがれ	劣化塗膜の除去 または塗膜全面の除去		塗膜はがれm <input checked="" type="checkbox"/>
浮き	下地調整材の浮き	劣化部分の除去 または全面の除去	セメント系下地調整材こて塗り	塗膜浮き m <input type="checkbox"/>

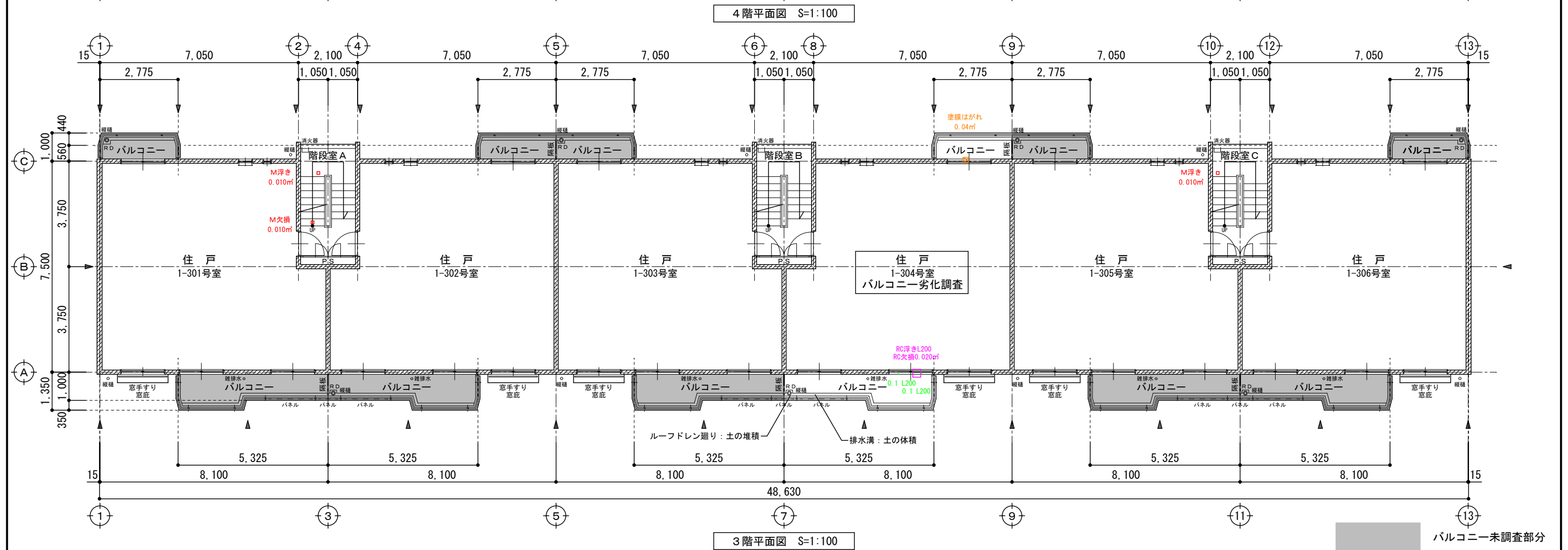
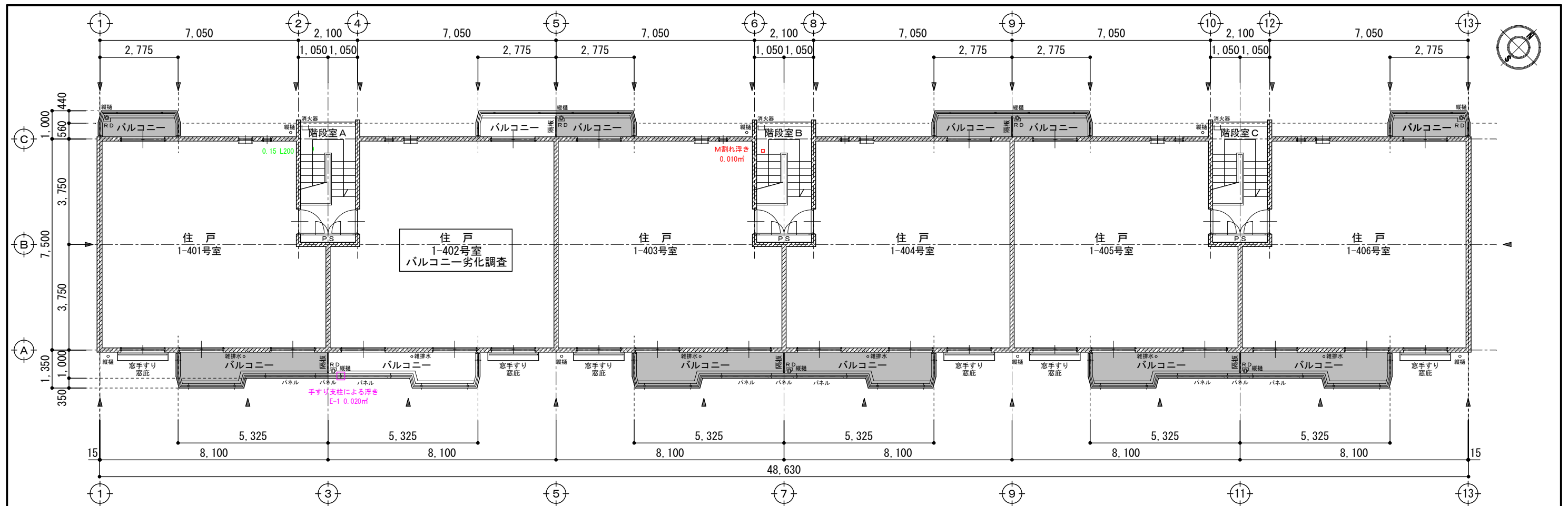
腰壁 下地調整材のみ

劣化現象	調査項目	改修工法	備考	調査図凡例
はがれ	下地調整材のはがれ	劣化部分の除去 または全面の除去		塗膜はがれm <input checked="" type="checkbox"/>
浮き	下地調整材の浮き	劣化部分の除去 または全面の除去		塗膜浮き m <input type="checkbox"/>

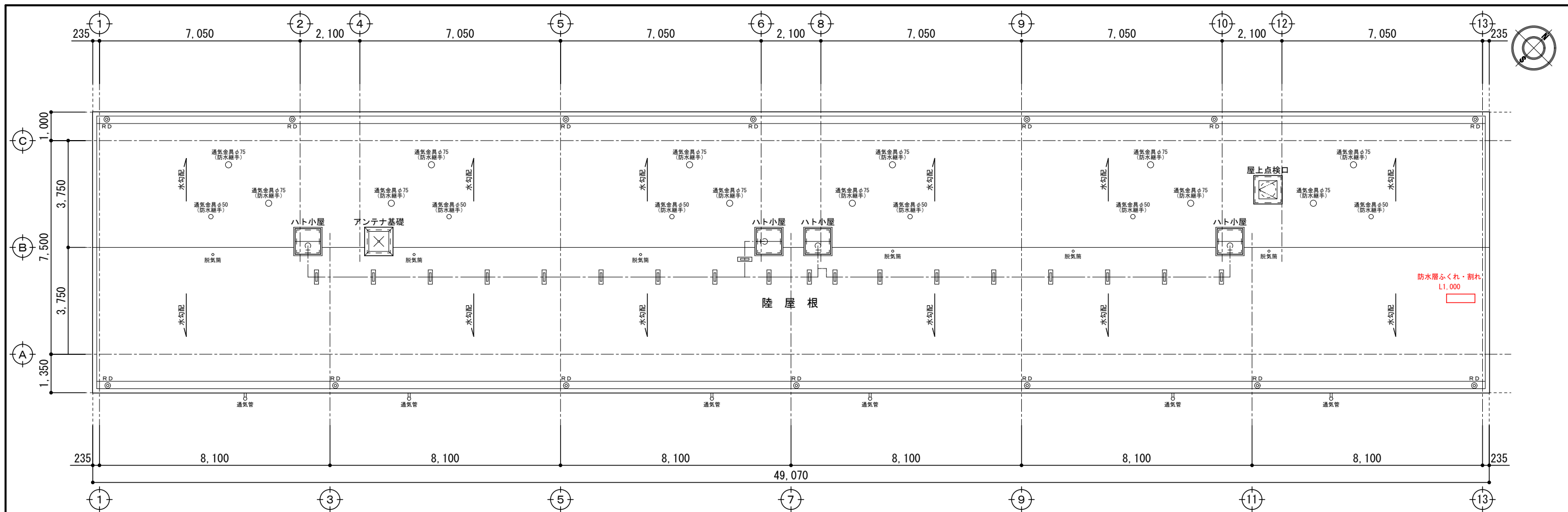


東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小	設計	種別
	M A S A A	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	調査図【1号棟】1・2階平面図	1:100	令和7年	T 図面番号 2

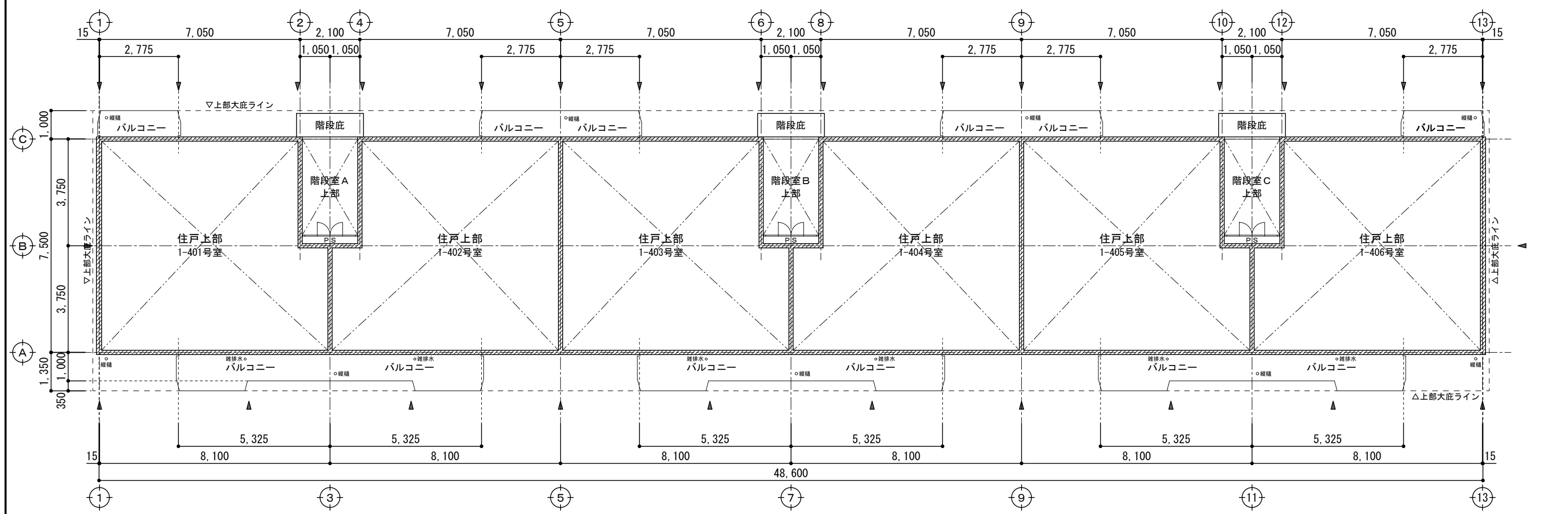
バルコニー未調査部分



東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A2: 100%	設計	種別
	MASAA	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美			令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事		
					1:100	令和7年	T 3

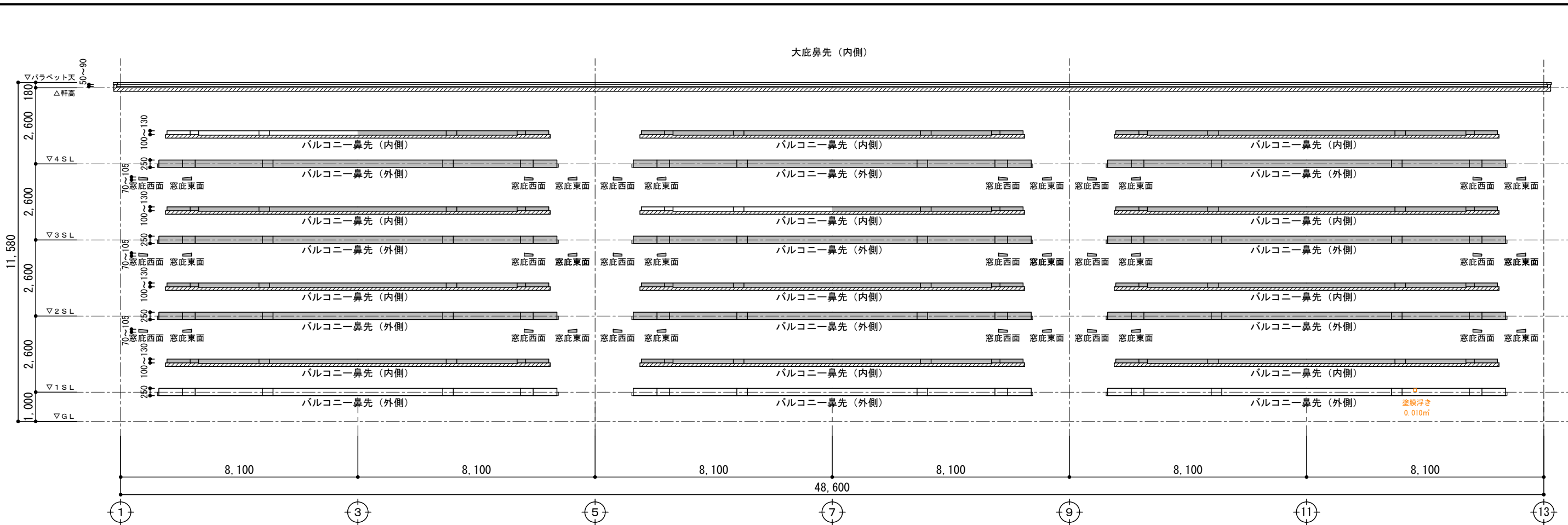


屋根伏図 S=1:100



4階上部平面図 S=1:100

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 M A S A A	工事名	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小	設計	種別
	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事					調査図【1号棟】4階上部平面図・屋根伏図 1:100
							T
							4



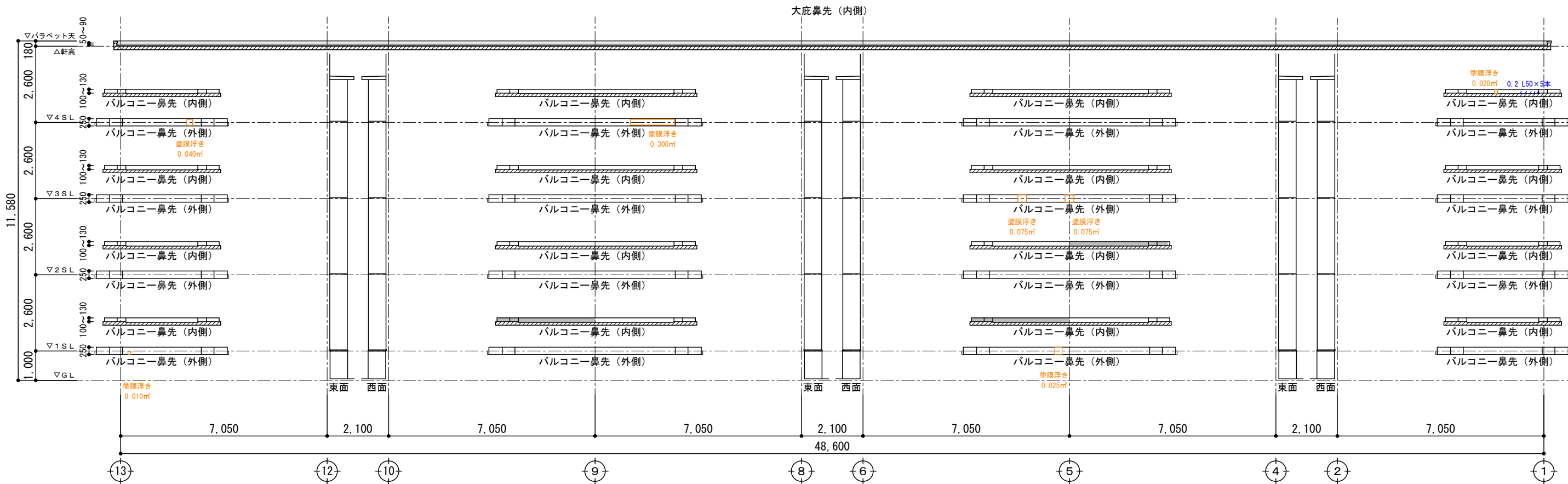
南側展開図 S=1:100



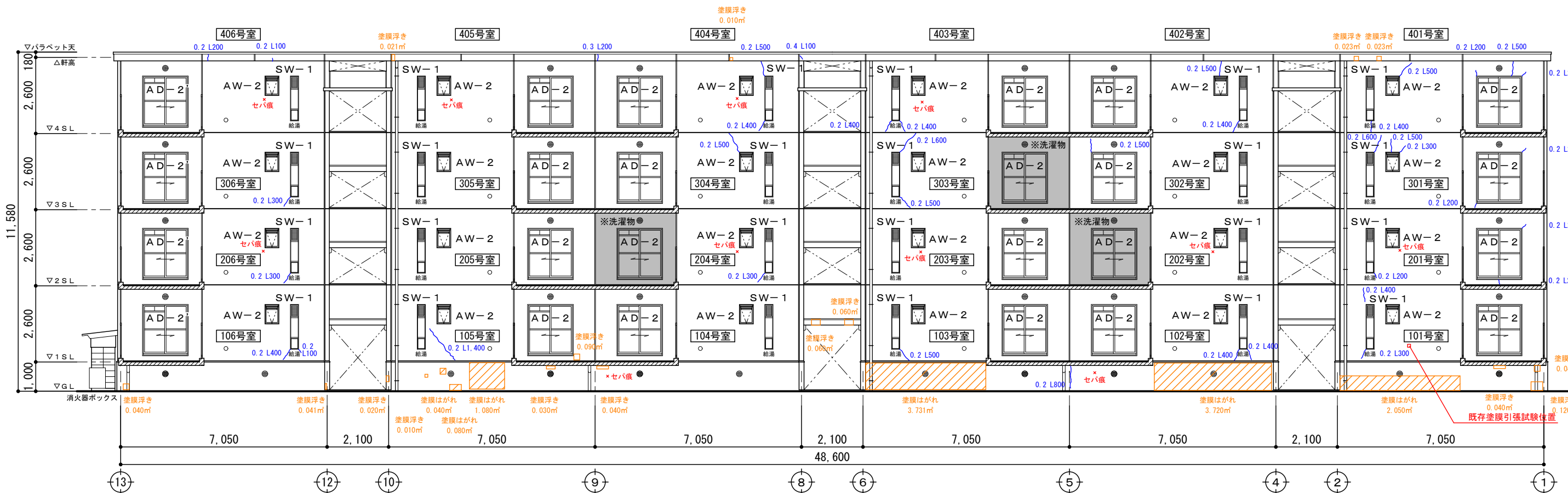
南側立面図 S=1:100

未調査部分

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小	設計	種別
	MASAA	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	調査図【1号棟】南側立面図・展開図	1:100	令和7年	T 図面番号 5



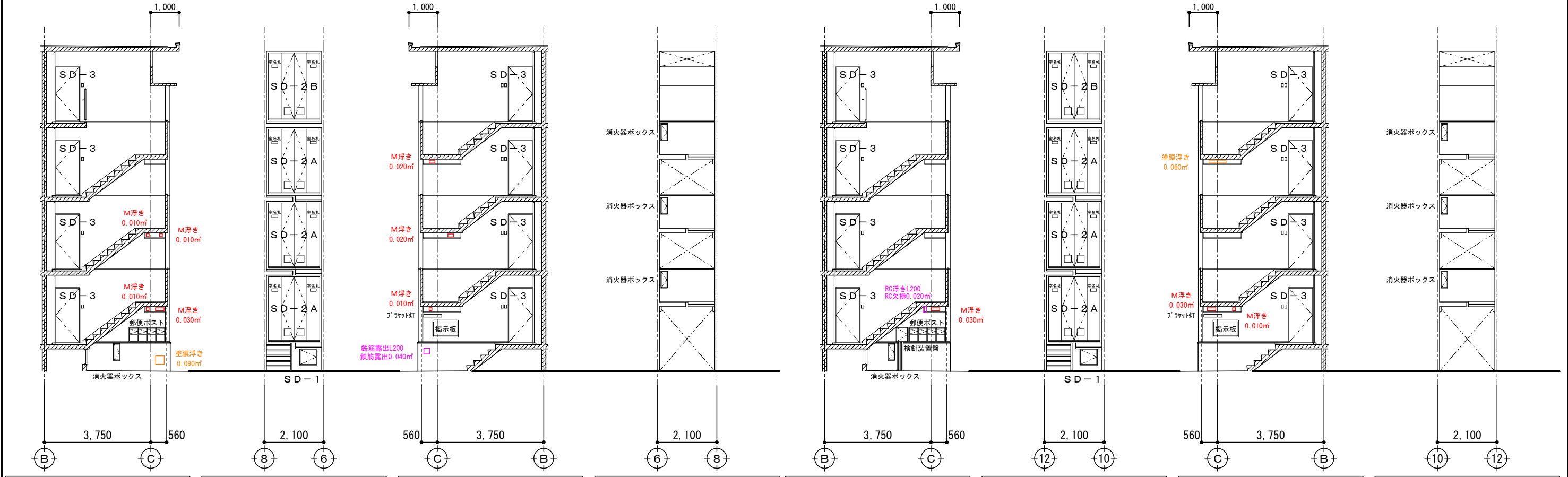
北側展開図 S=1:100



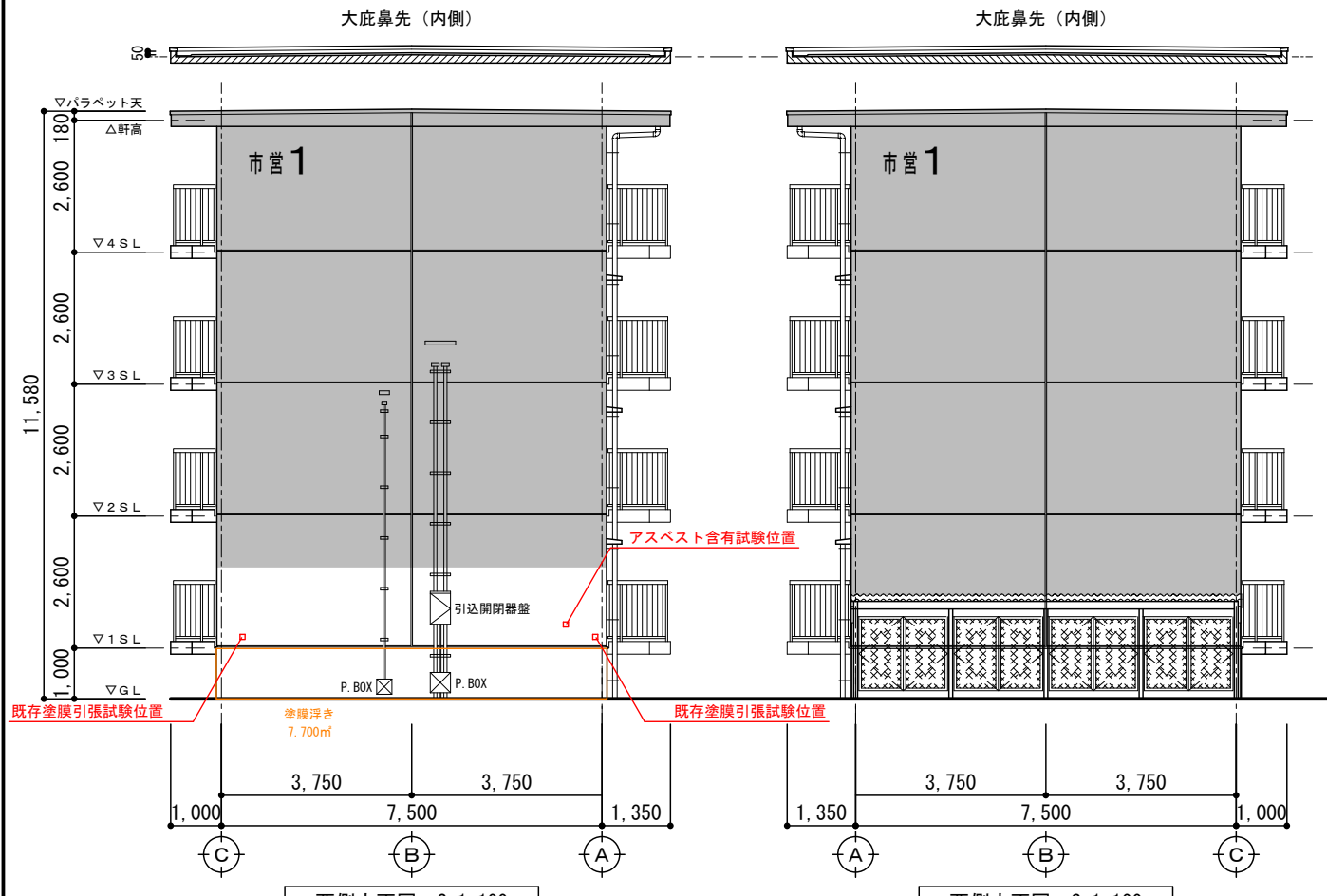
北側立面図 S=1:100

未調査部分

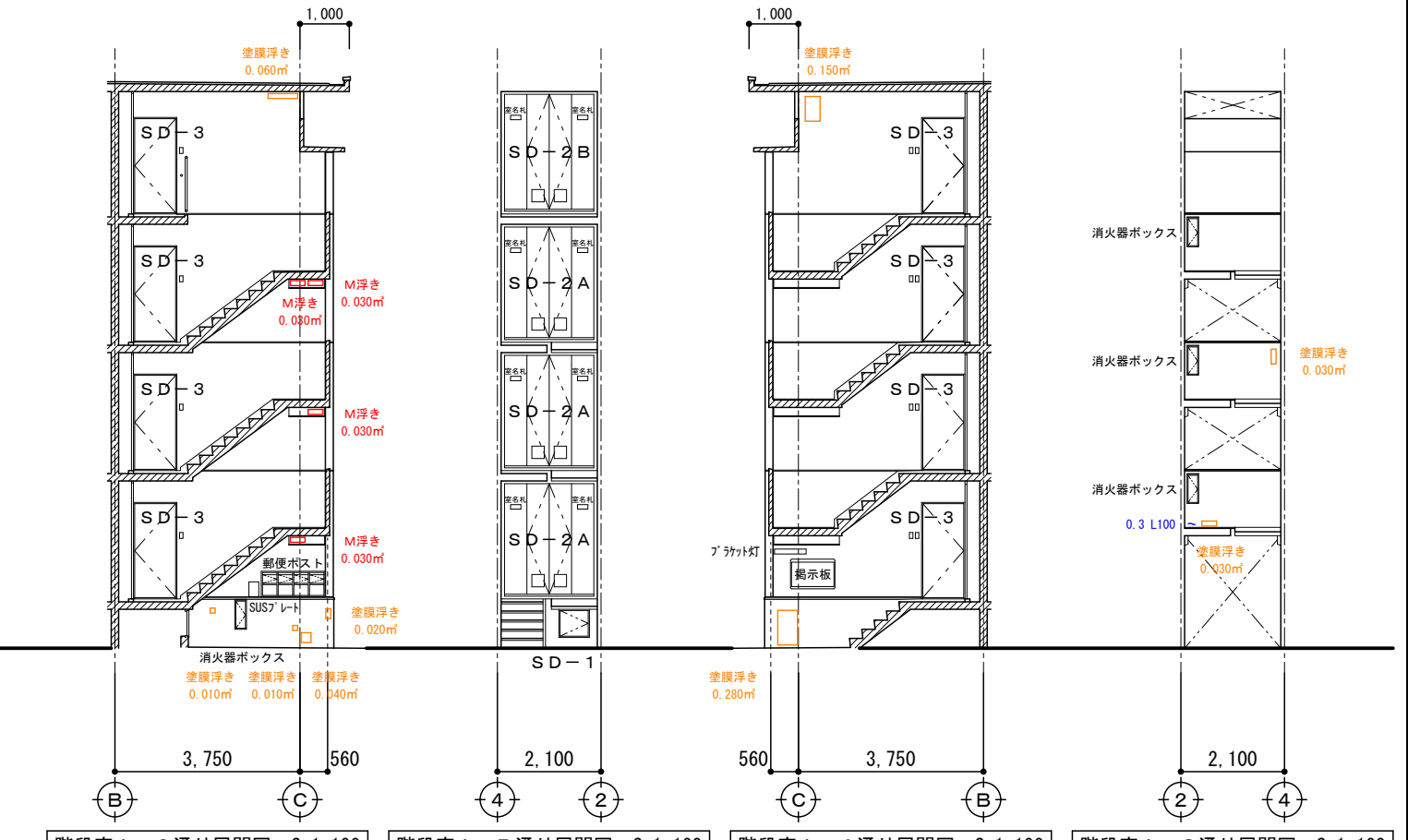
東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 M A S A A	工事名	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小 1:100	設計	令和7年	種別	T
	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事							調査図【1号棟】北側立面図・展開図



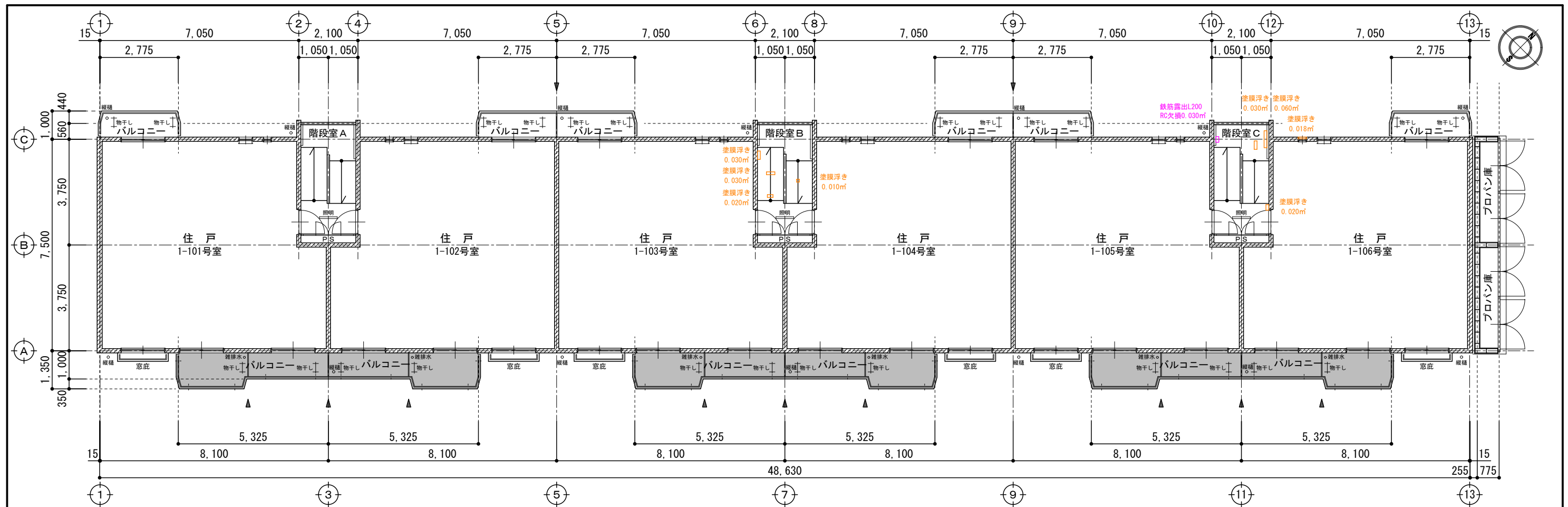
階段室B 6通り展開図 S=1:100 | 階段室B B通り展開図 S=1:100 | 階段室B 8通り展開図 S=1:100 | 階段室B C通り展開図 S=1:100 | 階段室C 10通り展開図 S=1:100 | 階段室C B通り展開図 S=1:100 | 階段室C 12通り展開図 S=1:100 | 階段室C C通り展開図 S=1:100



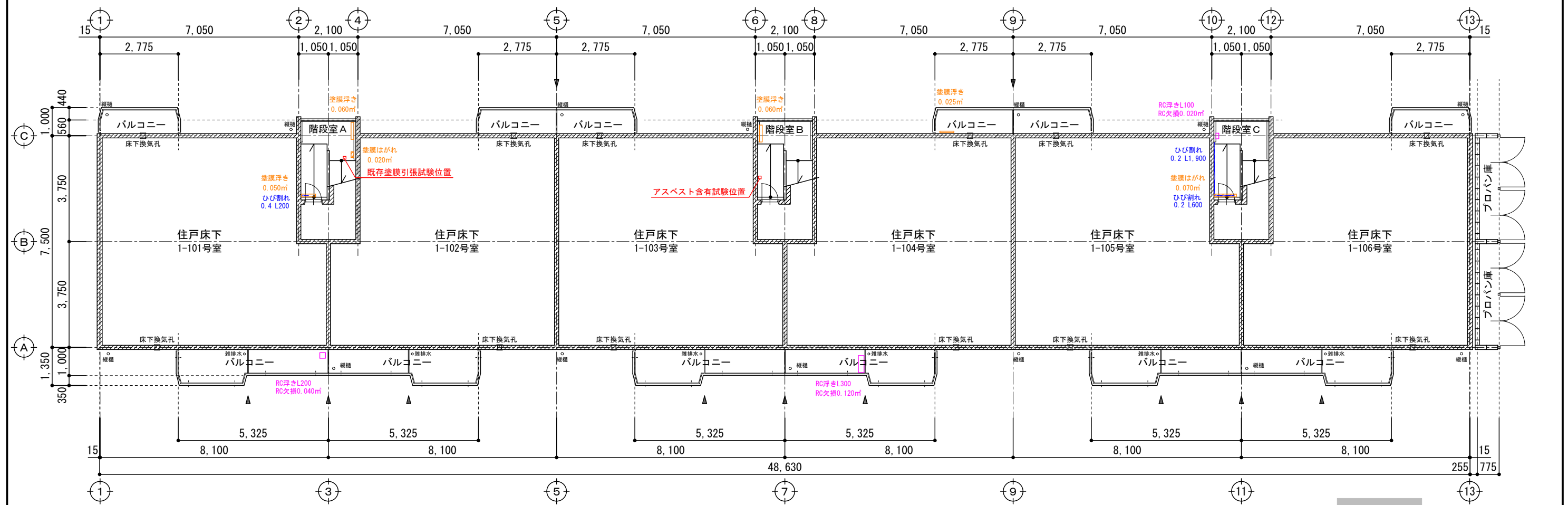
西側立面図 S=1:100 | 西側立面図 S=1:100



階段室A 2通り展開図 S=1:100 | 階段室A B通り展開図 S=1:100 | 階段室A 4通り展開図 S=1:100 | 階段室A C通り展開図 S=1:100



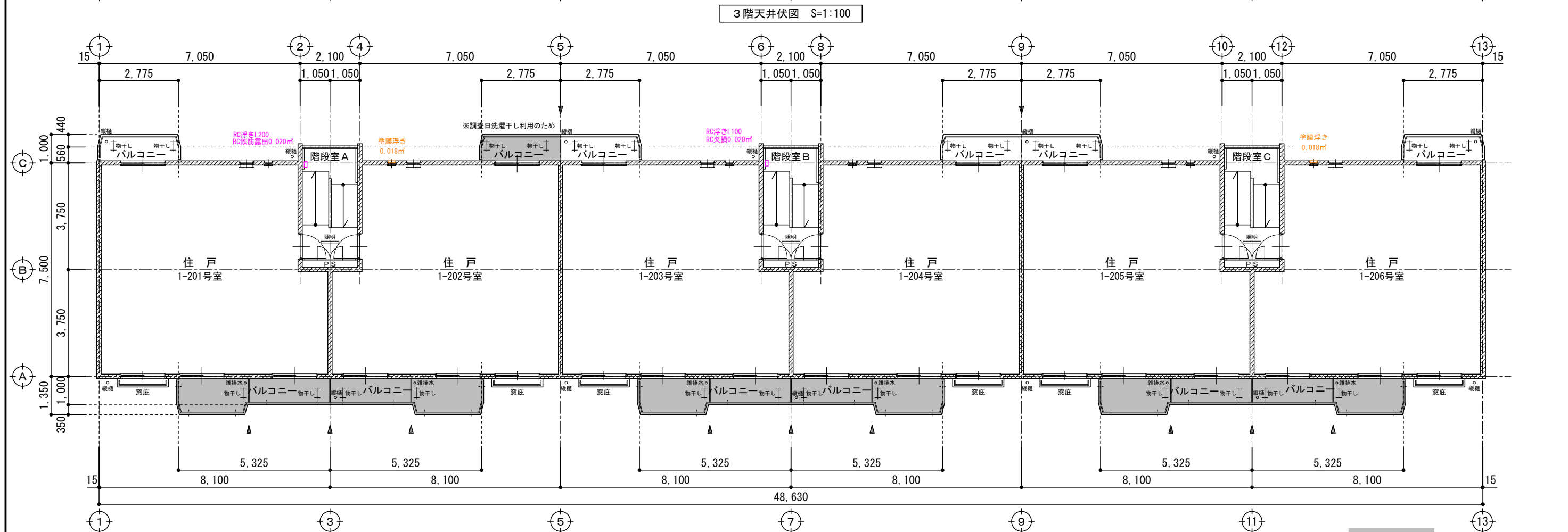
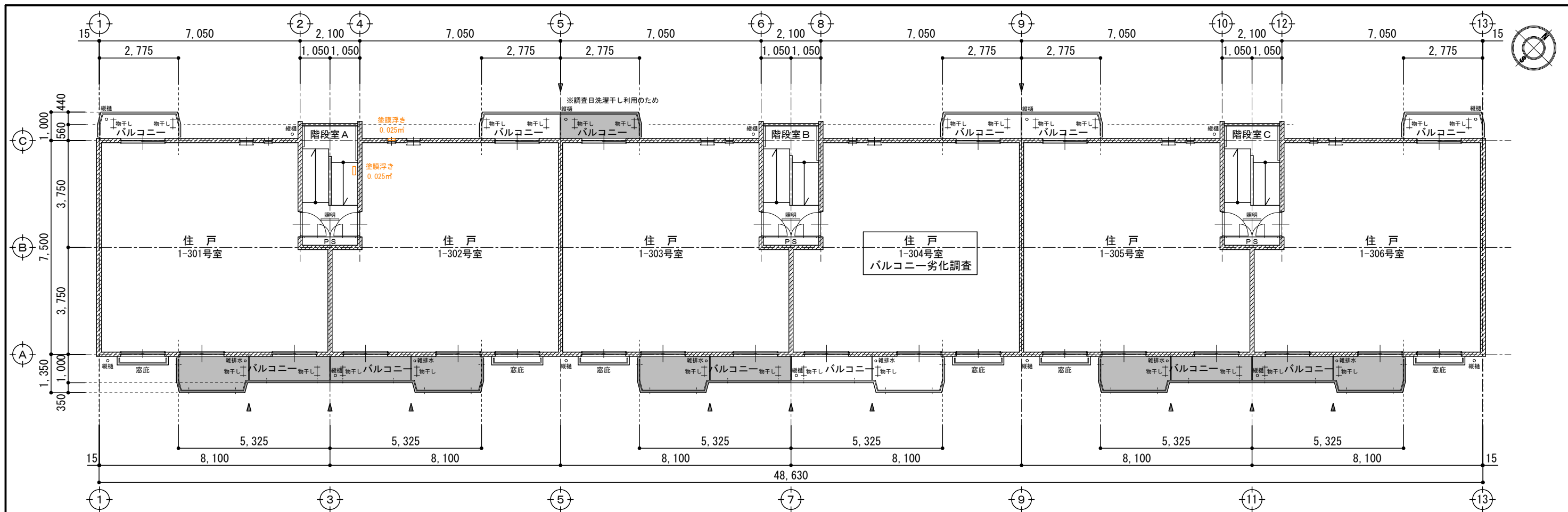
1階天井伏図 S=1:100



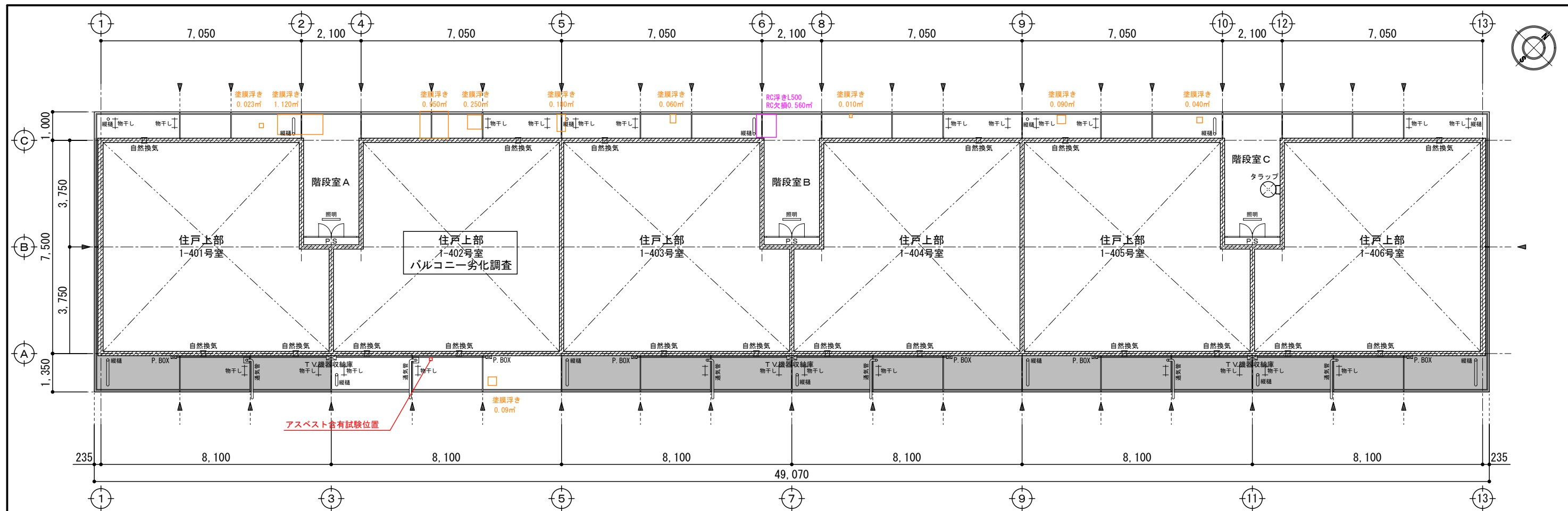
1階床下天伏図 S=1:100

バルコニー未調査部分

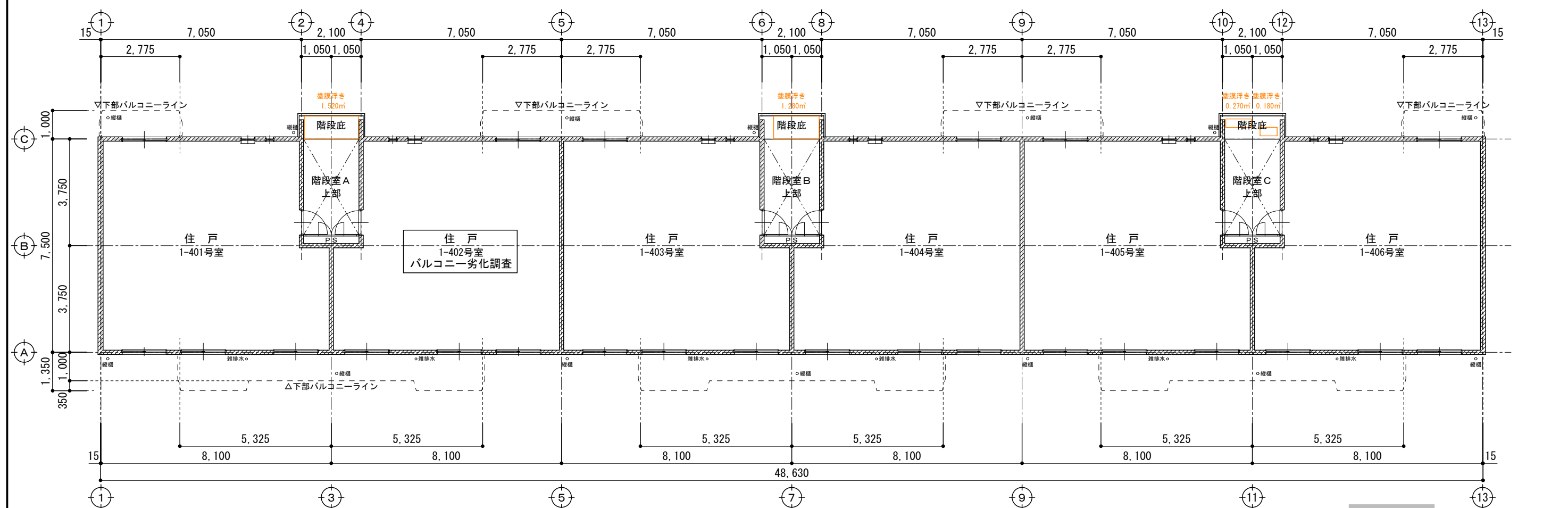
東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小	設計	種別
	M A S A A	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美					令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事



東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 M A S A A	工事名	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小	設計	種類
		1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美		調査図【1号棟】2・3階 天井伏図	1:100	令和7年	図面番号	T 9



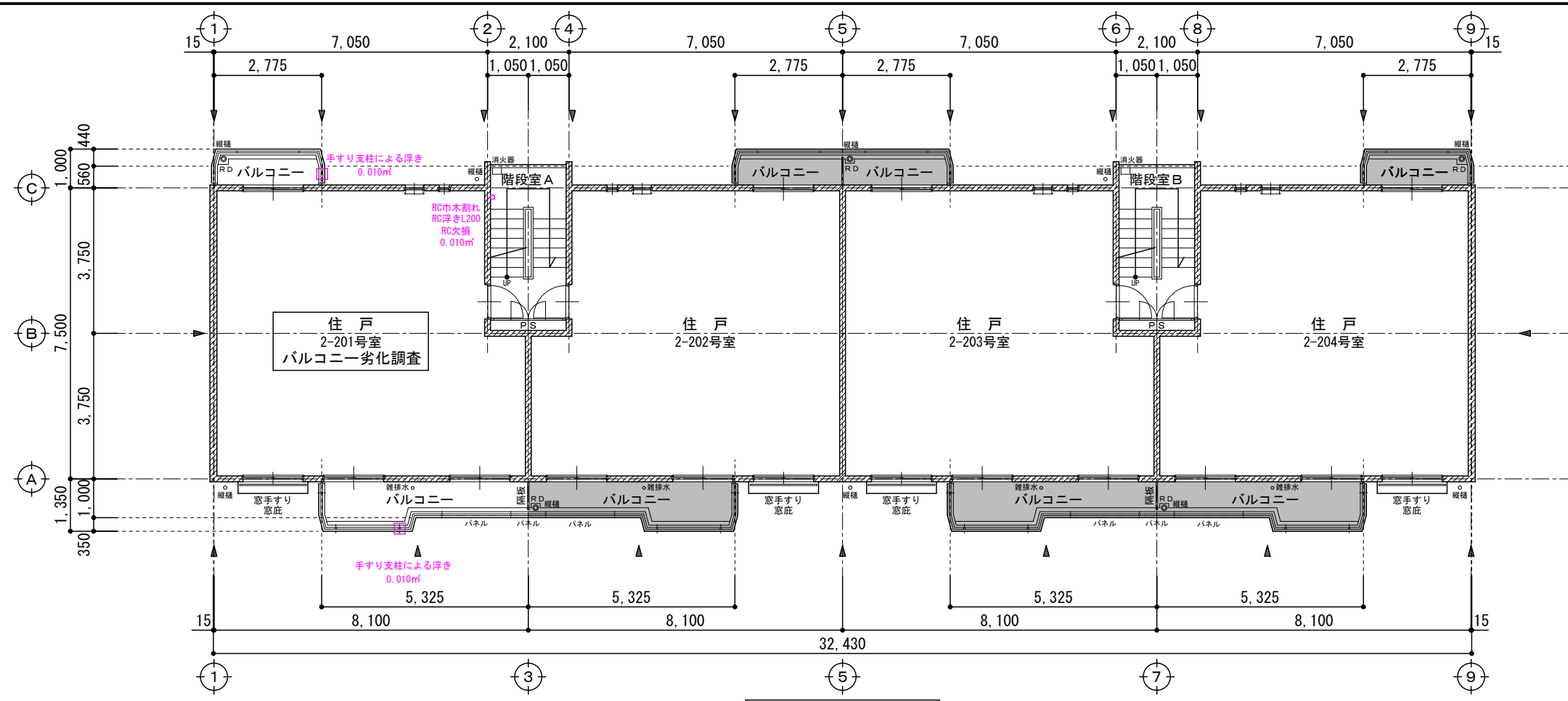
4階上部天井伏図 S=1:100



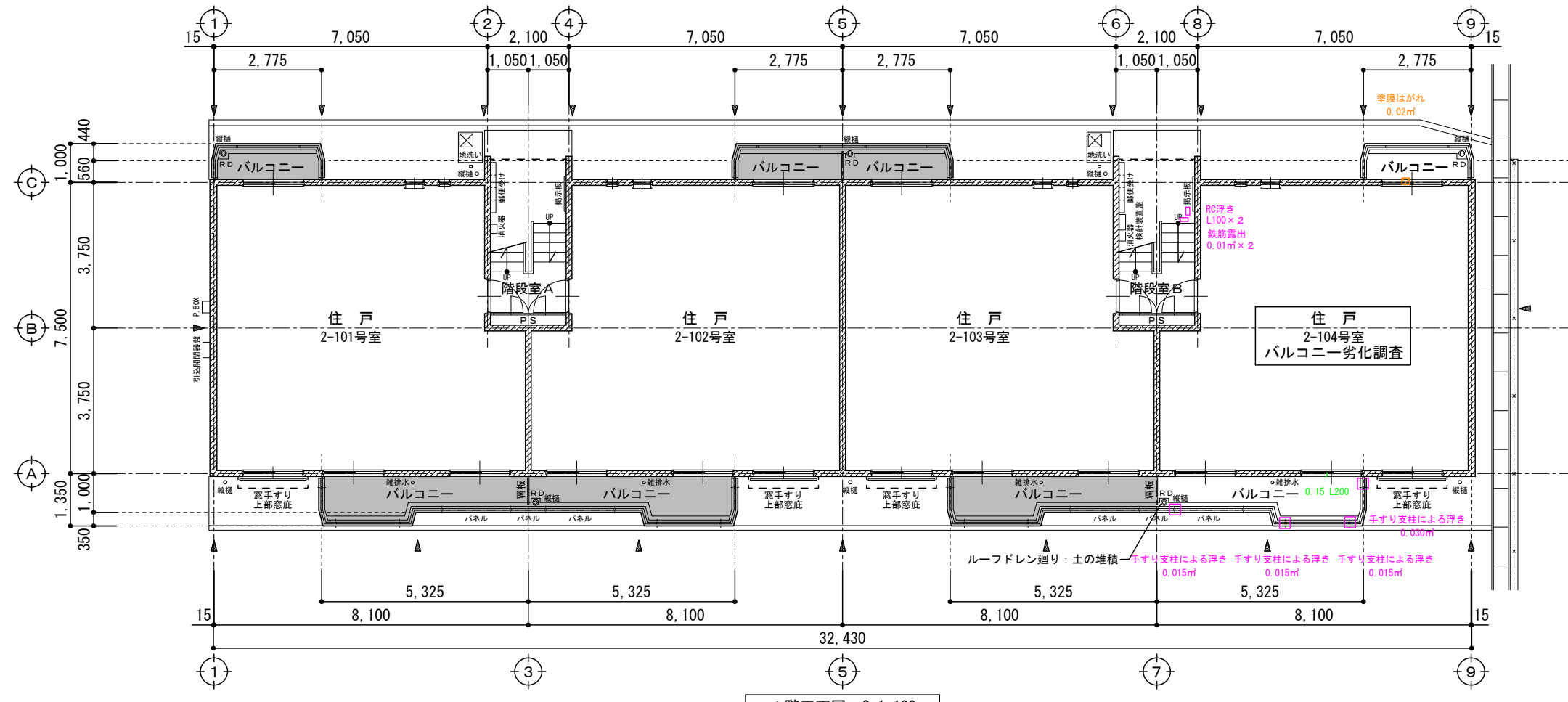
4階天井伏図 S=1:100

未調査部分

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小	設計	種別
	M A S A A	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美					



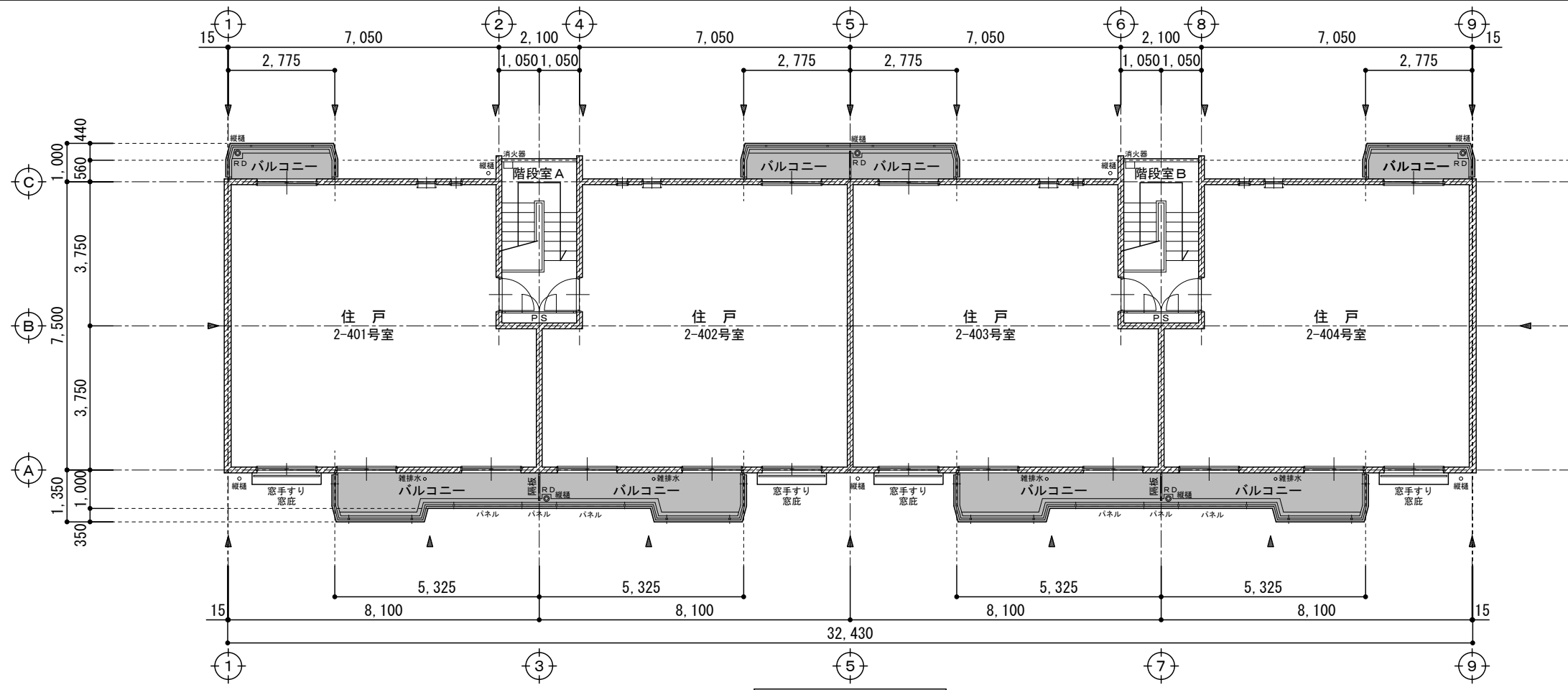
2階平面図 S=1:100



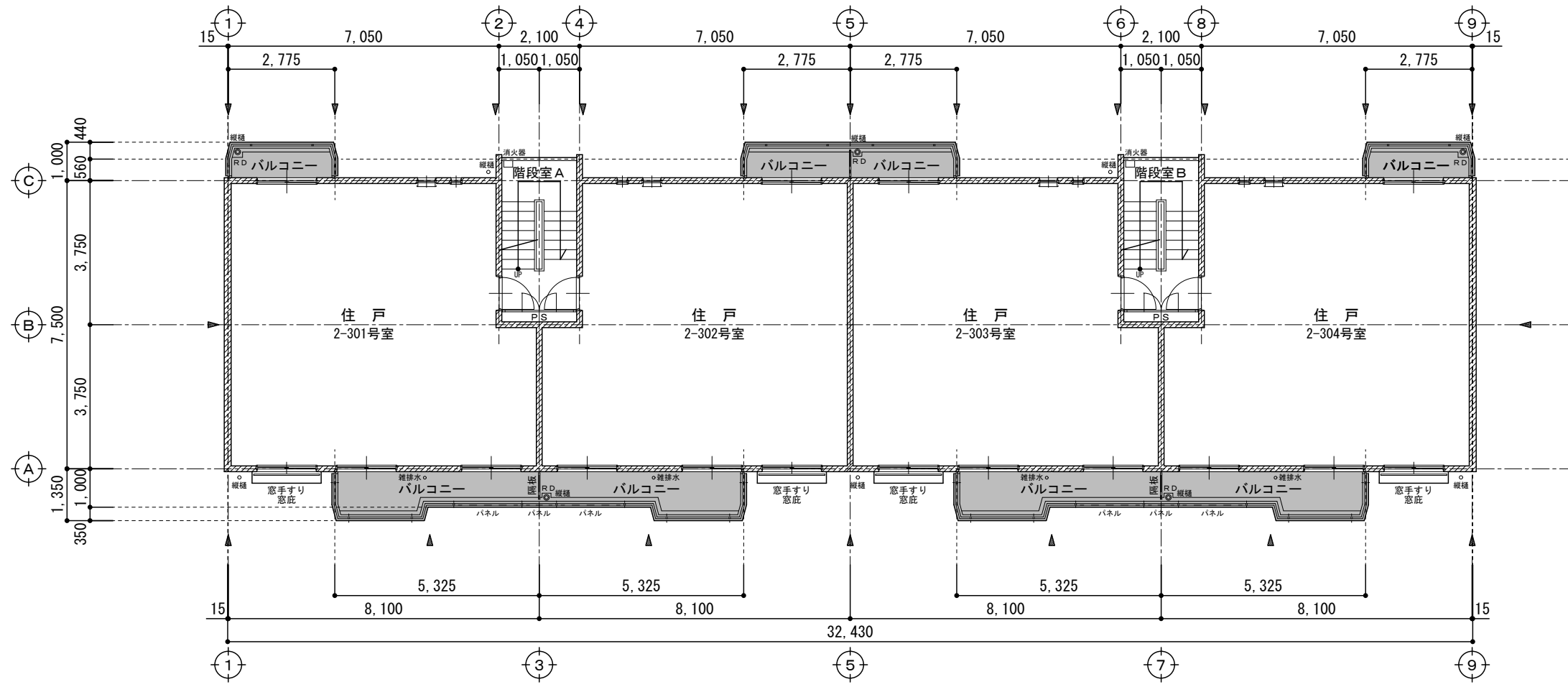
1階平面図 S=1:100

バルコニー未調査部分

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小	設計 令和7年	種別 T 図面番号 11
	MASAA	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美		調査図【2号棟】1・2階平面図	1:100			



4階平面図 S=1:100

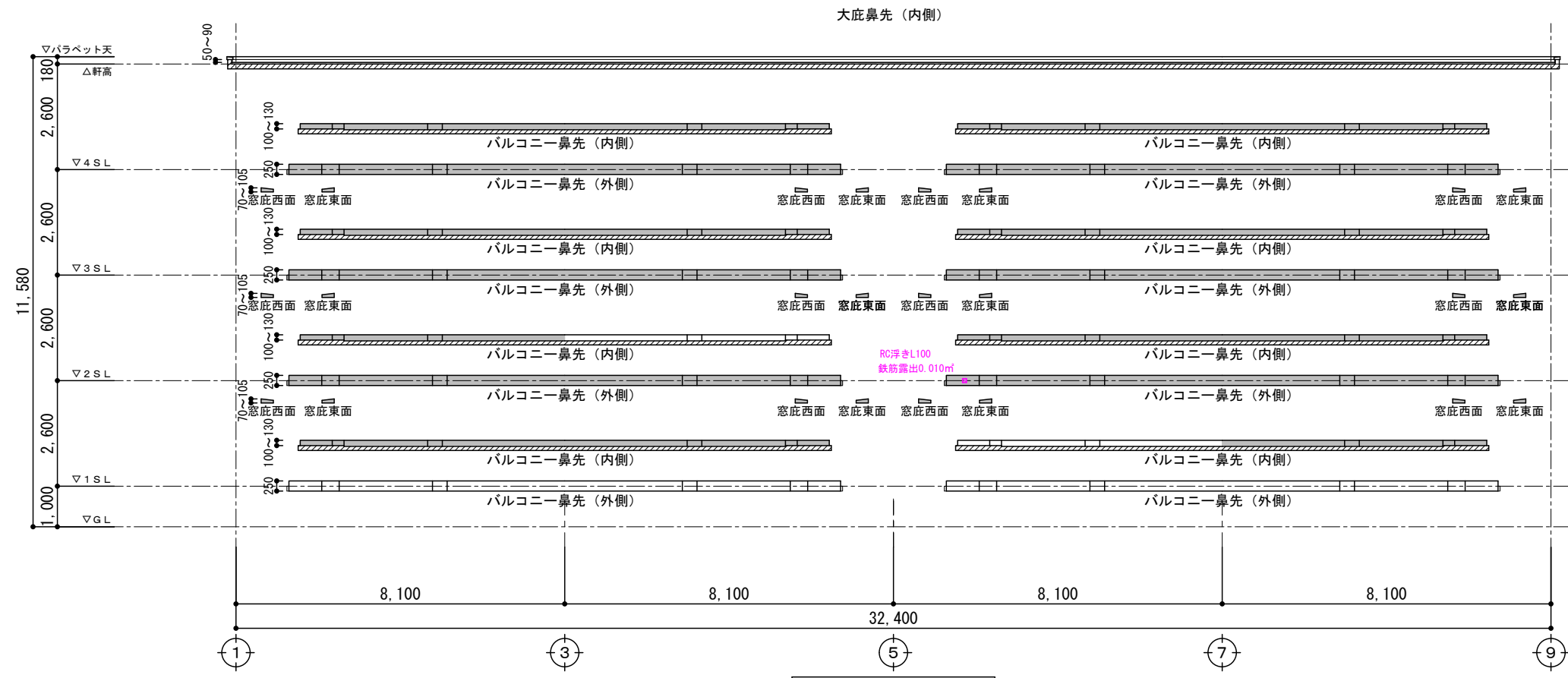


3階平面図 S=1:100

バルコニー未調査部分

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 M A S A A	工事名	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小 1:100	設計	令和7年	種別	T
		1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美		調査図【2号棟】3・4階平面図					図面番号	12

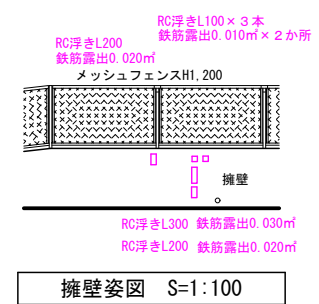




南側展開図 S=1:100



南側立面図 S=1:100

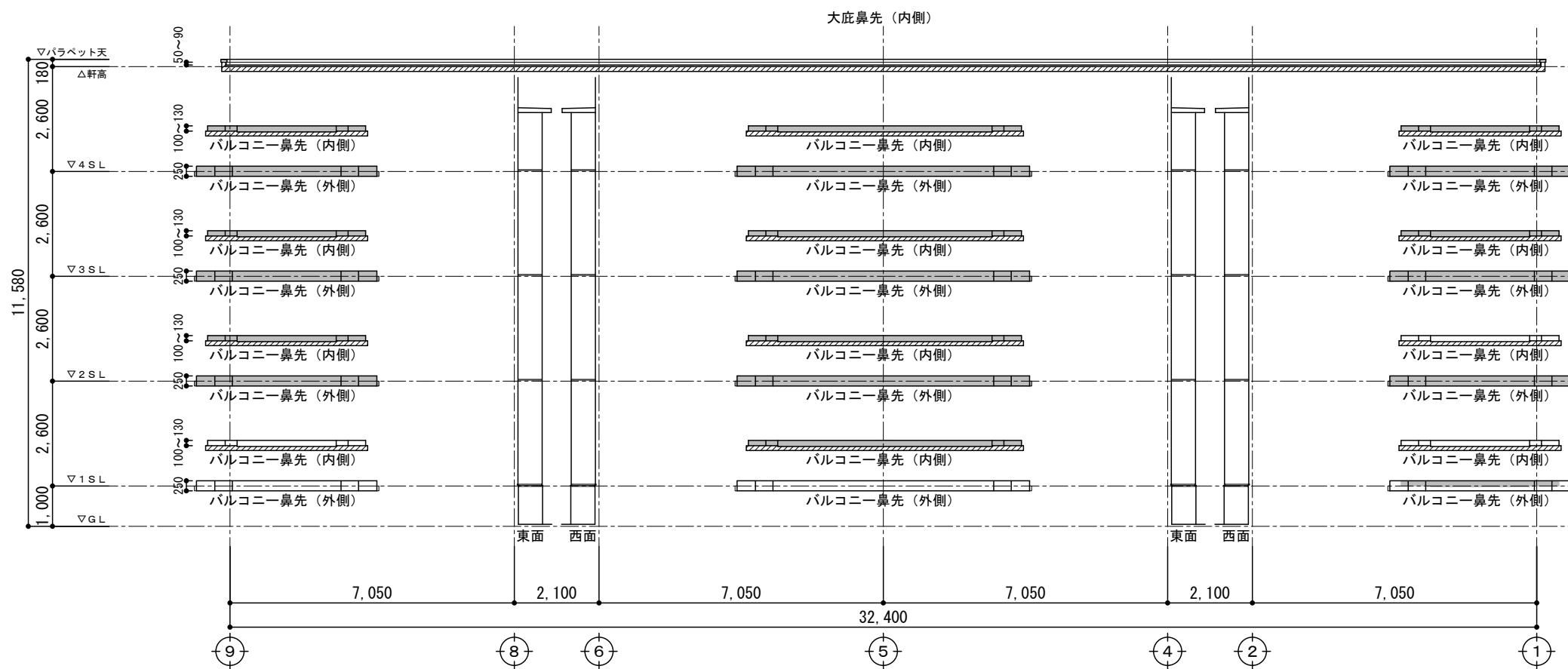


擁壁姿図 S=1:100

既存塗膜引張試験位置

未調査部分

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室 1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美	工事名	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺	A2: 100% A3: 71%縮小	設計	令和7年	種別	T
	MASAA			調査図【2号棟】南側立面図・展開図	1:100			図面番号	14	

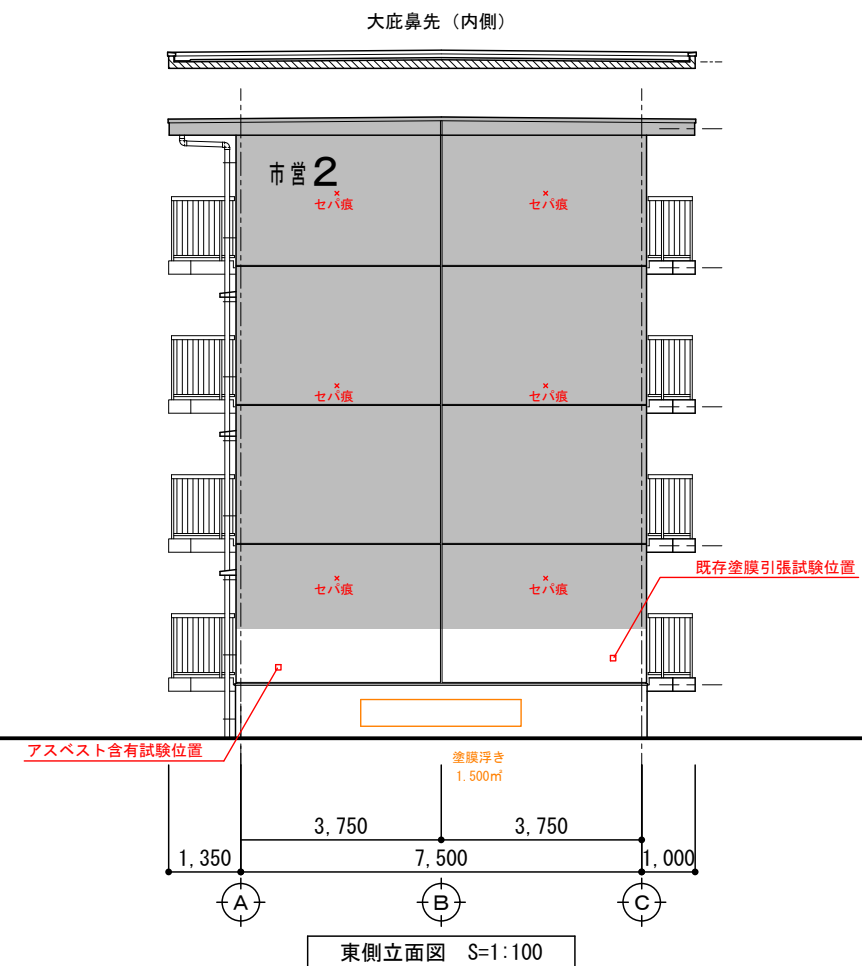
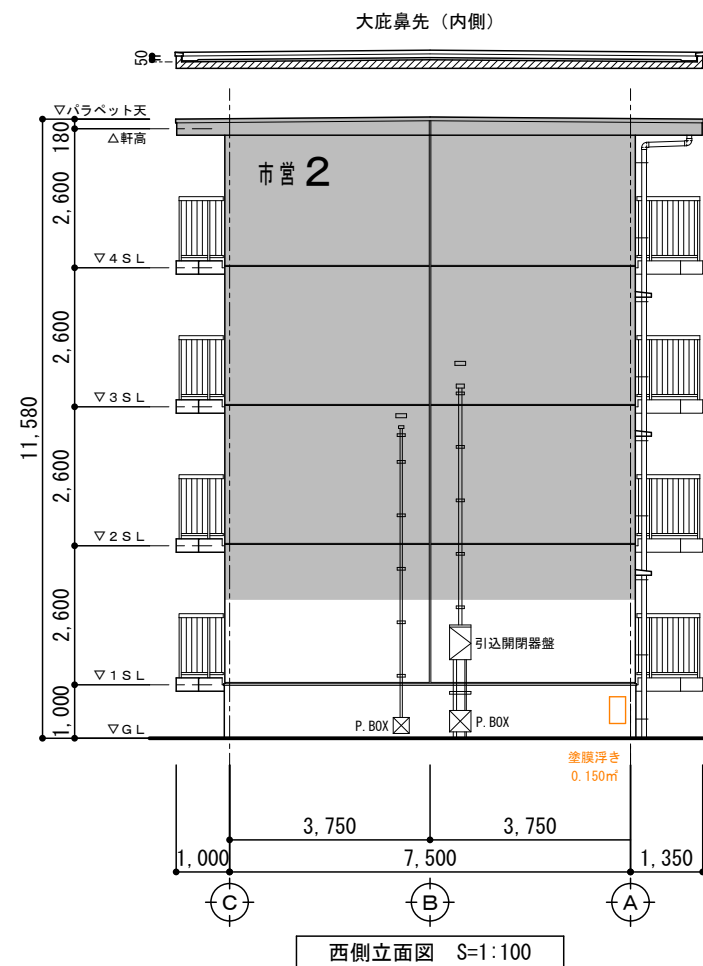
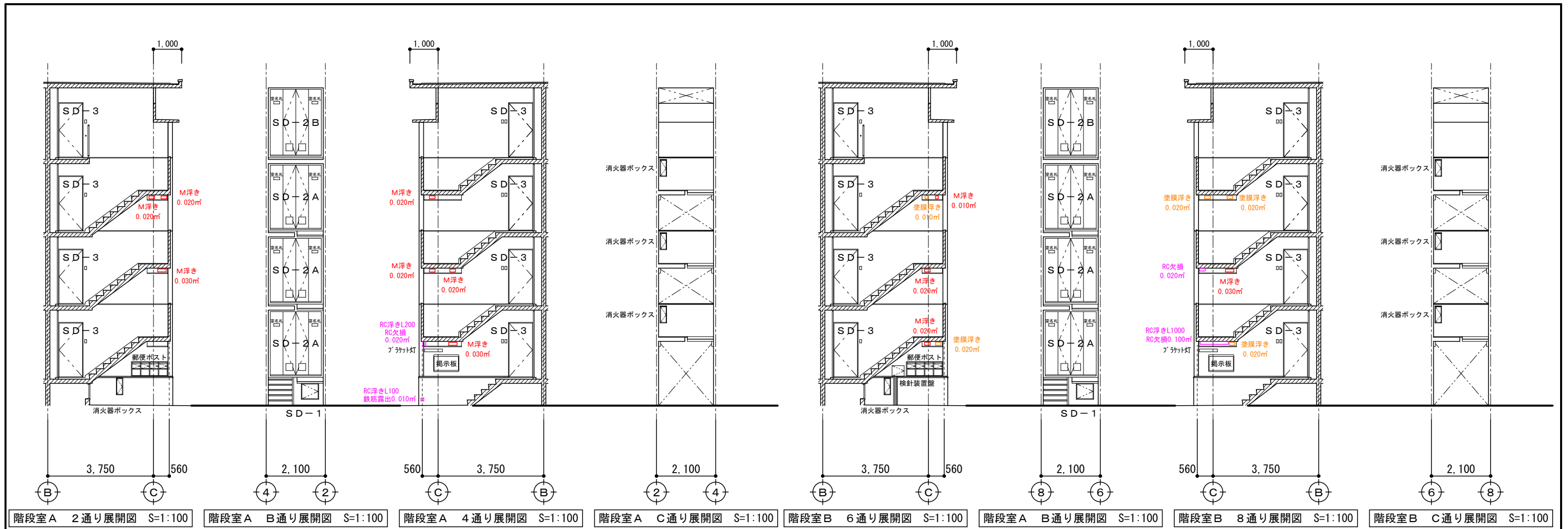


北側展開図 S=1:100

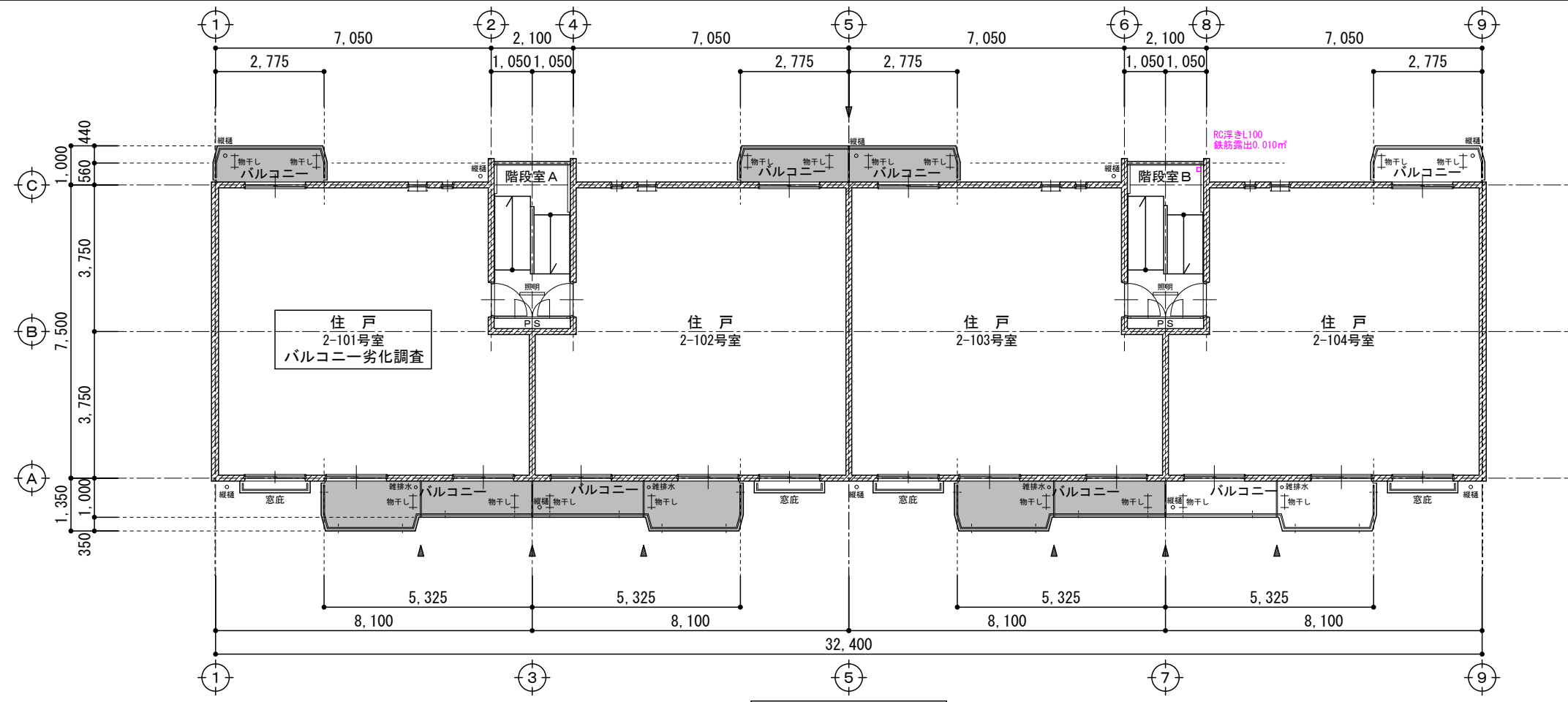
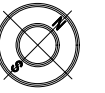


北側立面図 S=1:100

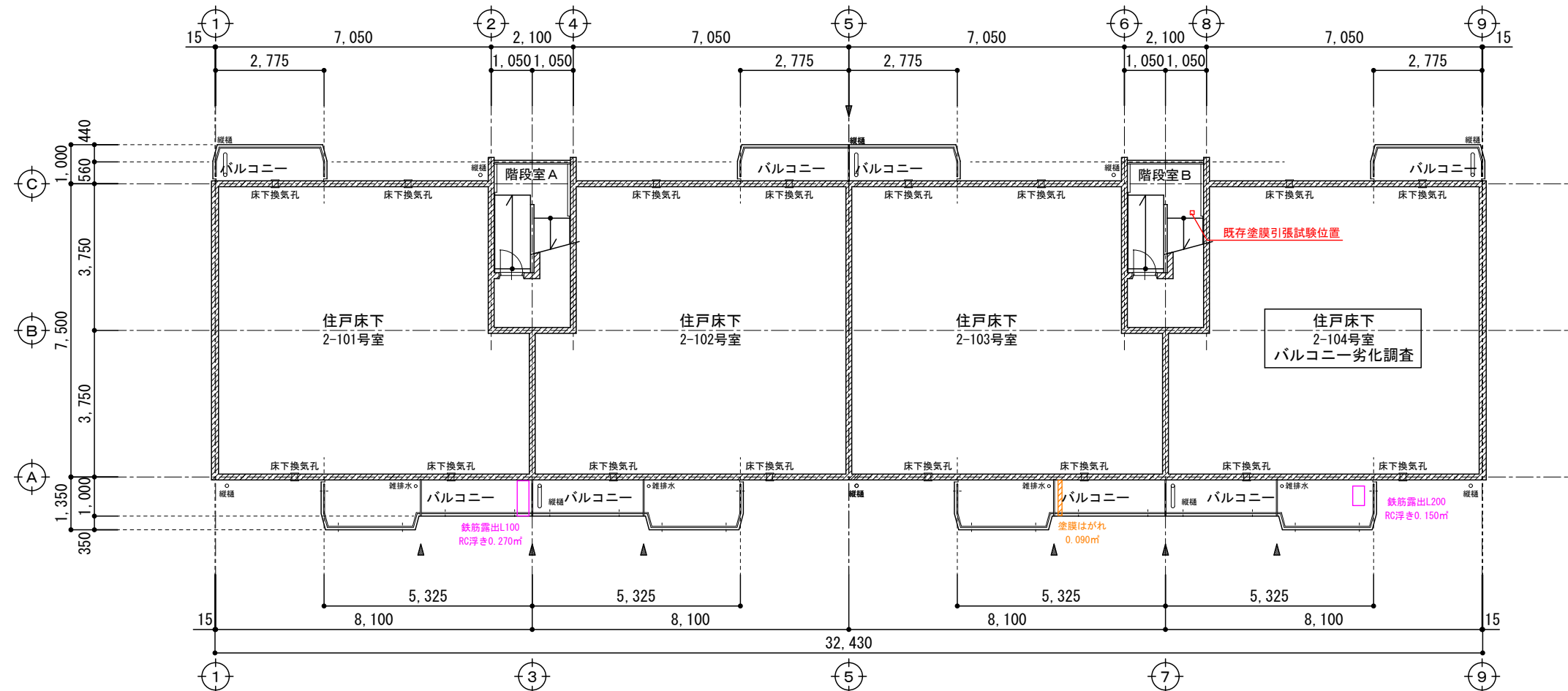
東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A2:100% A3:71%縮小 1:100	設計	種類
	MASAA	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美					



東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	図面内容・縮尺	A 2:100% A 3:71%縮小	設計	種別
	M A S A A	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美					



1階天井伏図 S=1:100



1階床下天伏図 S=1:100

バルコニー未調査部分

東広島市都市交通部営繕課	設計者・設計事務所名	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町25-25 保広コーポ103号室	工事名	令和8年度 市営住宅建設事業 市営恵下山住宅外壁等改修工事	図面内容・縮尺	A 2 : 100% A 3 : 71%縮小	設計	種別
	M A S A A	1級建築士事務所 広島県知事登録23(1)第4982号 1級建築士(登録第294712号) 高藤 聡美		調査図【2号棟】1階床下・1階 天井伏図 1:100	令和7年	図面番号	T	17